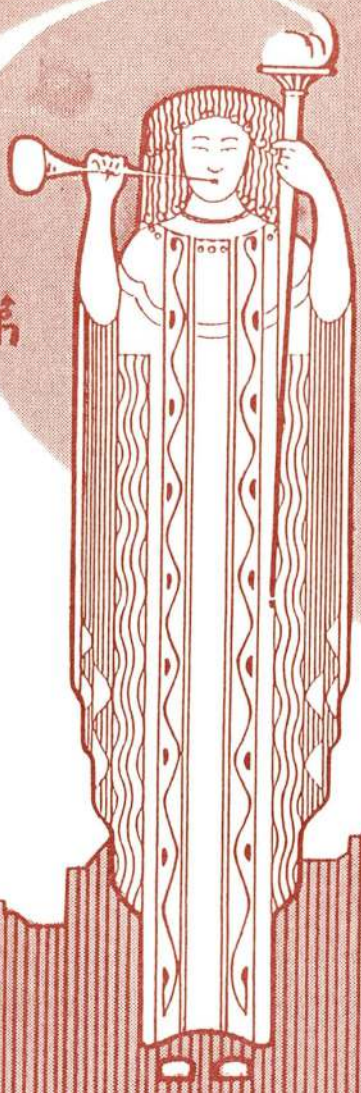
# 日本建築協會雜誌



第二輯　第三號

大正八年三月二十五日

# 日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ決議ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ興味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會ノ決議ヲ經テ之ヲ通知ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ股會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリ　得ラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失セタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ總理シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一名

三　編　輯　三名

四　編　輯　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ分掌ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名、委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於テ議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

一　調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

# 大阪暖房商會

# 大阪電氣商會

## 營業目課

房暖氣電。燥乾。生衛。風通。房所

工事設計請負

昇降機及リフト製作販賣

---

電氣諸機械材料販賣

電氣工事設計及監督請負

大阪電燈製作所委託販賣

工事代理

大阪電燈株式會社

宇治川電氣株式會社

日本電氣株式會社

名古屋電氣株式會社

## 本店

大阪市西區江戸堀
南通一丁目三七

電話 長堀 五四一一 佐土 四四四六

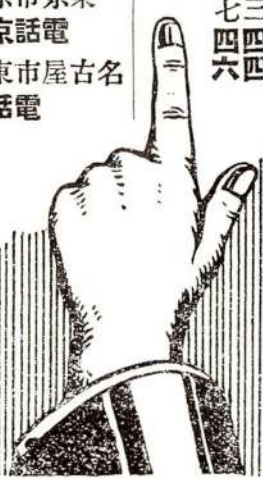
## 出張所

東京市京橋區西紺屋町五

電話 京橋長三二〇六

名古屋市東區東本町二丁目

電話 長三二六二



# 日本建築協會雜誌 第貳輯 第參號

## 目次


口繪
- 口船津橋より見たる安治川（三色版）
- 口東京市街の現狀（其五、其六、其七、其八、其九、其十）
- 口東京市の珍建築

△都市住宅の改善と結核豫防法……會員 片岡安……一
△東京大改造論(三)……會員 葛野壯一郎……一五
△活動寫眞劇場の改良(下)……會員 S T 生譯……二一
△倫敦に於ける住居問題委員會の報告(上)……會員 波江悌夫……二八
△建築樣式の意義を論ず（一）……三二
△都市と建築……神戸高等商業學校教授 阪西由藏氏演……三三
- 口都市と住宅問題
- 口都市の下水道に就て……京都大學教授工學博士 大井清一氏演……三八

△名士の住宅……四四
- 口二重生活と建築……內務省警保局長法學士 川村竹治談……四四

□味あり色ある建築……大阪府知事……林　市藏談……四六
△現代社會觀(三)……四九
□頭髪といふものは……帝劇女優……森　律子談……五〇
□時代風俗と美人畫……女流畫家……石川丹麗談……五三
□江戸時代の髪様……稻葉小千談……五七
△東大寺建築史(七)……會員……須藤眞金……六一
△京都古建築觀(七)……特別賛助員……伊藤清造……六五
△臺灣營林局の事業(二)……會員……谷　民藏……七二
△あたら墨繩……會員……須藤まかね……七七
△「テームス」河……會員……N　T生……八一
△時報……八四
□都市計畫法案
□市街地建築物法案
□二大法案と陳狀書
△會報……九五
△編輯たより

## 附錄

△哈爾賓市内建築規則摘譯……六頁

電燈裝飾器具製作販賣
電氣諸工事設計請負
其他電氣ニ關スル一般ノ業務

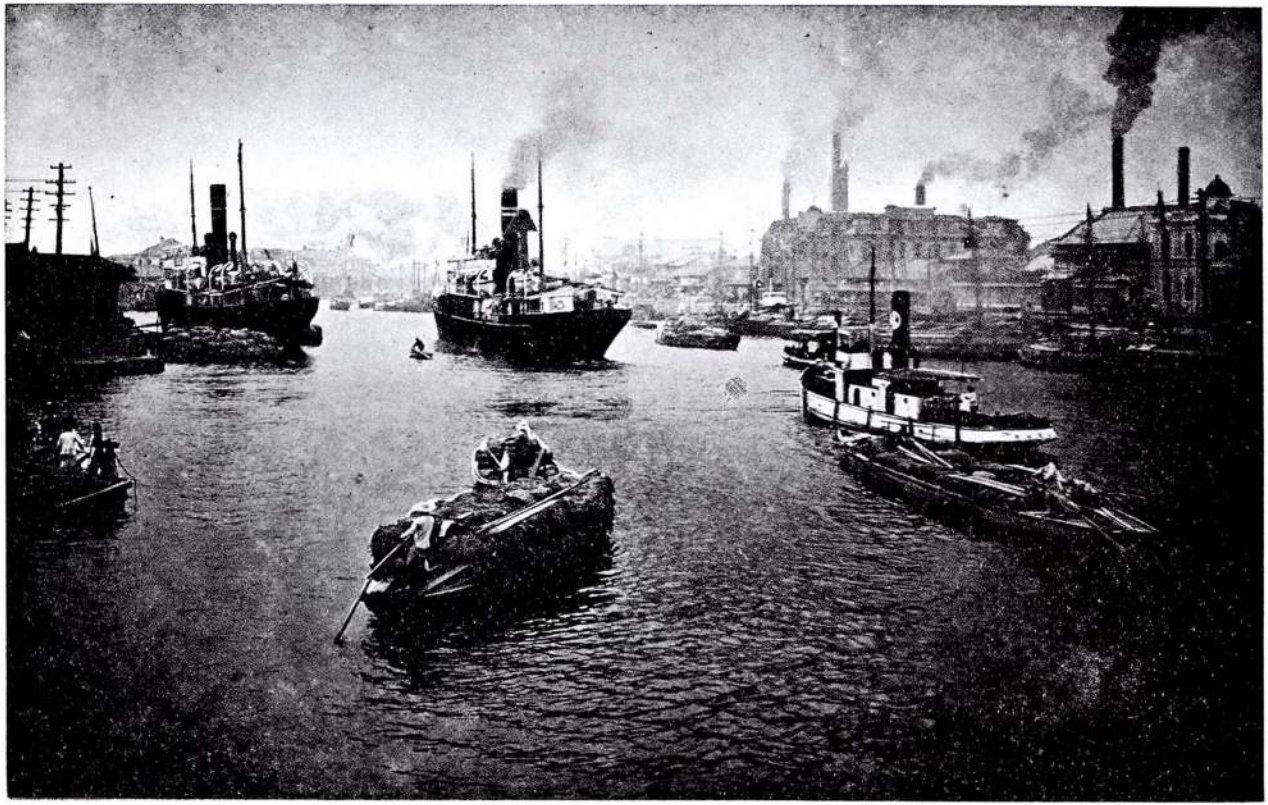
ミツワ電氣株式會社

大阪市東區谷町二丁目
電話長東二六三四番

工場
東區谷町二丁目二〇
南區天王寺細工谷町

石綿盤
六甲瓦
其他屋根材

神戸市北長狹通三丁目
野澤幸三郎商店
電話三ノ宮一九六六番



中之島西端船津橋より見たる安治川筋の光景　大阪(栗田製版印刷)

# 東京市街の現狀（其四）



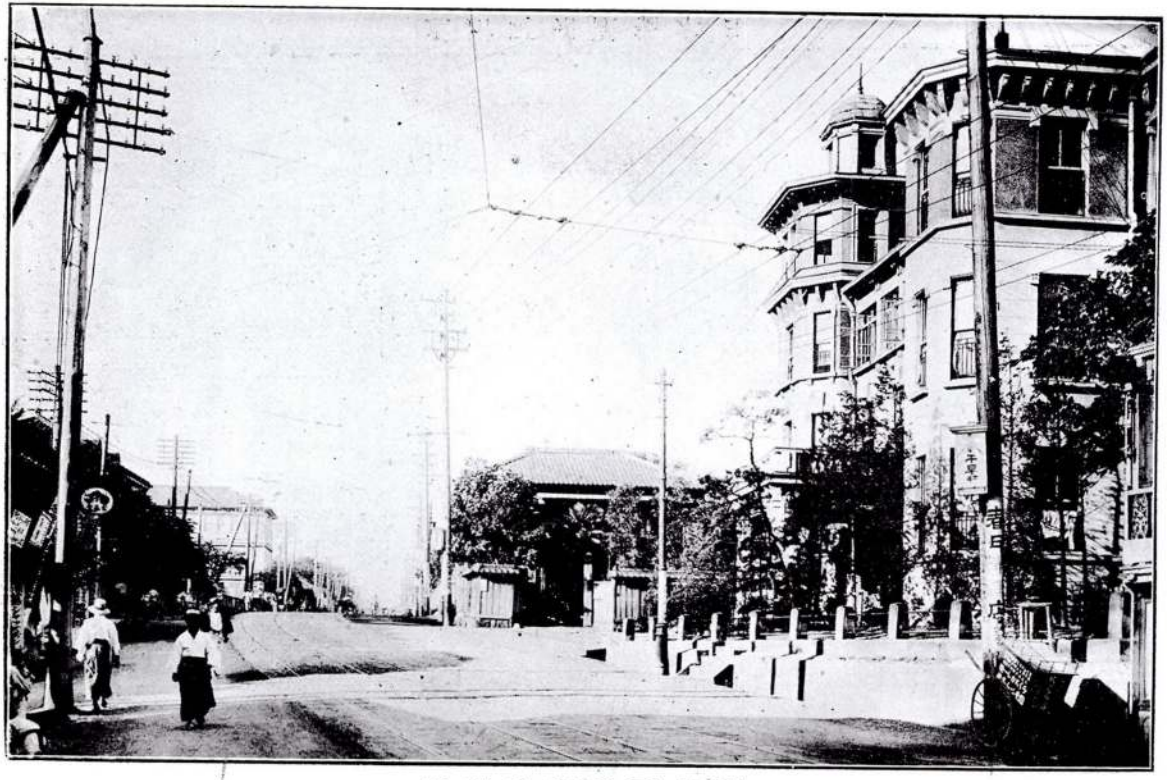
上野廣小路電車交叉點附近

# 東京市街の現狀（其五）




日本橋より日本橋通を望む

# 東京市街の現狀（其六）



神田區駿河臺附近



日本橋區兜町附近

東京市街の現狀（其七）

# 東京市街の現狀（其八）

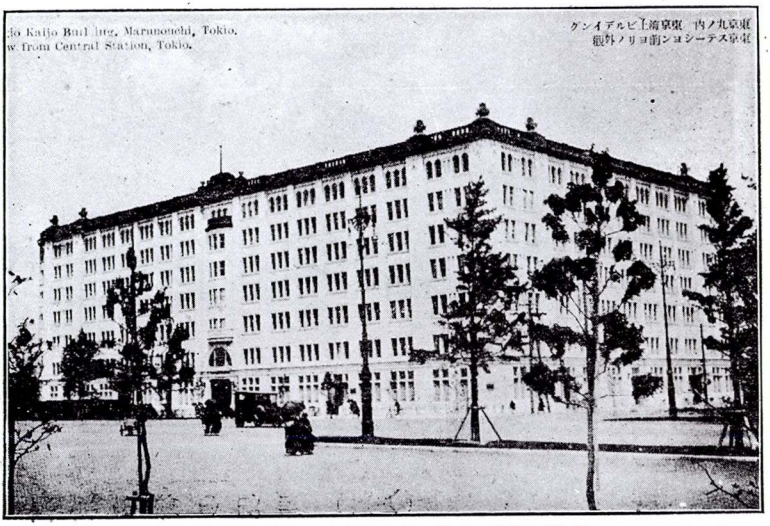


芝區土橋附近

# 東京市街の現狀（其九）



日本橋區通一丁目附近

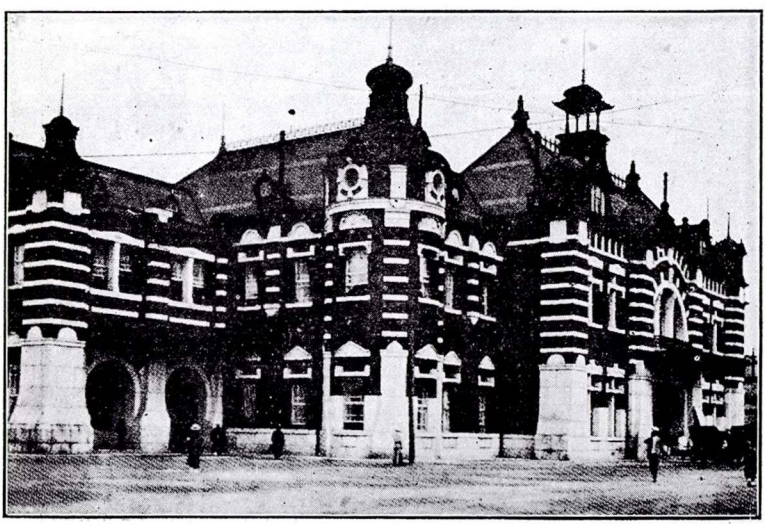



東京驛前東京海上ビルヂング附近

# 東京市街の現狀（其十）

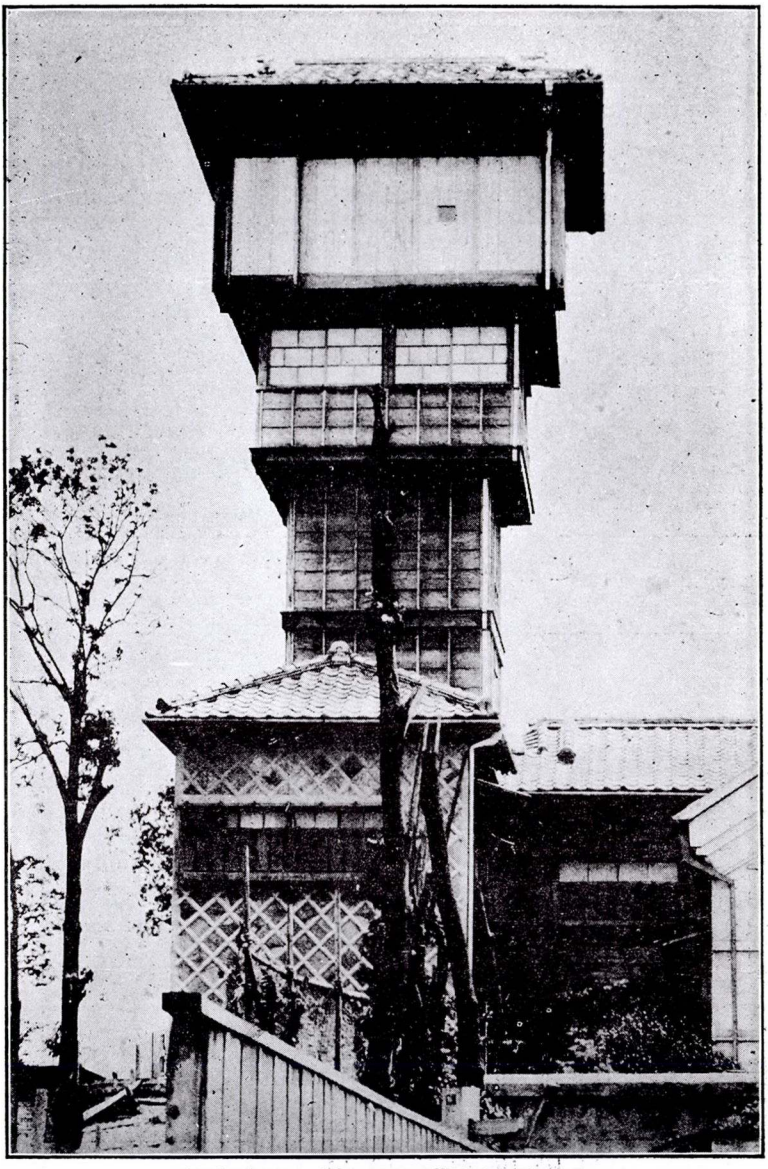


日本橋區室町附近

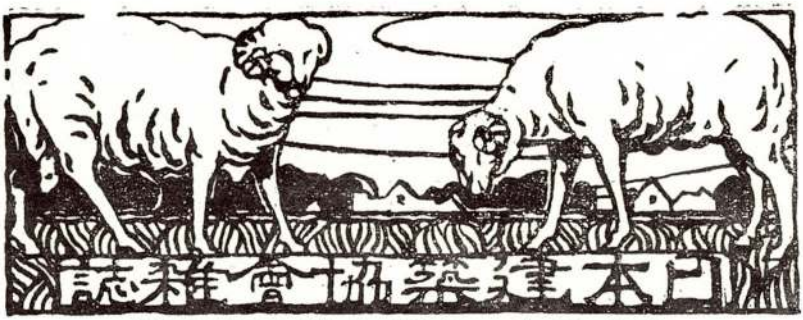


芝區新橋停車場附近

# 東京市の珍建築



小石川區茗荷谷町に在る田口氏邸




# 都市住宅の改善と結核豫防法

我國に於ける都市住民の健康狀態は之を歐米各國に比し甚だしく低劣なり、殊に結核病死亡者の多數なるは著しき事實にして、逐年その趨勢を增進しつゝあるの狀態は、國家將來の爲めに寒心すべき極なりとす、之れ一は個人衛生思想の幼稚なるに起因すと雖も、公共的社會衛生運動の微弱なるを以て其根蒂となさざるべからず。仰も現代の都市は其著しき發展と共に衛生上の設備を完からしめ、其住民の健康增進を計るを第一義とせさるはなし。而して其設備の完全なるを期すべき公共的社會衛生運動は今や我國の識者にも理解さるゝの機會に到着し、多年の懸案たりし結核豫防法案も愈々今期議會に提出さるゝに至れり。吾人は其法律施行に際し更に都市住宅法の制定を期望する所以は住宅改善は市民の健康向上を計るべき最大なる積極的畫策なるを信するが故なり。當局者宜しく此眞義を理解してその法案の制定を急ぐへきにあらずや。



# 東京市大改造論（參）

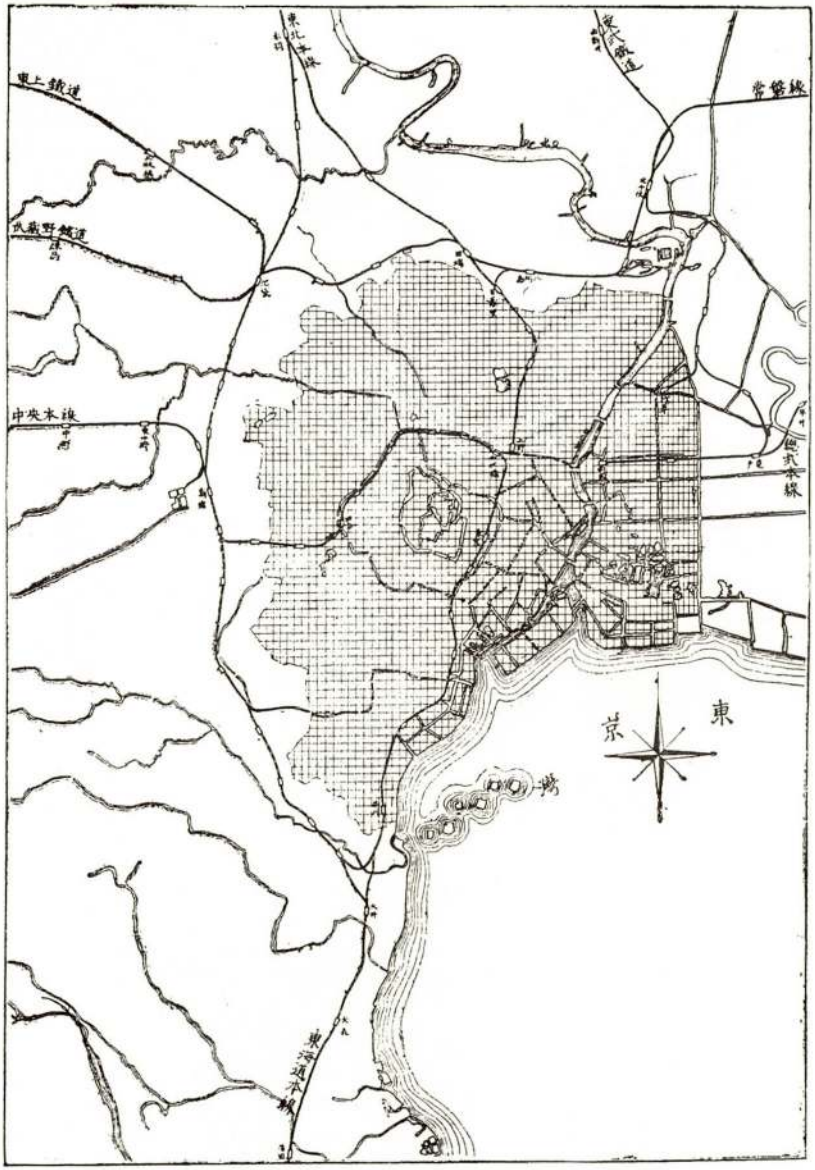
會員　片岡安

一　總　說
二　交通狀態より見たる計畫
三　衞生及風紀論
四　經濟上の觀察
五　都市善觀
六　結　論

## 二、交通狀態より見たる計畫（其二）

### 〔八〕外延的陸上交通設備

東京市の外延的連絡線たる鐵道は現在に於ては東京市を中心として放射せる八箇の線路を數ふる即ち南部より漸次西北東の方面に之を擧ぐれば




東京市外延連絡鐵道線路圖

| 線路名 | 終點驛 |
| --- | --- |
| 東海道本線 | 品川……新橋……東京驛 |
| 中央本線 | 新宿……飯田町驛 |
| 武藏野鐵道 | 池袋驛 |
| 東上鐵道 | 池袋驛 |
| 東北本線 | 田端……上野驛 |
| 東武鐵道 | 北千住……淺草驛 |
| 常磐線 | 田端……上野驛 |
| 總武本線 | 兩國橋驛 |

以上の八線路により我東京市は旅客及貨物の陸上連絡をなし、漸く其繁榮維持をなしつゝある狀況である。中に就て東海道本線と東北本線の二線は南部及北都より我東京市に注ぐ最大の河流と言ふべく、其他は何れも地方的の細流か、然らざれば流量の大ならざる系路である。故に東京市が最も其設備に力を致すべき連絡は東北本線の終點と東海道本線の終點であらねばならぬのである。之を軍事上より見れば或は中央本線にも重きを置くの要はあるかも知れぬ。又大東京市の建設を適當に進ませる爲めには、更に數箇の放射線式の高速連絡機關を完備せしめ、市中心區と郊外の住宅區域との交通を最も敏活に取扱ふの要も生じて來るであらふ。乍併我東京市の陸上連絡の本宗は什うしても東北本線及東海道本線の輸送力充實と其終點設備の完成とに歸すべきものである。

東京を中心とする幹線鐵道線路の輸送力充實は、本章立論の最も重大なる基礎的條件であるけれども、問題が餘りに廣汎に亘るを避け此處には其改良計畫には觸れないこゝとゝする。そは其必要ならざるを意味するのではなく、當臨時之を埒外に置くに過ぎないのである。而して此章に於ては主として東京市の發展上此際急速に立てゝ置かねばならぬ終點驛の計畫に就て意見を述べるに止める

現在東海道本線により東京市に到着する旅客は一ヶ年漸く八百六十萬人内外（一日平均二萬二千五百人餘）出發するもの稍それと相等しいのである。又東北本線によるものは更に少數にして其到着數は一ヶ年四百四十萬人内外（一日平均一萬四千人餘）出發者又それに稍等しいと言ふ狀況である。其他中央本線によるものは其乘降者數各一ヶ年五百十萬人を算するも、其大部分は電車乘客にして近距離の往復者と見るべきものである。左に大正五年度の市内鐵道驛乘降客數を示す。

| | 驛名 | 乘車人員 | 降車人員 | 一日平均乘客 | 同 | 降客 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東海道本線 | 東京 | 二、三九四、八一〇人 | 二、四九六、四六五人 | 六、五六一人 | | 六、八四〇人 |
| | 有樂町 | 六四八、三九五 | 七二九、〇七六 | 一、七七六 | | 一、九九七 |
| | 新橋 | 二、二六二、八三七 | 二、一六七、八一六 | 六、二〇〇 | | 五、八三一 |
| | 濱松町 | 二九三、八三二 | 二九三、九九六 | 八〇五 | | 八〇五 |
| | 田町 | 八二五、九〇〇 | 八一七、七八六 | 二、二六三 | | 二、二四一 |
| | 品川 | 二、一三三、三七一 | 二、一六七、八一六 | 五、八二七 | | 五、九三九 |
| | 計 | 八、五四九、一四五 | 八、六三三、五〇五 | 二三、四二三 | | 二三、六五三 |

| | | |

以上の表により之を見るに大正五年度の我東京市内鐵道驛の乘降客延人員は約四千萬人に近く一日平均十萬人を少しく超過して居るのである。而して其數量は大正元年以來逐年增加の趨勢を持續し此次大戰亂の初一年に來れる多少の不景氣の爲めに大正四年度に於て幾分阻害されたけれども、大正五年度は急激に其數量を增したのである。大正六年度以來は更に我國經濟界の偉大なる發展に連れて其數量は可なり大なる率を以て增加されて居るならんと推定される。

| | 乘降客數 | 一日平均乘降客數 |
|---|---|---|
| 大正元年度 | 三二、〇一六、六二〇人 | 八七、七一七人 |
| 大正二年度 | 三三、五四一、六二二 | 八九、一五六 |
| 大正三年度 | 三三、六五二、五四四 | 八九、四五九 |
| 大正四年度 | 三一、二六九、七四一 | 八五、六七一 |
| 大正五年度 | 三九、五〇〇、七二八 | 一〇八、二二一 |

今假りに大正六年度より每年百萬人宛を增加し來りしものとすれば大正八年度の東京市內鐵道驛が取扱ふべき乘降客は四千二百五十萬人にして一日平均十一萬六千人となる。之を明治四十年度の一日平均四萬六千七百人の乘降客に比すれば正さに三倍弱となつて居る譯である。之を我東京市の偉大なる發展力と其經濟力增進の趨勢に見たならば、我東京市が集散する鐵道乘客の數は今後二十年を出ずして一日平均二三十萬となるものと思はねばならぬのである。現在は上野驛に於て一日平均約二萬二三千人東京驛にて約一萬三千人、新橋驛及品川驛にて各約一萬二千人、萬世橋驛及兩國

橋驛にて各約五千人を取扱つて居るに過ぎないけれども、それは今後の標準となるものではない。上野驛の如きは北方信越方面全体、東北、奥羽、常磐各地方全体の住民と我東京市とを連絡する咽喉であるから、今後其等地方一体文明程度の進むに連れて驚くべき旅客輻輳の事實を現出するは火を見るよりも明かなことである。東京驛の如きは關西方面との關係日に濃厚となり、南方諸地方との出入活潑となるに從ひ其乘客の增加容易ならぬものがあるであらふ。更に眼を轉じて以上の各外延的連絡線路により輸入又は搬出さるゝ貨物の數量を見るに今尙ほ甚だ不振の狀態にあるを免れぬけれども、現在及將來に亘り著しき其發展を遂ぐるに至るは爭ふべからざる運命である。

大正五年度の東京發送貨物は百八十四萬二千噸にして、搬入貨物は四百二十萬九千噸である。其合計約六百萬噸にして同年度水運によりて輸入又は搬出されし貨物四百二十萬噸に比すれば約二百萬噸を越ゆるの分量である。

而して此等の貨物は大正元年度より漸次其數量を增しつゝあるが大正四年度は大戰當初一年の不景況の影響を受けて却て減退の事實を示して居る。

| 年度 | 到着貨物（噸） | 發送貨物（噸） |
|---|---|---|
| 大正元年度 | 二、〇四九、四五九 | 八五三、七二五 |
| 大正二年度 | 二、九九三、二九九 | 一、六四五、五〇二 |
| 大正三年度 | 三、二八四、六八九 | 一、八〇〇、一一〇 |
| 大正四年度 | 三、二七二、四九八 | 一、七二八、三八二 |

大正五年度　四、〇二八、八七三　一、八四一、九五一

（家畜類ハ此表ヨリ除外ス）

而して大正六年度以降此の數量は著しく增加しつゝあるは事實なれども、不幸にして其統計を得ざるが故に其詳細を知るに由なきも恐らく逐年四五十萬噸を增加し來りしならんと推定される。然らば今後此の數量は如何なる割合に增加すべきやと言ふに、其外延的連絡機關が輸送力の增大さるることゝ及其貨物終點驛の水運連絡が完備さるゝことの程度如何に依りて、我東京市發着の貨物は漸次增大さるゝのである、たとへ現時の儘なりとも人口の增加その他の事情は、什うしても貨物發着の數量を增大せしめねば已まぬであろふと思はれるが、其間に常に壓迫と無理を生じて不廉なる運賃と餘計の時間を空費し、都市の健全なる發達を阻害するは敢て努々するまでもないことである。

大阪市發着の貨物は水と陸との連絡機關を通じて約一千三百萬噸（大正四年度）であつて、東京市のそれが漸く一千萬噸にしか達して居ないことは、如何にも皮肉な事實である。人口百五十萬の都市の消化力が二百三十萬の人口を有する都市よりも尙且つ大きいと言ふことは、東京市は產業經濟の活動に於て大阪市よりも著しく劣つて居ることを物語るものではないかと思はれる。一体都市の健全なる發展には其れに伴ふ經濟的施設を怠る譯にゆかないのであるから、我東京市は其前途の爲めに、築港を完成して水運を便にし、更に陸路輸送機關と水運との連絡を十分に計畫せねばならぬのである。大阪市に於ては水運の利用は或る程度まで發達し其利便を享有しつゝあれども、陸上交通機關と水運との連絡甚だ不便にして貨物の集散に與へつゝある損害は其幾何なるやを知らぬ

位である。東京市に於ける陸上交通機關は現時一ヶ年已に六百萬噸内外の貨物を取扱ひつゝあるけれども其水運連絡に就きては甚だ姑息なる設備を有するに過ぎない、しかし今後大に增加すべき其數量に對しては什うしても現時の如き姑息なる設備に拘泥してはならぬのである。而して其解決は築港の計畫と關連する以上、問題は築港完成の曉にあらざれば、全く實現し得ないことになるのである。乍併貨物の性質によりては現時の隅田川驛の如く隅田川の水運を利用するを好適とすべく、必ずしも築港倉庫地帶に直接連絡の要はないかも知れぬ、又舊來の運河の改修や新設運河の開鑿によりて陸上交通機關と相俟るべく畫策さるることも必要であるであらふと思はれる。

## 東京驛改造計畫の急要

現時の東京驛は丸の内の中央日本橋區と隣接する方面に位し、外濠に添ふて蜒蜒數百間の延長に亘ると言ふ狀態である。何故に斯かる位地に斯の如き停車場が出來上りたるかは何人も疑問とする處で今日は其計畫の無謀なるは固より、日々市民の受けつゝある不便不利と、將來永遠に亘り市民が受けんとする不利益に至つては、到底忍ぶべからざるものがあると言ふも過言ではない。吾人窃かに其計畫の起原を考ふるに明治二十二年以來市區改正委員會に於て東海道本線の終點と東北本線の終點とを一直線に連絡せしめることに決定せるが爲めに、鐵道院に於ては其線路の中央最も便利なる位地に中央停車場を設け、外觀堂々たる建築物を丸の内の中央宮城と相對峙して建設せんとしたるに因るものかと想像される、其着想必ずしも不合理のものではないけれども、都市の發展を助長する爲めには鐵道驛の設備は更に更に深き研究を必要としたのである。我東京市の商業中樞區域は古來銀座日本橋通りより上野に至るまでの大通りであつて、諸官省

及新事務所建築の集中する霞ケ關、日比谷、有樂町、永樂町及大手町方面の丸の内の一部と相待ちて我東京市の中核を形成すべき重要なる要素なのである。而して此關係を基礎として我新東京市の建設をなすべき義務を有する市區改正委員會が、何故に東海道本線と東北本線との終點を一直線に連絡せしめることにのみ着眼して、中央停車場の建設に杜撰であつたかは、今更ら議論を闘はすも詮なきことであるけれども、吾人は現時の東京驛の永久の存在は我東京市の永遠計畫に非常なる障碍を與ふるものなることを敷衍して、其移轉計畫の急要を唱へざるを得ないのである。

現時の東京停車場は丸の内の新市街地と舊商業中樞區域との中央地域約十萬坪の間に介在し、其間の連絡に不便を與ふるのみならず、新東京市の交通、美觀及風致の中心地たるべき重要地點を無意義に占有しつゝあるは、否むべからざる事實である。殊に其れ自身の乘客に與ふる不便に至つては現に日々目撃する通りである。現在に於て丸の内の公私事務區域と京橋日本橋區の商業地域との交通街路系統は大手門通りと馬場先門通り及數寄屋橋通りの三街路を主たるものとする。而して大手門通りと馬場先門通りの距離は約四百間にして、其間には丸の内と日本橋區の間に一も連絡の街路なき狀況である。そは全く現在の停車場介在の爲めであつて若しその間に適當なる交通街路の必要を感ずるも、現在の儘にては如何ともする譯にゆかないのである。人或は隧道を以て其間の連絡を計るべしと言ふも、それは全く一時の窮策たるを免かれぬのである。又有力なる俗説として唱へらるゝ如く、馬場先門通りを以て立派なる連絡系統と見做すならば、之れ全く現狀拘泥主義者の謬見と言はねばならぬ。馬場先門通りは其幅員貳拾間に過ぎず、到底大東京市の中樞廣小路たるの價

値なきのみならず、それあればとて大手門通りと馬場先門通りの間の中間街路の急切を取消す譯にはゆかない。東京市が將來永遠に亘り其舊來の商業地域に通ずる適當なる廣小路（ブールバアール）を有することは必ずしも東京市の虚榮ではなく、將來益々雜沓せんとする市民の交通を緩和し、丸の内の公私の業務地區の整齊と秩序を永遠に保持する爲めには、現在の永樂町一丁目の街路（幅員四十間）を内方坂下門まで延長し外方は東京停車場の位地を横斷して外濠を超へ、日本橋通にまで延び更に適當なる交通機關の所在地まで連絡せしむる一大街路の建設を必要とするのである。其街路の建設は他の市區系統と密接の關係があるから街路系統の項に讓ることゝする。

東京停車場移轉の必要は上述の通りであるとしても現在の市内縱貫鐵道線路は之を保存するを可とする。而して東海道本線の終點は之を日比谷公園の東部一廓即ち有樂町一丁目及内山下町一丁目の外濠内の區域に撰ぶを最も適當と考へられる。其建物の配置は大体地圖に示す如くになし、東海道本線の乘客を取扱ふと同時に市内循環高速電車の乘客をも取扱ふは勿論、中央線及東北本線の連絡の乘客の取扱をもなし得ることゝする、現在の東京驛は一日僅かに一萬二千人の乘客を取扱ふに過ぎぬけれども、將來の新停車場は一日十萬以上の鐵道乘客とそれに相匹敵する電車乘客を取扱ふべきものと思はねばならぬ。故に其内容の設備に於て又驛外の街路及交通機關に於て其等の乘降客を十分に處理し得るを必要條件とするを要する。紐育のグランド、セントラル終點驛が大膽なる計畫を斷行した實例は、必ずしも之を東京驛に當て嵌める譯にはゆかぬとしても、或る程度までは參照するの價値はある。

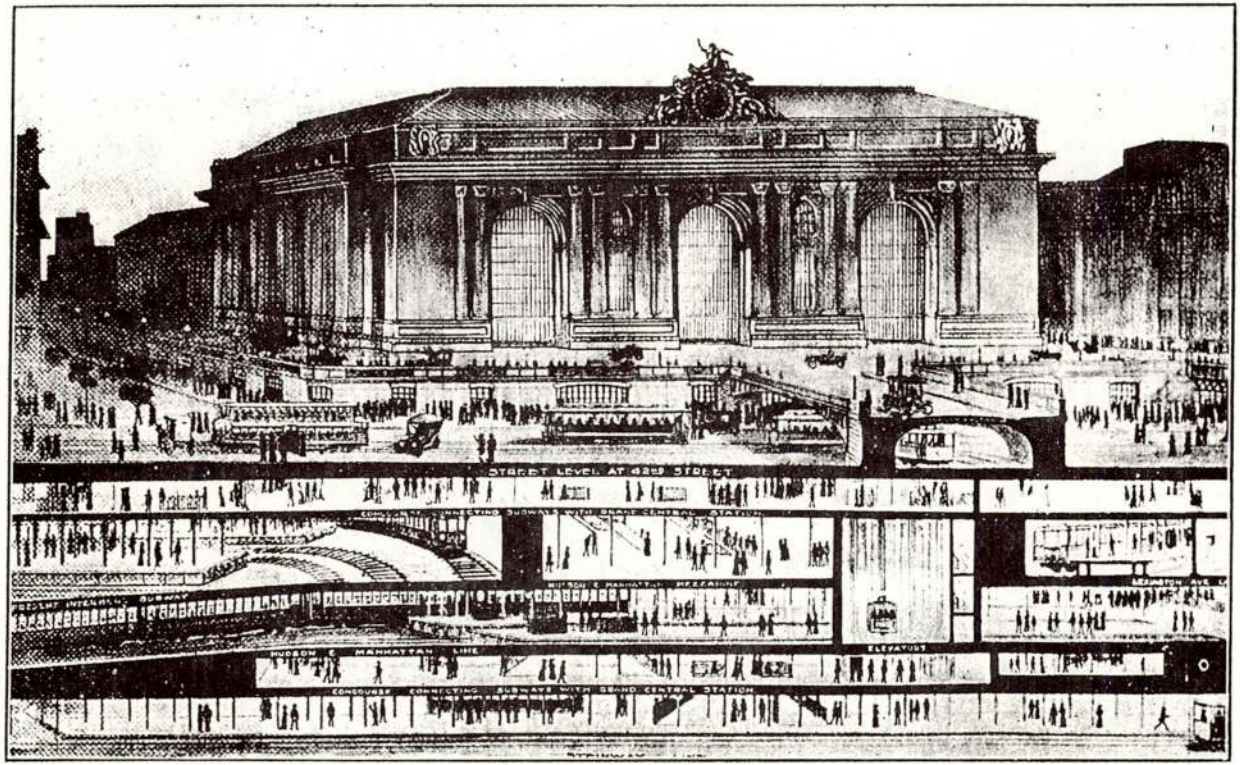
グランド、セントラル終點驛は紐育マンハッタン區の中心たる第四街と四十二丁目の交叉點にある世界中最大にして其設備亦最美を盡したものとせられて居る。其敷地面積約八萬五千坪に達し停車場そのものは間口三百十呎奥行六百七十呎の大さを有す、其地中階は更に廣大にして間口四百五十五尺奥行七百七十五尺である。毎一時間に二百の列車と七萬人の旅客を取扱ひ得ると言ふ。而して其集中し來る線路は遠距離より來るもの四十二線路、地下線二十五線路であると言ふに至つては如何に其輸送力に充實して居るかが想像される。

我東京停車場は東海道本線より來るもの四乃至六線路、東北本線及中央線への連絡二線路及び近距離電車の集中又は通過するもの二線又は四線を備ふれば足れりとする。其面積等に至つてもグランド、セントラルの三分の一にて十分なるべく、又設備その他に於ても彼の如き大規模を模倣するの要はなかるべきも、將來日々二十萬乃至三十萬の乘客を取扱ひ得るだけの計畫は必要である。隨つて市内交通機關の焦點として其前面街路の設備を考へねばならぬのである。其系統及交通機關の設計に就きては後章に於て述べることゝする。

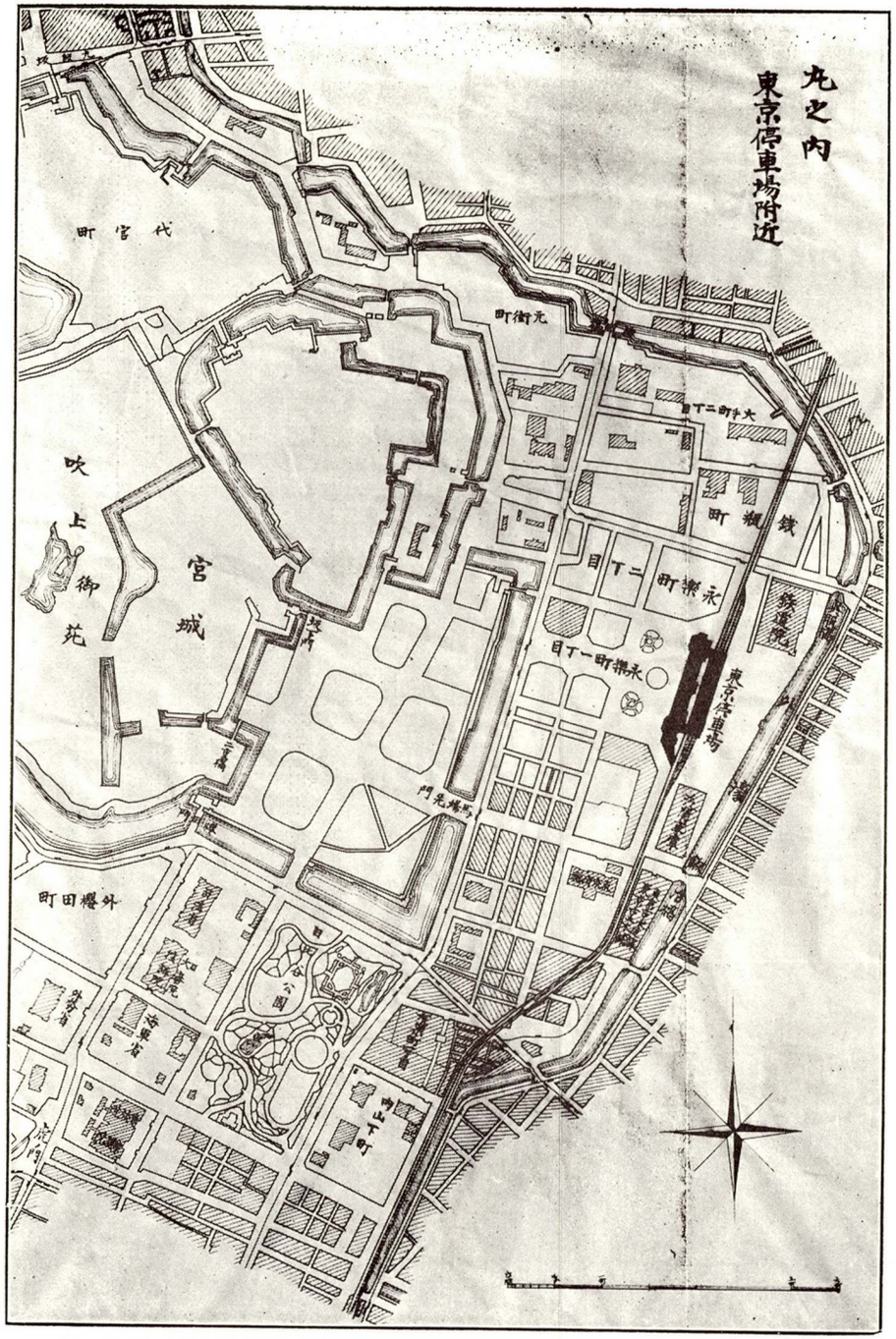
東北本線の終點たる上野驛の改築は最早目睫の間に迫つて居るのである。日々二萬四五千人の旅客を取扱ふには、現在已に窮して居るのであつて、其改良計畫の急要なるは東京停車場以上のものがある。其改築は現在の場所より更に北方鶯谷停車場より櫻木町一廓を以て適當の位地と考へられる。而して現在の秋葉原に通ずる路面鐵道は之を廢して高架線敷地となし、同時に秋葉原の貨物停車場は廢止して隅田川驛に合併するか又は他に適當の貨物停車場を撰定すべきである。現在秋葉ケ



景瞰鳥驛點終ルラトンセドンラグ市育紐




紐育市グランドセントラル終點驛前面地下線路輻輳圖


丸之内
東京停車場附近
代官町
元町
大手町二丁目
町
永楽町二丁目
永楽町一丁目
吹上御苑
宮城
東京停車場
外櫻田町


丸之内
改良街路系統
代官町
宮城

原が取扱ひつゝある貨物、到着するもの五十二萬三千噸（大正五年度）にして發送するもの三十五萬四千噸（同五年度）に迨び、汐留驛と殆んど比敵する數量である。之を隅田川驛の發送貨物五十六萬噸到着貨物百二十四萬噸の大なるには比する譯にはゆかないとしても今後東北地方の開發と共に其數量の大に增進するは見易き運命である。而して現在上野驛より路面鐵道によりて秋葉ヶ原驛まで一哩餘の間交通殷賑の地を横斷しつゝあるの事實は一日も早く之を撤廢するの急務なるを感ぜしめるのである。

東海道本線の終點貨物停車場たる汐留驛は、築港完成と共に其棧橋及岸壁と連絡ある倉庫地帶に之を移すの必要なるは言ふまでもなく、又飯田町停車場の貨物取扱も大部分は築港に直接連絡するに至ることゝ信ずる。而して中央本線の遠距離鐵道乘客は信濃町より外濠南部を添ふて新設すべき新線路（隧道及高架線により新東京驛に連絡す）に依り新東京驛に着發するを本則とするを要する又兩國驛及上野驛よりする乘客連絡も此と同じく新東京驛にまで延長さるゝを必要とする。

要之我東京市の外延的陸上連絡の機關は今後漸次其輸送力を增大せねばならぬのであるが、之と同時に其終點停車場が益々其設備を改良擴大せねばならぬ筈である。故に吾人は將來に大東京市の實現さるゝも差支を生ぜざる底の計畫を以て停車場の建設に取蒐らざれば、到底永遠の安心を得る譯にゆかないのである。大東京市の將來を考ふれば、先づ以て其外延的交通連絡の適切なる計畫を樹立し、然る後市內交通の機關と街路系統の永遠計畫を考究するを順序とする。

以上は唯外延的鐵道の市內に接觸する設備改善の大要を述べたに過ぎないけれども、此等の計畫

に伴ふ財政は如何になるべきやの問題は、可なり重大なる事柄であつて、若し其財政上の見込を有せざるに於ては、或は斯かる大膽なる計畫を立案し得ないかも知れぬのである。

乍併以上の計畫は東京市の改良計畫に隨伴する國家的設備であると言ふを妨けないのであつて、市としては其費用を負擔すべきものではないのである。然らば市區改正に屬する費用と國有鐵道に屬するものとを如何なる部分にて區分するやと言ふ點に就ては事實上可なり面倒な問題を惹起するかも知れぬ。而して以上の計畫に要する費用の大なるものを擧れば

東京停車場築造費……約　五千萬圓
汐留驛移轉及新貨物線布設……約　參千萬圓
中央本線信濃町より東京驛へ直接連絡線……約　千五百萬圓
東北本線上野驛改築費……約　貳千萬圓

等にして其他復線を增すとか山の手線の改築又は貨物驛の擴張等可なり多くの項目を含み居るが故に之を合計すれば壹億四五千萬圓の工費に達するであらふと思はれる、乍併此等の工費は必ずしも一二年の間に必要と言ふにはあらず五年乃至十年の間に使用するのであるから本邦鐵道の改良工事としては別に大した苦痛ではあるまいと思はれる。（此項了）



# 活動寫眞劇場の改良

（下）

會員　葛野壯一郎

米國の或る州では活動寫眞劇場の二階或は三階棧敷を禁じて居るのが有ります。左樣なると觀客席の構造はまことに單純で一ッの廣間（ホール）として取扱つてよい事になります。スペースの經濟といふ事から斯種の劇場では、土間後方の坐席を高い階段席構造として、其下部街路に面する部分を少商店或は低い天井の入口溜場等に利用して居る例も有ります。即ち入口からトンネルを通つて觀客席の中央部に出られる譯で、一方通路の左右にある階段により客席最後部の坐席に通ずる事となるので有ります。斯の如く席を後方に至るにしたがい著しく高く設くる結果、天井の高さも幾らかづゝ舞臺に接する部分から觀て、後の方は高くなつて行くのが自然でも有り且つ音響の点についても其れが非常に結果が宜しいと云ふ事で有ります。

前號にも述べた通り、我邦の寫眞劇場では聲色や詳細の說明がつくので有るから、音響を無視する譯に行かないのは勿論で有りますが、西洋でも寫眞の外に舞踊だの唱歌だの、色々な演藝を加へる必要から、やはり音響上の充分な注意が入る譯で有ります。凡て斯種類の劇場に有り勝の細長いプランは一般的に音響上餘り具合がよくないと云ふ事で有ります非常。に曲度の強い天井、深いリセル及び圓天井の如きも亦注意して取扱はないと意外なる不結果を生ずる虞

が有ります。

完全な暖房と通風の設備を有すると云ふ事は斯種の建築に有つては最も大切な事で有ります何時も適度な温度の新鮮な空氣が、觀客の呼吸層即ちブリーヂングゾーンに送らるゝといふ事が望ましい。全体我邦では一般民度の低級な結果、採溫だの通風の点に關しては頗る冷淡なもので、斯種の建築に就ても殆んど其れらしい設備の無いのが普通で有ります。天井の中央或は壁の一部分に空氣抜といふ様な形のものは付いて居つても、其實際の効果に至つては、頗る怪む可きものが多い、假りに其れが完全な効果の有るものとしたところが其れだけでは滿足する事は出來ない、是非とも新らしい空氣を積極的に供給す可き設備を要するので有ります。現今の我が寫眞劇に這入つて先づ第一に吾々の感ずるところは、一種云ふ可からざる汚濁の臭氣で少し神經質な者ならば、到底三十分と我慢の出來るものでは無いので有ります。此汚濁の空氣の中で培養せらるゝものは、不健康と頽廢氣分の外はない。我が都市人が年々歳々殊に最近著しく其思想に於ても健康に就ても、著しく不健全頽廢的に墜落しつゝ有る事實は、其因とするところ素より一二に止まらないとしても、寫眞劇場の如き斯の種一般娯樂場に於ける汚濁の空氣を、其一因として認め得る價値の有る事は明かな事實で有ります。且つまた最多く斯の種の娯樂場に出入する觀客の多くが、主として青年男女で有る事を稽ふるならば、こは單に衛生上の問題に止まらずして、國家社會の將來に觀て識者の大ひに考ふ可き問題で有る事もまた明かで有ります。

寫眞劇場の夏期興行場としてエーアドームと稱する種類のものが有ります。是れは其両側の空地の如きを出來るだけ廣く明放し主義で、其空地には、美しい花壇や清らかな砂利路等をしつらへて有ります。また墻壁の如きも四つ目墻即ちラチスドフエンスとして、美しい蔓草等をはわせ、イルミネーションを施すと云つたやり方で有ります。斯の構造は我溫泉場避暑地等に

も假設的に設くれば、夏季の娯樂場として私は相當歡迎せらるゝものと信ずるので有ります。

エーアドームに於て敷地の奥行が相當ひろくて少くとも五十呎の餘地が有る場合は、後方から映寫する式を採るのがよいと云ふ事で有ります。即ち映寫機械をスクリーンの後方少なくとも五十呎のところに置いて後ろの方から寫眞を寫すので有りますスクリーンと機械の間は他に光線の洩れない樣、黑布で包んだ箱をしつらへると、寫眞が非常に明るく見事で有るのみならず、若しスクリーンの構造を淺い箱樣のものに造つて直接外からの直射光線を避けるならば優に日中でも映寫する事が出來るといふ事で有ります。即ち婦人客少年客の爲に日中興行エーアドームマチヂーを開く事が出來得るので有ります。日中に室の周圍を閉め切つてわざ〳〵暗くした活働寫眞劇場程不愉快なものは無い、若しこんな方法を利用して明るい冷しいところで而も日中愉快に活働寫眞が見物出來るならば、夏場の避暑地等に有ては頗る便利で且つ相當に繁昌する事だらうと信ぜらるゝので有ります

エーアドームでは坐席は板張のベンチで是を直列に配置し、一席の巾二十二吋の割合で計算して居ります。普通にはこのベンチに圓形の蓆製蒲團をならべて坐とするので有ります。外觀に就ては成る可く多少風變りの樣式が宜いので埃及ビズアンチン支那などの風がよく是れに適する抔とも云つて居ります。

寫眞劇場として最重要なるものは申す迄も無く映寫板即ちスクリーンで有ります。全觀客の視線は一樣に皆此スクリーン面に集中せらるゝ譯で有るから、其位置並に構造の如何は大變に重要な問題で、全体のプラン並に裝飾の如きも凡て是に最も都合のよい樣な風に考案されなければならぬ筈で有ります。舞臺に於ける映寫板の位置に就ては、普通の前方から映寫する式では適當なシヤドーボックスを與へるために、少なくともプロセニアムオプニングの後方十八呎乃至二十呎の處に置くを理想として居るので有ります。スクリーンとしては是以上出來るだけ

深い方が、結果としては益々よくなる譯では有るが、觀客席の最後端の客からよく觀ねない樣な遠くまで持つて行く事は勿論出來得ないので有ります。

寫眞を普通の方法とは違つて舞臺の後方から映寫する場合は、半透明なスクリーンが最も結果がよいといふ事で有ります。此前からでなく後から寫す式では前にも記した通り、舞臺の後方少くとも五十呎の餘地を要する事となるので有ります。斯の距離はスクリーンと寫映板の間に反射鏡を應用せば、ズット縮少する事も出來る筈で有ります。前からするも後からするもそれは別問題としてスクリーンは、舞臺の床から二呎だけ上げるのを原則として居ります。是は何の坐席からも最も視易い樣にする爲では有りますが、二呎以上高くすると視ねる事は一層よく視ねても、土間一部に於ける客が仰向いて視る事になる結果、非常に勞れてよく無いとして居ります。

映畵の大さに就ては、寧ろ少くとも明るい方が宜いとするのが、一般の傾向で有るらしく考へられます。是れは云ふ迄も無くスクリーンと映寫機械間の距離及び光力の問題で有りますが現今最も普通として居るのは十二呎で、是が恰むど一般人間の大さに相當する無理のない處だとして居ります。斯の大さで充分明るい畵面を得るには五十呎が最少限となるので有ります。斯の距離が七十五呎になると畵面は十五呎に延びるので、斯の割合から光力さへ增さば百呎或は其以上の遠方からでも映寫する事は出來ても畵面が不自然に大くなつて、最後列の客席から視ても尙普通人より大く觀ねるといふ事になるので有ります。また經費の點からしても、映畵を大くするといふ事は非常に不經濟になるので有ります。觀客席を明くした儘で映寫する事は是亦非常に强い光力を要する問題では有りますが、併し結果としては非常によく殊に喜劇物等では是非左樣するのが理想的だと云つて居ります。喜劇以外の物でも矢張暗いよりは明るい方が一層心持よく同樣に望ましいので、照明の方

法は普通のシャンデリアによる直接照明法で無しに、間接照明法で柔かに明くするのが宜いので有ります。

映寫板としては普通に前から寫す方法のものでは枠を鐵骨として是にメタルラッスを張り漆喰塗としたものが、何れの点より觀ても布製其他の物に比べて無難だと云ふ事で有ります。後方から寫す式では前にも一寸記した通り磨硝子がよいとなつて居ります。映寫板に就ては單に質の如何といふ事のみでは無く、其面の粗滑如何に大なる影響が有るので、其條件としては、磨き上けたものよりは荒目の稍々粗雜な面の方が反射が適度で畫面の結果も一層よいといふ事で有ります。建物の巾が特に廣い場合の如きは特別に擴く反射させる樣な映射面の工夫を要し細長い場合ならば、映射面を狹めて明く強くする等みな特種の研究問題で有ります。スクリーン周圍の額緣は畫面を一層明く視せるために、油煙に亞麻仁油と丁列綿油を混せたもので暗黑色に仕上げるので有ります。

我邦の活働寫眞舘ではスクリーンや舞臺上の事に就て一向何等研究されて居らない、十年以前も今日も同樣に畫面としては多く白布を使用し、其位置の如きも有來りの儘で別段工夫を凝らされた樣なものは一つも見當らないので有ります。寫眞其物に就ては、是は直接客足に關係が深いだけ相當注意も拂はれ、年々新しくなつて多少進歩は認められるゝが、是を如何なる設備によつて映寫し觀客により多くの滿足を與ふ可きかの問題に就ては、何の考案も進歩も無いので有ります。全体興行者の側が目前の營利一方に偏し其以上一歩も向上されないのは勿論の事として、觀客の側から觀ても何等其處まで要求しない、たゞ寫眞だけが面白ければよいといふので譯も無く押かけて行く呑氣な点をも見逃すことは出來ないので有ります。是れは申す迄も無く一般の生活程度の低い事、公衆衛生觀念の皆無なる事等に基因するので有ります。

活動寫眞劇場としてスクリーンと並んで最重要なるものは映寫室で有ります。其距離の如何

を問はず畫面に對して出來得るだけ水平線に近い事を以て理想とするので、十五度以上の角度を有する事はいけないとして有ます。斯の点に關しては我眞寫劇場では多く階下に映寫室を置いて居るだけに、大した批難も無い譯で有りますが、西洋では多く其位置が正面棧敷の天井裏を利用する結果映寫角の如何が自然問題となつて來る譯で、米國の如きシカゴ以西の諸都市では追々階下に映寫室を移す傾向が有るといふ事で有ります。後方から映寫の式では斯の點に就ても一層便利で理想的となるので有ります。映寫室の大さに就ては機械二臺を裝置する場合は九呎角で高さ七呎とし、若し三臺ならば巾十二呎とするのが最適當な大さで有ります。云ふ迄も無く斯の部分は最も發火の危險ある場所で有る故床壁天井共絶躰防火構造とするは勿論窓出入口に就ても特に戸を自働的に閉じ得るだけの設備が必要で有ります。殊に一旦火を發した場合、觀客席側に有る小窓の遮閉の如き、最も迅速を要するもので、獨逸の方法によると技師の立つ臺下に鑞を裝置し、技師が其上に立つて映寫中は窓が開いて居るが、其臺から降ると同時に自働的に窓は閉されると云つた樣な巧妙な工夫が有ります。また映寫室には直接屋外に通ずる可き煙ぬきを必要とし、失火の場合は其煙が直ちに屋外に出て觀客席を驚かさない樣に設備されなければならないので有ります。凡て劇場の類の火災では、火或は煙そのものよりも、失火といふ事の混雜の爲に意外の不幸を生ずるので何よりも先に觀客を安心させる事が最も必要とせらるゝので有ります。私は吾が大部分可燃性の而も頗る設備の不充分な我が大小娯樂場に在つて失火の場合を想像する毎に實に寒心に禁ざるを覺ゆるので有りますが、多數の觀客は至極平氣なもので、何處に非常口が有るか、其位置すら一向注意して居らない樣に見受けらるゝに至つては、更に一層驚かざるを得ないので有ります。（完）

＊　＊　＊　＊



# 倫敦に於ける住居問題委員會の報告書

（一）

會員　M　I　生　譯

倫敦に於ける住居問題は、革帝國刻下の最も重要なる問題の一つであるのみならず、首相ロイドジョージ氏が戰後の初議會に於ける聲明は、全世界に多少の反響を與へて居る程であるが、倫敦市廳にては既に委員會を組織し、着々調査研究を續行し、市の識者亦大に注意を拂ひつゝあるは、前號所載のアンウイン氏の論述を窺ひて其一端を識ることが出來やう。茲に參考のためにテームス沿岸（サイド）住居問題委員會の報告書を抄譯して見やうと思ふ。

本委員會は既に數回會合を開き又特に提議に基きて各部の視察を遂げたり。且つ本問題を次の各部に分ちて考察せり。

一、舊市街の現狀
二、要求されたる追加住居配備の範圍
三、住居內にて行はれつゝある沿岸工業の發達
四、住居に適當なる土地の位置及廣狹
五、工業地及住宅地間の交通能力
六、將來の計畫
七、住居問題と將來の措置

## （一）舊市街の現狀

本委員會は倫敦港の河岸地方を視察せしが、狹隘なる街衢に住宅及工場が群立せる狀況と休養鬱散をなすべき公有の廣場及保健の目的を以て住宅地に設けらるゝ公園の殆んど皆無なるに




倫敦市東部の「テームス」河

深き注意を拂ひたり。一九一一年以降の「センサス」によれば「ステップヂー」「ボブラー」及「ウエストハム」の三「バロ」（代議士を選出し得る町村）丈にても全人口七十萬一千二百七十六人にして內十六萬七千九百十一人即約二十二九パーセントは過集の狀態にて生活しつゝある也之等の三町に於ける約三萬の住民は各船渠地區に通勤せるものあり又船渠に關係せる仕事に從事しつゝありと計算せらる、衛生局の醫官の報告に依れば「ステップヂー」町の死亡率は一九一五年に於て千人に對し十七パーセントなり。「ボブラー」町にては一九、五七「ウエストハム」にて（一九一四年調）一四、九の割合なり。又幼兒死亡數は「ステップヂー」町にて一一四、「ボブラー」にて一三三、九八「ウエストハム」にて一〇八を算す。今更に比較のために斯界泰斗「サー、アーサー、ニウーショルム」氏の調査によれば「ボーラー」にて五歲以下の兒童各千人につき一九五人の死亡者あり「ステップヂー」にて一九一人又「ハンプステッド」にて一一二人「レウイシャム」にて一一六人、倫敦全部にて一六四人を算する由なり。

本委員會は之等地區に於ける幼兒死亡率の甚大なるに就いて、効果ある公衆保健施設と連關講究すべきものなりと認め、又如上の事實は主として過集の現狀に歸因するものなる事を主張し、且つ如何なる住宅の計畫も現狀救濟に滿足なる結果を齎らし得べからざる事を提言せざるを得ざるもの也。

### (二―三) 要求されたる追加住居配備の範圍

現在の狀態にて港內船渠の擴張を圖る爲に要する將來增加すべき勞力の範圍を打算する事は困難なり。乍併、上流船渠の改良と河底浚渫とに依て今後入港船腹の增加を圖り得べきことは明か也。倫敦船渠に於ける護岸の總延長は六千呎から九千呎に增加し得らるべき也。斯の工事の大部分は既に完成せられたり。「アルベルトドック」に於ける新設「南船渠」は今回の大戰なかりせば今日猶使用せられしならんが、「マウリタニヤ」及「オリンピック」級の巨船を入渠

せしめ得らる。尙北岸にも稍大なる船渠を計畫し得られ船長八千呎より九千呎の大船を收容せらるべし。之等の事實より港務部は倫敦の東端に於て船渠の大增設を爲し得らるべき也。「チルブリー」にても船渠面積は著しく增大せり。又河岸に於ても水深を充分にして潮の干滿に拘らず各船を碇泊せしめて入渠せしむるの手數を省きて荷物の出入に利するは可能なる事なり、之等の工事に附隨して大船客乘降場を「リバープール」の Princes Lauding Stage に倣ひて建設すべき也。

斯の改良大計畫工事は同時に港の仕事を增加し且つ職工團を著しく增大せしむる事は理論上豫期し得らるべき也。

船渠組織の擴張は自然的に此地區の商業を賑盛發達せしむべく又河岸に於ける各新工業の勃興は期して待つべき也、斯くの如くして本委員會の注意は期せずして「ダーグンハム」船渠地區の土地を速に商工業用地に利用せしむべき事實に集注されたり「バーキング」及「イーストハム」に於ては既に大製造場建設中なり、「バーキング、クリーク」の東部一帶の大地域は倫敦及近郊發電所の敷地として保留しあり、斯の計畫は、主として倫敦近郊に其他の大需用に應じて電氣の大供給を爲さんとする目的に促されたる也。

將來に對する豫想に關しては最も重大なる住居供給は近き將來に於て下記の如き切實なる要求に應ずる丈の準備をなすべきなりと思惟す。

一、「ステップネー」「ポプラー」及「ウエストハム」の群住緩和として　五千宅
一、船渠（ドック）内の規定外勞働者に（倫敦にて）二千宅
一、同　上　（チルブリーにて）一千宅
一、河岸通製造場に　二千宅
一、廢宅非衛生的住宅の改造に　二千宅
合　計　一萬二千宅

**(四)　住居に適當なる土地の位置及廣狹**

住居に適當なる地域に關し本委員會は數箇の重要なる疑問を發生せり。勞働者及其家族の兩者に對して健康を與へ得べき最良の標準とすべ

き條件を最大なる試問と思惟せり。本委員會は土地經營部の特別委員會の申告に大なる同感を表せり。

『一國民の恒心及体力は主として田舍に生産し或は養育せられたるもの又は田舍生活を利用せる階級に賴るものなり。群住せる街衢に生接する我國民の體軀は急速に下落しつゝあるは確實なり。故に元氣回復の徵候は体軀の上に於て田舍地域のものより大都市居住者に著しきを觀るべし』。

純經濟的見地より觀れば一見勞働階級住居に當つべき土地は船渠、波止場、及製造所に近く隣接するが最も便利にして且急速力交通機關の缺如せる現狀にては他に方法なしと思惟せらるべき也。

斯かる事情ありて、十九世紀後半期に於ける「ヴイクトリヤ」及「アルベルト」船渠建造の際職工住宅の多數は「カンニングタウン」「タイダルベーシン」及「シルバータウン」等の諸市に配置せられたり。されば「テームス」河水平面以下に横はる沼澤の土地は飽くまで住宅地として充てられたれば約半世紀間後之等の住宅は或は荒癈に歸し或は沈下し或は住居に全然不適當となりて倒壞せざるを得ざるものもありき。

之等の地區に於ける住宅下水は自然重力排泄方法を利用し得られず喞筒式を使用せざるべからず。大雨の際には下水氾濫は必ず起る、排水の方法は干潮の際に河へ放出せしむべき溝渠を設くるの外あるべからず。之等の低地は河水面以上の土地の如く重力關係より地下水路へ遁れしむる自然的排水も全く不可能なるのみならず常に水浸しなる濕地なれば『リウマチス』及肺病患者を發生せしむるの傾向を助長するもの也。

今日に於ては急速なる交通機關を利用し得べき事なれば本委員會は經濟上及公衆保健上の兩見地より考慮せり。則ち住居地域は前項記載の如く底地に於ける障害を全く離れたる地域を求めざるべからず。

從來の地區に於ける住宅改築問題に就いて本委員會は考究せしが、小借地より成る土地買收

の價格は如何に荒廢せるものたりとも、現在の狀態にては之を買收すること全く不可能なり、倫敦東部に於ては斯の種の土地は一エーカー毎に一萬磅より一萬五千磅を要する也、尚又住宅改築を爲すにても現在の土地所有者をして層數五階の貸長屋に改造供給せしむるの外殆んど不可能也。

本委員會は「ウエストハム」及「イーストハム」地區に尚利用し得べき建築敷地廣域を調査したるに「トリニチー」の最高標水榜の水位以下の底地を包含して約五十エーカーに上ることを發見せり、之等の土地は既に小區域に分割され且散在せる故住宅經營に充つべき餘地なきが如し、しかも之等の土地は高價にして一エーカー三千磅を要求するものもあり。

斯事項に連關して本委員會は「ダブリン」市計畫懸賞の際市助役の報告書の左記一節の注意にせられん事を希望す。

『他の諸市と同じく「ダブリン」市にても一般應募者の了解せざりし點は人口密集の都市に於ける勞働者の郊外地に居住するは經濟的に不可能なる事なり。乍併交通機關の完備せるか產業の分散に伴ふ運輸機關の整理せる都市にては既に成功を齎せるもの多し、大商業港にして充分に斯の理想を實現せるもの甚だ稀なり(アントワープ港の如き其好例なり)斯の種の都市に在ては、船渠持主さへ郊外に居住し郊外鐵道を利用して通勤し、村會へも電話にて通話し、彼等は其餘閑を花園、所有地或は其他の農園の耕作に費しつゝあり、則ち、船渠主はいはゞ百姓にして船舶を副業とせるものなれば、彼等の所得の增大すればする程都市及郊外双方の利益を增進しつゝある也。』

斯くの如く將來の考察及問題の範圍に關しては本委員會は「リッブルロード」以北の左記の地區に於て田園地の大敷地を得ざるべからざる事を提言す。

第一に於ては(イ)「バーキング」敎區の「イーストブリー」村及び(ロ)「ダーゲンハム」村に候補地を求め、第二期に於ては「イーストチ

ルブリー」迄をも含む濱出地の買收之なり。何れにしても之等の地區に於て住居の目的に充つ土地ならば兎も角強制執行によりて買收すべき也。埋立用砂利及川砂の如きは附近に於て採取し得らる。

起伏高低ある土地、樹木多く又多くの好ましき形狀の敷地は近郊田園地として最も適當ならしむる事を得べし。（未完）

## 社會政策と商工政策の代表的都市

デュッセルドルフは模範的の田園都市で、世界各國都市中で最も多くの事業を經營し、最も進歩した都市社會主義的施設に依つて市民の幸福を增進することを講じて居る。都市の事業に對しては、市民は全部擧つて贊成者であつて、曾て反對的態度に出でない。併しそれでは市民なり市政者は社會主義であるかと思ふと、そうでもない。市の幹部は皆立派な實業家である、市會議員を選擧し、參事會員、市長を選出し、そして、種々な社會政策的施設に對する輿論を作り、之が實行を促す者は皆商賣人たり實業家たる市民である。

之に反して、フランクフルト、アム、マイン市は、都市實業政策の模範的なるものである、デュ市と同樣、其規模の遠大にして經營の大膽なる事、市政の徹底してゐる事とは、他に殆んど類を見ない、南獨逸の中心地に在つて、昔はハンブルグ、ブレメン等の樣に自由都市で、其位置が丁度ダニューブ河とライン河の交叉点に在る所から、東洋西洋の物資の交換所であつた。從つて其商業は古來隨分盛大を極めたもので、今日歐洲都市中、一人當富力の点に於ては、アムステルダムと共に最優位を占めて居る。——「模範的都市德國」より——



# 建築樣式の意義を論ず

會員　波江悌夫

(一)

## □序論

建築の樣式に關する議論は從來幾多の先輩によりて發表せられたる所に屬す。殊に明治四十二三年の交に際しては我建築界を擧げて最も熱烈なる樣式論の勃興したる時にして建築學會はために前後二回の對論會を公開して將來に對する或種の解決を求めんとしたる程なりき、されど不幸にして何等の解決を得る能はざる己ならず、爾來時と共に樣式に關する研究は冷却し、却つて建築の構造に關する特志研究家の輩出して全然別途の方面を遺憾なき迄に開拓せられたるは頗る奇異の觀なき能はず、蓋し樣式論の一時的勃興に對する反動と觀ば觀られざるに非ず、されど大勢の移動に伴ふ人心の機微を仔細に觀察すれば寧ろ當然なる道行を辿りつゝあるものと解譯さるるの至當なるを覺ゆるもの也。最近に於ける都市計畫論の勃興の如き亦決して成るの日に成るに非ざるを悟らずんばあらず。建築學に關する特種部門の蘊奥を極むる赤誠は亦建築を離れて高く社會的觀察を敢行するの勇斷と相通ずるものなかるべからず。かくて幾多の方面に於ける幾多の開拓は、翻て我建築界の向上發展に資すること大にして、貴き收獲を齎らす所以なるべきを信ずるものなり。

我國に於ける近代文明が五大洲の覇たる英國に負ふ所頗る多きは言を俟たず、殊に我建築界に洋風建築の輸入初まるや範を英國に採

り、專門學校の講師は主として英人を聘し、多くの先輩は交々英國に學び、學術の諸參考書は殆んど英書に據れるを觀れば思ひ半に過ぐるものあり從つて建築學上の用語は殆んど英語に限らるゝ如き有樣にして英國流の建築觀は今日尙建築家の腦裡に植ゑ付けられ牢乎として不拔の勢あり、曾々古代英國流の建築構造法が震災多き我國狀に合致せざるものあるを悟りて以來、文運復興期諸建築の咀嚼漸く起り、進で古典的建築の研究に入れるは明治後半期に建設せられたる我國建築物を通覽すれば理解せらるゝ也、斯間に於て笈を獨米佛諸國に負ひて歸朝せし諸先輩は、亦其學び得たる處を以て關係ある諸建築に應用せられたる處ありと雖、大勢は復興期建築の研究に沒頭せられたるに近し、蓋し近世紀に於ける英國の都市建築は好んで南歐の風韻を帶たるものを要求し、且つ自から一種の風格を順致せる傾向は、惹いて英書を繙く我國建築家の思想に影響せる處尠なからざる也。されば英書を通じて理解せらるゝ建築學上の理論、技藝觀念並ひに用語が我國建築家の間に珍重せらるゝは決して一朝一夕の事に非ざる也。

然るに最近に於ては獨、米、佛三國民の努力に由つて成れる軌を一にしたる新式建築構造法の勃興發達に伴ひ、建築學上の理論、技藝及び觀念は多くの新歸朝者及幾多の新刊書籍によりて交々我國に紹介せられ、佛國に於ける理論發見、獨逸に於ける學說運動、並びに米國に於ける研究實施の齎せる新しき建築觀は前後して我新進建築家の理解を得、忽ちにして斯界を風靡するの勢を成し、幸か不幸か建築構造論の勃興するに到る。寔に大勢の推移變轉の妙味は吾人をして三嘆の叫びを發せしむ。

蓋し新時運の勃興到來するや、人心の機微に觸れ奔馬の勢は驅つて各人をして沈思反省の暇なからしむるの壯觀を呈す、悠揚迫らざる英國民すら尙且斯の如き新時運に知らず識らず誘導せらるゝものあるを觀て我國人の熱

狂的態度は決して怪しむに足らず、斯くて現時に於ける我建築界は英國流建築觀を物の見事に過去に葬り獨逸流米國流の建築觀は手を携へて新時勢を指導躍進しつゝある也。

されば英國流建築觀の産物たる樣式論が時勢の浪に葬られ去りたるは決して怪むに足らざるのみならず、今日古臭紛々たる樣式論の研究は頗る時世を解せざるの嫌なきに非ず。されど時流を追ふのみが我等の任務にも非らざる也、況んや我國民が本來の面目を發揮して日本的建築觀の樹立せらるゝの日果して何時なるべきを想ふとき、忘却し去られたる斯の重要問題を未解決のまゝ抛棄し置くの決して喜ぶべき現象に非ざるを感せずんば非ざる也。

由來建築と樣式との關係は最も重要なる意義を包藏して不問に附する能はざるものあり されど之れが研究は深く形而上の考察を俟たざるべかざるが爲めにしかく簡單に取扱ふべき問題に非ず、從來幾多の議論も兎角は形而下的思索に墮し、客觀的一面觀に囚はれて深く其眞諦を提へ得ざりしが爲めに開くべき扉を忘れて開くべからざる門戸を叩くの迷路に立ち、竟に手を空うして止みたるの觀なきに非ず。されば再び荒廢せる道程を辿るの暴擧に出でんとするの士は想を茲に致して其目的を明かにせずんば到底前車の轍を踏むの外なかるべきを感ずるものなり。

曾て故文學士富尾木知往先生は吾人を戒めて曰く

『諸君は建築と樣式との關係の離るべからざるものあるを識らん、樣式を離れて建築なく、建築を離れて樣式なし、然らば樣式とは何ぞや樣式其ものゝ意義如何、若し樣式の眞義を識らずして建築の意義を云々する者あらばそは甚しき無謀なるものなり、諸君は建築材料の性質強弱を知らずして之を使用し得べきか諸君が建築の專門的技術を考究するの餘閑を利して建築の樣式の內容意義を講究するは決して徒爾に非ざるなり。近時樣式に關する論

議斯界に喧しと聞くされど遂に樣式其者の意義に一刀を加へたる有志家を觀ず、遺憾至極ならずや、諸君或はいはん余等は建築家なり須らく其專門的技能を練磨すれは可なりと、或は然らん、されど識るは不識に優る諸君は稍もすれば圖上に樣式の說明を試む、或は史上に例を提へて其俱体的形式を書きこれ何々式に屬するものなりと、されど遂に門外漢をして首肯せしむる丈の明答を與ふる能はず、蓋し自家未だ明確なる理解を執へ得ざるが爲ならずや、或は曰く「樣式とは時代精神の反照なり」とこれ說明の第一步なり更らに數步を進まざるべからず、之を要するに諸君は作家の立場に於て樣式に關する眞摯なる研究を敢行するの必要ありと信ずるものなり』。

先生の言今猶耳に殘りて忘る能はざるものあり、爾來幾星霜を經、先生既に逝いて白玉樓中に在り、頑鈍徒らに閑日を送つて空々寂々たり慚懷に禁へざるもの頗る多し。茲に本稿を草するに際して追懷止まず、實にや先生の言の如く樣式論をなすものは先ちて『樣式とは何ぞや』の解決に本論の鑰鍵を握らざるべからず。若し夫れ此の鍵を破つて其門戸を開かんか幾多の疑問は忽ちにして氷解するや必せり、若し夫れ此の門扉を開かずして他に解決の道を求めんとするは殆ど木に椽つて魚を求むるに近し、果然樣式論の冷却消滅は由來する所頗る深遠なる也。

吾人何等の確信なし、蓋し本稿は自己の思索し得たる多少の結果を擧げて諸先輩の御叱正を請はんとするに在り、同人伊藤清造君曩に玉稿を本誌に寄せられ忌憚なく其信ずる處を述べらるゝ在りて敎へらるゝ所尠なからず深く同君の厚意を謝すると共に更らに自家の信する處を開述して研究に資せんとするものなり。



# 都市と建築

## □都市と住居問題

神戸高等商業學校教授　阪西由藏　演

都市に關する諸問題に就いて熱心なる研究者の御會合の席上にて亦管見を述ぶるの機會を得たるは寔に光榮とする處なり。

都市の問題が我國に於て近時大いに其歩を進め來りたるは寔に喜ぶべき現象なり。從來都市の諸問題に關しては相當に考慮を加へられ居たりしが社會の輿論を換起するに足らず、非常に重大なる問題なるに拘らず、自然の成行に推移して今日に到る、既に各方面に於て缺陷を發生し大なる苦痛を齎し來れり、吾々は完全に都市生活の幸福を享有する能はざる狀態なり。此の時に方り斯の都市研究會の成立せるは寔に喜悦に禁へざる處なり。

昨年の夏、政府にては都市計畫調査會を組織し、既に計畫法案及び建築法案を調査し、今議會に提出せらるゝに到れり、吾々は一日も早く其實行を要望せざるを得ず。此都市研究會亦此要求に生れたるものなるべし、本來都市に關する各般の研究は決して中央政府の指導に任すべきものにあらずして、各都市市民の熱烈なる努力に俟つべきものなり。今や政府は各方面の知識者を召集して着々其調査を進めつゝあれども、地方重要都市は如何なる方向に又如何なる方針に計畫を立て改善を實行すべきかに就いては特に愼重なる調査を拂はざるべからざる也。

抑も都市生活に關しては各種の問題あり。衛

生に關しては上水、下水、交通に關しては市内及郊外の運轉系統及街路系統保安に關しては各種の取締規定條令、建築、公園に關する諸設備の完成等頗る多方面の問題を包容す。之等に就いて我國にては未だ何等の完全なる調査あらず歐米先進國に劣れること甚だ遠し。故に止むなく之等先進國の行ひたる成績を模倣し、判斷して進まざるべからず。今日吾々の都市生活は全く亂雜にして幼稚極まれる狀態なり。現に神戸市に於ては屎尿問題發生せり、しかも是れ決して小なる問題に非ずして都市の重大問題なり。市民は眞面目に解決すべき事項に屬す、進歩を促がす爲めには大いに正論正義を高唱せざるべからず。從來斯種の問題は我國民の全く閑却したる處なり。乍併今日の都市は此二十年來大に進歩したる跡頗る多し、多くの洋行歸朝者は其見聞する處を齎らして、彼此對照して改善すべき事項に着目して實行を圖り公園、道路、水道等に關しては一年毎に其成績の視るべきもの多し。蓋し都市改造の具体的問題は主として技術上の問題にして大いに技術家の研究努力に俟たざるべからざるものあり。街路に於ける安全地帶重要地域に於ける公園、遊園又交通機關と其系統の整理、街路の方向幅員を如何にすべきか又街路整頓に伴ふ掃除清潔の方法等吾々は技術家の調査研究によりて完全なる良果を齎らすべきを望む。乍併我國の現狀に在りては完全なる計畫は中々出來ず何となれば經濟上の方策なければなり。我國の技術家にして歐米諸國を視察して歸朝せらるゝ名士は甚だ多く、彼の長を執り我短を補ふべき數多の成案を有せらるゝ筈なり。乍併我國今日の經濟的事情は其等の成案を實行するを容されず、蓋し實際的必要起らざればなり。道路に行ふべきアスファルト補裝工事地下鐵道、高架鐵道等は現代文明都市の當然なすべき事業なり。乍併日本の現在は其必要を痛切に感じつゝありや、既に高架鐵道問題すら行惱みつゝあり、都市を貫通する鐵道線路の爲に街路交通上にも大なる支障を感じつゝあり、之を地下線にするか高架線になせば可なる事は明

瞭なる事實なり、其必要に迫らるゝの機に達せず、畢竟經濟上の實際問題として今日迄に解決實行せられざりし也。

然るに今や好機は到來せり。近時我國經濟界の發展は事實に於て之等の事業を促進すべき機運を齎し來れる也、斯の好機を逸せずして吾々の都市生活の幸福を增進し、都市の膨脹に順應すべき改善を斷行したきものなり。今日村落の人口が漸次に都市に吸收せられつゝあるは明瞭なる事實なり、都市の問題は寔に國民全体の問題にして決して等閑視すべきものに非ざる也。

都市に關する諸問題中最も重要なるは住居問題なり。都市に於ける住宅は近時大いに不足を告げ、延いて道德上物質上に影響する處尠なからず、斯くて數多の議論、幾多の提案起り來れり。而して歐米諸都市に在りては之等の問題につき着々調査研究を開始し續々實行しつゝあり由來都市の住宅問題は今日に始まれるに非ず、都市の生活の不良となれるは主として衛生上の問題發生せる結果にして、又住居の不良、家賃の高價なる事によつて大なる苦痛を感じ來れる爲也。而して國民の中產階級以下の數は近時益々增加せるが爲めに益社會的壓迫を加へられ其生活は漸次に不良となり來れり。かくて彼等の都市生活に大なる影響を齎らせるは實に都市の住居問題に外ならず。而して其主要なる原因は工業の勃興發達也。工業の繁榮は農業國をして工業國たらしむるに到れり、從つて國民の衣食する割合減少し來りぬ、英國の如き今日世界第一の工業國にして人口百に對し農民拾人に過ぎず。其他の諸國も良かれ惡かれ經濟思想の勃興に伴ひて工業時代に踏み入りたれば農業本位の經濟組織は一變するに到れる也、從來中產以下の國民は寧ろ田舍に集中しつゝありたるに相違なかりしも今日は之等の階級に在るものは擧げて都市に來襲し、資金に働く勞働者なるもの都市に發生し、延いて都市に住宅問題の起源をなすに到れり。

現に各國諸都市は皆地價の暴騰を義餘なくせられ都市の家屋は數層を重ねざるを得ざるに到

り、都市は上方に縦に膨脹するの結果となりぬ我國に於ては都市は横に膨脹しつゝあり、斯る現象の特に著しきは、國民生活の未だ經濟的に徹底せざるが爲なり。歐米諸國に於ては早くも都市に高層建築を發生し其大なるものに在りては幾多の家族を住居せしめつゝあり、從て斯種の家屋は營利會社の經營する處と成り、家賃高價にして勞働者の多くは大家屋の上層に寄寓するの止むなきに到り苦痛漸次大を加へぬ、かくて彼等勞働者は比較的高價の家賃を支拂ふのみならず、彼等の生活費は亦高率を保ちつゝあり蓋し勞働者は常人よりも多量の食物を要求す。或有名なる學者の『人貧しければ愈其生活費を增す』といへるは事實なり、彼等は又『貧しければ貧しき程高價なる家賃を拂ふ』に到れり、されば勞働者の都市生活は經濟上の困難愈甚しくして止まる處なく人口の增加に伴ふて家屋は增加せず、甚しきは一家族僅かに一室を占有するの結果を視るに到り、彼等の生活は衛生上の缺陷を蒙り來り都市の住居問題は勃興せざるを得ざる事となれり、甚しきは一室に十人位住居せるものあり。斯くの如きは衛生上の有害なる結果を齎らせるは明かなる事實にして、都市の住居は是非改良を加へざるべからざる也。

然らば都市の住居改善の方法を如何にすべきや、先づ以て都市住民の數と住宅との調和を圖らざるべからず、市民の過住、密集を禁じ、之を郊外に移し更らに彼等を收容すべき家宅を新設するの豫定計畫を立てざるべからず。斯くの如き改善の途を得んが爲めには第一に都市整理を斷行し充分なる監督を加へ得べき條例法規を確立せざるべからず。第二に都市の衛生的素質を向上せしむるために空地を利用して數多の中立地域を配置せざるべからず、第三に土地政策を立て私有地の整理を加へ都市自から市有地をして小住宅の增設を計り住宅改善の實を擧げざるべからず、之等の理想を實現せん爲めに工夫したるは田園都市（Garden City）なり、英國に於て田園都市の經營を實行してより約二十九年經過せり、而して大いに滿足なる結果を得たる

が爲めに各國其轍に倣ひて研究調査を怠らず、蓋し都會は便利なり、されど住居するには面白からず、村落は衛生的なり、されど各種の設備面白からず、道路の不良、交通機關の不備、市場敎育博物館等の施設なし、斯くて此兩者の長所を採用して新市街を建設せしなり、則ち一定の計畫を立てゝ上下水、學校、寺院、鐵道、交通、公園等各種の設備を完結して其理想を實現せしなり。而して其理想の貫徹を圖るが爲めに各種の團體を組織して着々實行を圖りつゝある也。

斯種の田園都市の先驅とも見るべきは各工場にて隨意經營せるものなりき。之等の社內に於ける經營には頗る模範とすべきもの尠なからざりき。されど之等の新經營市街は常に雇主の臭味ありて公衆保健の目的を主とせるに非ず、必ずしも立派なる動機あり主義ありて其理想を實現せしに非るも、尙自由なる經營を斷行して其理想の幾分を實現し、自家の營業上にも繁榮を齎したるものあり。之等の理想は本來獨逸に於て起りたるものなれども廣く實際上の効果を擧げたるは英國也。着々顯著なる成功を遂げ却つて其影響を獨逸に及ぼしたる程にして其經過は頗る興味多き歷史なれども、茲に詳述するの餘裕なきを遺憾とす。

都市の住居問題に關しては昨今我國識者の注意を喚起しつゝある處なるが、歐米に於ても從來營利會社の手に據りて數多の住居は供給されつゝありたる也、都市が下級吏員のために住居を與へたるは獨逸の『ウルム』市を先驅とす。『ウルム』市は獨逸南部の小都市にして中世紀時代より發達せるものにして從來あまり知られざりしもの也。其人口も五萬に過ぎず、乍併其經驗したる住居問題については大いに學ぶべき點あり、其實現せし住居は大に見るべきものあり、予は『ウルム』市の經營せし住宅の模型を覩、仝市長の報告書を一覽せし事あり。

『ウルム』市に於ては實に一八八八年初めて勞働者及下級從業員の家屋を建設したり、市の中央に近く三層樓を建設し二十一組の住居を備へ

たるが當時に於ては蓋し時勢の先覺的市營建築といふべき也、乍併其實際上の結果は不成功に終れり。幾多の家族をして住居せしめたる此の建築物は不幸にして二箇所にのみ階段を有せしを爲、各種の問題發生して喧嘩口論絶えず紛亂甚しかりければ、結局大なる經驗を得たる事となり、更に住居の改善をなす爲に一八九一年市の援助により土地の有識者にて建築組合を組織する事となれり。よつて更らに調査研究する處ありて三階建の住居を建設し界壁を設けて略六家族宛に區劃し、漸次建設し行きて十八棟を新築し三百六十人を收容せり。而して斯の新住宅も其實際上の結果尙數多の弊害を發生したり。

故に『ウルム』市は一八九四年に到りて自營の田園都市を經營し、且つ市營住宅を集中せんとし約四五町歩の敷地を求め漸次住宅を築造して年々擴張せり、斯の田園都市は其二十パーセントを建物敷地に當てたり、從て道路狹隘なりき、されど各家庭園を有し上下水設備あり、又電車、寺院、學校を新設して着々經營を續行し二つの家族をして一棟を有する事として七八年前迄に二百三十二棟を建築したり。

斯種の住宅は從來の經驗によれば貸屋にするは大いに考へ物なり、何となれば貸家なるが爲めに家屋を大切に使用せざる弊風あるを以てなり、よつて少なくとも建設費の一割を住居者に出費せしめ年三分の低利に成し崩しの方法により種々の條件を附して貸與する事となり居れり更に考へざるべからざるは、『スペキユレーション』の防止策なり、蓋し營利の目的を有せしむるときは賃貸料高價となりて弊害を伴ふ結果を見るが爲なり。故に市に於ては家賃の制限、改造の條件、破產の場合等を規定し機械的のものにあらざる樣考慮を加ふるに到れり、されば都市の住居問題は我國に於ては尙大いに研究の餘地あると同時に吾々は都市に於て自營の必要ありと認むるもの也。

予は日本の諸都市が都市計畫の事業を今日迄忘却しつゝありたるものとは思惟し居らず、從來各種の經營に努力しつゝありたれども尙頗る

小規模の範圍を脫せざりし也。又今日の都市計畫の新事業を大規模に畫策するも決して尙早なりとは考へず、蓋し完全なる技術的計畫は既に實行の機運到來せりと信ずればなり。

終りに莅み從來幾多の計畫をして其日暮らし

# □都市の下水道に就て

京都帝國大學工科大學敎授工學博士 大井清一 演

時間も漸次切迫の際なれば極めて簡單に申述べん。今回御當地に都市研究會が出來、茲に第一回の講演會を御開きになつたのは、寔に結構な事でありて既に市區改正委員の任命もあり、都市計畫法案も今議會の議に上らんとするに方り、時機を得たるものと想ふのである。又ヴエルサイユ宮殿に於ては、今や各國の政治家が世界の大改造を論究しつゝあるの時、我日本に於ては各都市が其天惠的發展より進んで人工的の改造を行はんとするは當に一大好機といふべく殊に一國の文化は其大都市の各文明的設備如何の膨脹たるは我國從來の過痕なれば、斯の機に際して大に統一ある豫定の計畫を樹立し、將來の都市を改造せん爲めに大規模に又充分に研究せられん事希望に禁へず。（了）

によつて代表せらるゝが故に、極めて緊要の事と信ず。

御承知の如く、數十年來各都市の人口大いに增加しつゝあり。斯の趨勢は實に現代に於ける一大傾向にして、都市に集り來る人口は大いに新しき享樂と幸福と健康とを增進したしとの希望を有するが故に、都市生活の各種設備を經營畫策しつゝあり。則ち瓦斯、電燈、水道、下水等の諸設備を全からしめん爲の各事業起りつゝあり。而して之等事業の中當然爲すべきものと又必然爲すべきものとの別あり。電氣鐵道、電

燈、瓦斯等の事業は、都市に當然起るべき事業にして、經濟的に、社會的に又文化的に大いに必要なるものなれども、之等の事業よりも更に必然的必要のものあり、それは吾々の生命健康に關する事柄にして、吾々の幸福を損じ、吾々の安寧を破るものは、病氣並に死亡に關係する問題なり。斯の問題を講究するが最も大切ならずや。殊に怖るべきは、都市を襲ふ所の傳染病也。彼の窒扶斯、赤痢　虎列剌等の傳染病によりて生命を失ふものあるは如何にも殘念至極にして、之等の疫病を擊退せしむる事が全く不可能なるものならばいざ知らず、今日の學問に於ては、其滅退策は不可能なるにあらず。要は資金と市民の努力とに藉りて立派に出來るものあるを知らば、一日も早く其理想を實現したきもの也。京都にては兒童を襲ふ疫痢なる病氣ありて、之に殪るゝ者多し、其兩親の悲痛哀傷寔に氣の毒の至りなり。故に吾々は如何にもして都市の改造改善の上に技術家として飽くまで之が救濟の方法を講ぜざるべからず。予は信ず我國都市の改善に必然缺くべからざる設備は實に水道と下水の二問題是也と。則ち一方に潤澤なる良水を得ると同時に、他方に下水の排除を完ふせしむるを得ば、都市生活の向上、善美、而して安心を獲得し、健康に對する保障を期し得べしと信ずるもの也。

今や神戸市に在りては、既に築港工事成り、又巨費を投じて上水道工事の大々的擴張を斷行せられ、着々理想に向つて突進せられつゝありされば水道問題に就いては姑らく觸れず、茲には下水問題に就いて少しく御清聽を煩はさんと欲す。

下水問題は決して新しき問題に非ず。今迄に何邊も論じ來りたる問題にして、歐米各國を視察し來れる人々は、如何にも貧弱なる我國都市の現狀を觀て不滿を感ずべし。扨て吾々の生活に必要缺くべからざるものは、空氣と水と食物となることはいふ迄もない。而も斯の三者は其新しきものこそ有用缺くべからざるも、一度使用したる後は最早不必要なるのみならず、無用

を通越して有害なるものとなる也。之等のものを如何に處理すべきか、如何にして之等の物を安全なる狀態に化せしむるか、是が即ち問題なり。都市の各方面より不要となれる汚水や、排泄物や、各工場の廢水を出來得る丈早く市外に排泄すべき設備と又之に向つて最も安全なる處分を爲すことが下水問題の根本也。

下水の改良が市民の健康狀態に如何に影響するかは、改良後に於ける死亡率減少の著しきを觀ても識るべき也。英人ワーリング氏は既に今より三十年程以前の事に屬すれども、上下水道工事の改良によつて英國に於ける死亡率の大いに減少せる數字を擧げたり。即ち當時二千萬の人口に對し、衛生狀態改良の結果一年の死亡者拾萬人を減少せりと。蓋し多くの病死者は夥多の罹病者の中より殪るものなれば、假りに貳拾人の病者中一人の死亡者ありとせば、拾萬人の死亡者を救ふは、實に二百萬人の患者を減せし事となるなり。尙之等の事例は『ミュンヘン』『ロンドン』等に於ても實証せらる。斯くの如く罹病者を減少し得られ、死亡者の數を少くし得るとせば、其結果は日常の生活に於て市民の活動力增大すべし、入院患者減少して都市民の能率を增進すべし。又、防疫事業の費用を減少し來るべく、是れを市經濟上より見るも、寔に有用なる生產的の事業たり。故に下水道の設備は、上水道計畫と相關聯して攻究せられざるべからず。寔に下水と上水とは車の兩輪に比すべし、鳥の双翼に譬ふべき關係なり。則ち當神戸市の如き水道計畫の成功を見ると雖も、未だ以て充分といふべからざる也。

獨逸の『ペッテンコーファー』氏の言に『都市の改良は其下水の排除を全ふして後初めて遂げ得らるべき也』といへり。下水問題は實に都市計畫事業の第一步に解決すべき根本問題也。古代羅馬の市民が隨分數多の事業を遺せる事は諸君の御承知の事なるべし、而して當時世界の實權を把握せし羅馬市は、不健康地なりき。而も彼等は上水並びに下水の設備を完備して市民の雄飛を成就せしめたり。實に都市改善の好例を

示せるものといふべし。故に下水の改良は上水道と離るへからざる關係あるものなり。然らば下水の完全なる改良方法は之を如何にすべきか又たとへ下水排除の設備を完ふするとも、其の下水を神戸港灣に排出せしめたらば如何、市民の不安此上なく、神戸港の盛衰にも關係すべき結果を觀るべし。茲に於て下水處分の問題起り來る也。然らば是を如何に處分すべきか、是は今日の下水設備問題と關聯する大問題にして、充分なる調査研究の下に解決せざるべからざるもの也。

其の最も簡單なるは古來各國に於て行はれたる如く河川海湖に投流せしむるにあり、乍併斯の方法は實に沿岸住民に迷惑を齎らす事となるべし。紐育市の如きは斯の方法に據りて下水をハドソン河に投流しつゝあるがために、ハドソン河は濁流と化し、衛生狀態の不良は年々增大し來り、夏季に於ける市民の水浴は不安となりたる結果、今日之が改良策に苦み、竟に下水調査委員會を組織して調査を進めつゝある有樣なり。

又下水を郊外地の田畑に導きて處理する方法を實行しつゝある都市あり。伯林、巴里の如きは斯の方法に據て下水を立派に清淨ならしめつゝありて、其の係員は一杯の淨液を盛りて予に飲んで見よと申出てたる程なり。斯くの如き方法は、研究するの價値あるものにして、殊に我國の如く大小便を有價物として利用しつゝある所に在りては、一考に値するの方法なるべし。又或る都市に於ては、下水を導きて沈澱池に湛へ藥品を投入して之を澄ましむる方法を採用せるあり、倫敦の如きは其好例也。乍併斯方法は藥品に多額の費用を要するの不利ありて、考へものと云はざるべからず。殊に沈澱池に殘留する沈澱物の始末は大に困難なるもの也。倫敦市にては、日々七千一百噸の沈澱物を生じつゝあれば、一年に積れば實に二百六十萬噸に達す。斯の沈澱物を運搬するに、千噸の船を六艘用意して、五十七哩の遠方の海へ放棄しつゝあり。其困難なる事想像に餘あるべし。『グラスゴー』市

に在りては、之等沈澱物を乾燥し、更に之を粉末として、肥料に成しつゝあるなり。或は之等に褐炭の粉を加へて沈澱せしめ、乾燥の上燃料に使用しつゝある都市もあり。

其他細菌相互の作用を利用して其危險性を除かしむる方法を採用せる都市あり。現に東京市の淺草、下谷方面に於て下水處分を實施しつゝあるは斯の方法に據れるものなり。外國にては『バーミングハム』『コロムブス』(米國)諸市の如きは斯の方法を實行しつゝあり。

以上要するに、歐米諸國に於ては、人口二千人以上の都會に於て下水の設備なきもの殆んど無くして、今日は皆其處分方法に就き大いに研究しつゝある有樣なり。顧て我國は如何、我日本に在りては、下水を適當に導く工事すらも完成せる都市少き有樣なり。漸く名古屋市が三百十五萬圓を投じて其下水工事を斷行せる、廣嶋松山兩市が下水計畫を實行せるの外、東京市が四千萬圓の大豫算を以て、其第一期工事を淺草下谷方面に着手せるとの、大阪市が前後數回に亘りて改良計畫を施行せし位が關の山なり。されば下水處分問題に觸れたる都市の如きは殆んど尠き有樣にして、歐米諸國と對比すれば、世情一段と隔りたる事を痛切に感せざるを得ず。乍併歐米諸國の現狀は決して其歷史的經歷が古き故に完きにあらず、漸く過去六十年位の發達に過ぎざるもの也。今や都市計畫問題が折角高唱され來るの好機に際し、市民一般の理解を進め下水問題の解決を斷行せざるべからず。

下水問題に附隨して考慮すべきは蚊の問題也蚊の退治策は下水問題の解決と關聯す。蚊害は云はずもがな、而して蚊は實に汚水濁水の溜水より發生し來る。されば下水の排除に藉りて其發育の根元を一掃するを得べし。尤も下水の排除は直に蚊の根治策とは云ふ能はず、何となれば蚊は市内各所に散在する溜水よりも發生するものなればなり。仍て之等は市役所に於て相當の取締をなすを要す。歐米諸市に在りては、特に蚊の撲滅隊を設けあるなり。殊に『マラリヤ』病の發生盛なる濕潤な地方に於て然りとす。

既に一九〇二年『スエズ』運河地帶の『イスメリア』に於て蚊の撲滅の方法を徹底せしめて成功せる事例あり。一九〇五年には『パナマ』運河地方に於て成功あり。彼の有名なる『レセップ』氏によりて着手せられたる、此の世界的大運河が終に米國の手に悉せられ、『ゲータルス』大佐の手腕によりて成就せるは既に世人の知悉する處なるも、蚊の撲滅策其宜しきを得て、『マラリヤ』病の發生を根治せし事實が彼の成功の一因たるを聞かば、事小なるが如くして實は世界の大勢に影響せる所多きを識るべからずや。

蚊の問題に連れて逸すべからざるは、蠅の問題也。蠅の發生は塵芥汚物の問題に關係す。蠅が窒扶斯菌の傳播を司り、病源菌を撒布するの媒介者なる事は、世人の識る所なるべし。故に塵芥の處分問題は亦都市衛生問題に關係する處多し。併し今日は最早時間なし、依つて之に就ては他日の機會を俟たんとす。

要するに都市計畫研究問題の第一歩は、下水の改良處分問題を解決する事にして、尙蚊の撲滅策を講ぜざるべからざるに在り。又都市衛生の見地よりして又塵芥の處分を心要とするもの也。今や都市問題の輿論勃興し來れる好機に方り、幸に他日機會を得ば諸君と共に之等の問題に就きて更に研究する處あらんとす。（了）

### ✤ 巴里市の下水設備 ✤

歐洲の諸都會に於て下水工事の眞に發達せしは十九世紀後半の事に屬す。而して、就中最も著しき發達を遂げたるは巴里市にして、千八百五十五年には總計九十哩なりし下水滿渠が、僅か三年間に總計四百五十哩と成り、都合三百六十哩の增設をなせると同時に、三條の大滿渠を開鑿して之を幹線と成し、セイヌ河の兩岸に各一條通じ他の一條は市の北部を通過せしめぬ、之等の大滿渠は延長五乃至七哩深き十呎幅二十呎を有せるものなり(Bloek, Administration de Paris)斯くの如くして、巴里の汚水汚物は悉くセイヌ河に流出せらるゝと雖も屋内の汚穢は之を下水滿渠に放流することを禁ぜられたるを以て河水は比較的に清淨なり



# 名士の住宅觀

## 二重生活と建築

内務省警保局長
法學士 川村竹治 談

### 一

今日の日本は、實に、衣食住共二重生活の時代である。紋附と仙臺平を用意せねばならぬと同時に、フロックコートや燕尾服をも所持せねばならぬ。座蒲團の上で、口取の蒲鉾を食はねばならぬと同時に、ホテルの食堂でフオークやナイフの使ひ分けを巧に遣らかすことをも知らなければならぬ。丁度之と同樣に、住即ち建築も、和風もあらば洋風もあり、又、和洋折衷もあるといふ風に、日本人は、殆むど一切萬事和洋の二重生活を爲してゐると謂つても可い程である。予は、應接間、書齋、及び、事務室は、洋風建築でなければならぬと思ふ。約り、我諸官廳や會社若くは商店抔が、今日では殆むど洋風建築のみであることは何よりの證據である。而して、斯の洋風建築は、横には擴がらずして縱に縱に擴がつて行くことは、動かすべからざる大勢であつて、而も、縱に縱にと擴がつて行つた建物が、漸々に成る可く一箇所に集り、そこが最も殷賑な商取引の中心街衢となるといふ傾向が益々顯著となつて來た。斯くの如く建築物が一箇所に聚るといふことが、更に高い〳〵所謂蜂窩窟と成り、摩天樓といふものになつて現はれ來た。例へば、丸の内の海上ビルデング

の如く、一とつの大きな建物が幾百の室に分れ其中に、大きい會社抔がどし〳〵と間借りをするので、大きな商取引も、同じ建物の中で、頗る迅速に極めて手取早く行はれるように成り、益々商業の殷賑を來すことゝなつたのである。

## ＝二＝

現に、米國の紐育、市俄古、其他の大都市にも、斯の種の大建築物が軒を連ね、其一箇の建築物の中に、數多の大會社があり、何十階の高さでも、一々昇降機で上下し、サッサッと大取引を遣つてゐる。東京の丸の内は即ち斯くの如き建物が段々出來つゝあるが故に、恐らく、遠からずして大建築の軒を連ねて殷賑な商業衢となるであらうと惟ふ。

今度内務省から第四十一議會に提出されて通過した『建築法案』中には、九十尺以上の建築物を認むることになつてゐる。是は、從來九十尺以上は認めないといふ規定があつた譯ではないが、事實そういふ樣なものが無かつたから、何とも言ふてゐなかつたのである。現に、前に述べた丸の内の海上ビルデングは、九十何尺かの高さであるが、今後は、恁ういふ樣な建築物が增々殖るであらう。

既に、都會の中心に殷賑なる商業衢が出來る以上は、住宅として斯の中心を離れた境域内に居を卜さなければならぬ。即ち、都會生活には必ず郊外生活が之に伴はなくてはならぬ。殊に俸給に衣食する處の所謂サラリーマン等は家賃其他の物資の價格が不廉な都會に到底住み難い又、健康の上からしても、郊外の空氣の良い處に住むべきことが、生活上必然な要求である。郊外の住宅も、日本の現狀から云へば、寔に不經濟な生活ではあるが、當分は、矢張り和洋折衷の建築を採るを以て先づ調和的な住宅ではあるまいかと思ふ。蓋し、我等日本人の現代に於ける生活は、前にも述べた如くに、衣服も和洋食物も和洋、といふような二重生活であるから純然たる日本式な建築とか、或は、全く西洋風な夫れとかいふ譯には行かない。

## ＝三＝

併し、將來としては、必ず洋風建築が漸次增加して行くといふ事だけは事實と認めなければならぬ。郊外の住宅は、成る可く樹木を以て圍み、庭園等も成る可く廣くなければならぬ。都市の建物が、縱に縱にと擴つて行くように、郊外の住宅抔は、橫に橫にと擴つて行つてこそ、衛生上最も好都合なのである。唯、之が爲には都市と郊外との交通の便が益々圓滑に而して亦愈々擴大されなければならぬ。或は電車、若くは鐵道、又は乘合自動車といつた風に、交通機關の利便を亨くることが益々滋からざれば、郊外生活の利益といふことは、甚だ以て薄らいで來ることになる。殊に、今後都市に大工業の起るに隨つて、勞働者の數も非常に多くなることである故に、彼等に其生活の安定を得さしむる一とつの方法としても、郊外に住宅を得るのが先づ其徑捷な方法で、之が爲にも、交通機關即ち郊外と都會を結び付けて成るべく短距離ならしむるの機關、更に言ひ換ゆれば勞働者と其仕事とを結び付くるの機關たる交通上の施設が層一層發達して來なければならぬことは、住宅問題に伴ふ當然な要求である。

## □味あり色ある建築

大阪府知事　林市藏談

『自分の住宅觀を話せといふのですか？、ハッハッハッハッ……夫れは什うもちよつと困りますね……宜しい、まあ野次的に一つ話しましようか。先づ、自分の考としては、奈何に宏壯な住宅でも實際に不斷役立つて、謂はゞ、我等が住宅としての効果を切實に亨くる處のものは僅に一間しかないと思ふ。例へば家族と同棲してゐる場合を想ふてみても、我邦の習慣として主人が居る處には多くの場合細君が居り、兩親の息ふ處には得て子供も遣つて來る。子供部屋と

か書齋とかあつても、本來は一つしか役に立たない。子供でも部屋に行つてゐるような場合は得て良い場合ではないと想ふ。勿論、家庭教師杯を置けば格別であるけれども。であるから、住宅といふ事に就ては、什うしても、一間を主とし、之を中心として設計するが良くはなからうか。然るに、住宅の建築とし云へば三つも四つも主として設計するから、一体何處が住居生活の中心場所だやら判らないことになる。謂はゞ、住居より亨くる不斷の利便抔といふとは何處を主とするのだやら見當が付かないことになる。自分は、曾て、官舍や社宅に就て、自分の物のように設計してみたが、矢張り一間を主として設計した。そうして、之に種々なるものを都合よく配置することは勿論必要である。

由來、素人が家屋を建造するには、約り、理想で建てるの傾向がある。勿論、資力に餘裕ある人は、住宅に種々な場合を想像して、事務的に又交際的に、夫れ夫れの部屋を作るとは必要であらけれども、唯、大きい家を建てゝ宏壯とか、輪煥の美とかいふことに足れりと做すようでは、實は建築に餘り趣味の無い人であると惟ふ。素より桃山御殿とか何とかいふような建造物は格別であるけれども、只駄々つ廣い尨大な住家で、夜分あたり女中抔が薄氣味の惡い思ひをするようなものを作つても。是は、年に一度か二度か、極少い場合しか多くの部屋や其他の設備が役立つものではない。されば、建築に趣味を有つて家を建てれば、家の大きいといふことよりは、家に味のあるのが可いと惟ふ。言い換へたならば、所謂色のある建築でなくば、奈何に廣大な建築でも感心は出來得ない。即ち、小くても縱し狹くても、色を有つてゐる建築の方が、其處に引締つた命があつて面白い。自分は、從來とても、屢々大きな家を覽せられたが唯奈何にも大きい、宏壯だといふ感はあつても其處に味も無く色も無いので、一向に什うも感心せないのがある。部屋を拵へるにしても、同じ床を造るにしても、色の無いのは、奈何にも面白くない。夫れは、同じ建坪にしても、凝つ

た計畫を仕て色のあるようにすれば、同じ坪數と同じ費用で、一種の建築趣味を感ずるようにならねばならぬ、左なくば終に飽きるようになる。夜分抔には寂しくて、部屋や廊下を通ることが多少心懸りだといふような、恰も山寺へでも行つたかの樣に寂味を感ずる宏大な建築では元來温か味に生活の情調を漲らさむとする本據としての目的が喪はれて了ふことになる。若も宏大な許が可いのであつたならば、アノ伽藍抔に建築欲を充たしたら夫れで可い筈である。殊に、廣過ぎると、例へば召使抔を徒に多く要するような、勞力上に於ても頗る不經濟な關係もある。

序にお話したいのは、洋館と和風建築との關係であるが、洋館を使ふのでは、主として應接部屋としての場合である。是は、餘程利用すべき場合が少い。矢張り、部屋の構造は、所謂和洋折衷の方が心持ちが好い。即ち、よく障子の在る洋館で腰を懸けるように成つてゐるのがあるが、アレです、自分は彼樣なのが好いと思ふ然らば什うしても家の高さになるが、近來、天井を一段切り上げたのがある、障子の在る洋館としては、斯の式なのが好い。

次に、煉瓦構造の洋館では、什うも光線の取り具合が、多くの場合理想的でないように惟ふ例へば、相對して話をする場合に、光線を背に受けてゐる方は大層都合可いが、正面に受けてゐる方は、什うも話が仕惡い傾きがある。故に光線は、相對する者の横から柔に兩者間に抛られるように構造さるゝのが理想的である。彼樣に横から公平に光線が攝らるれば、庭を眺めつゝ話すとかいふ風に、其處に一種の情緒を帶びて相語ることが出來得る。其他、應接間の大きさ抔も亦洋館としての考慮に入るべき一とつである』云々。

話說は夫れから夫れへと、娓々として竭きず折柄の訪客に、尙府尹を煩すも心なき業ざと思ひを遺して辭去すれば、廳外の楊柳既に春を語つて屋舍屹たり。

（江村生）



# 現代社會觀

## (三)

現代の衣食住が未だ過渡時代を脫し得られぬ狀態である以上は、住宅にしろ服裝にしろ料理にしろ混沌として何時歸一するか解らないのは止むを得ない、二重生活といふ精神的にも物質的にも一種不可思議な境遇に困て居る日本人は甚だ不幸な國民といはねばならぬ。が、さて此の難境を解決して眞に徹底せる現代生活を得るが爲めには什うしたらよいか誰も明解な答案を與へる人は居らない。理論の上からは幾多の解決が下されてゐる。それも世の中は理屈通りには參らぬがために現在苦しい間にも平然として不相變矛盾な生活を續けてゐるに相違ない、隨分現代住宅の改良を研究してゐる篤志家が澤山にあるが名案の出ないのは社會生活の根本問題が更らに解決して居らぬ爲である。服裝の改良も久しいものである食物に對する工夫も一日の事でない。それだけに約半世紀間の長い時の流の跡を觀れば唯哄笑の外はないのである、保守か進取か、消極か積極か、牽乎として拔けざる舊風舊慣の鐵門は今に頑固な扉を横へてゐる。

嗚呼半世紀の時の流、滔々として逝くすさまじい時勢の大潮、此間に著しき服裝の改良も現れないのに婦人の頭の髮丈は明治後半期に恐るべき改革を斷行してゐる。國會開設前後から初まつた束髮といふ簡便な結髮は時には急激に時には緩漫に其流行を遂げて來たが明治末期に入つては各種の變型を產出してゐる。川上貞奴によつて始められたといふ廂髮も稍遲れて流行し、あらゆる階級の婦人を襲ふた勢は前者に優つて居ると思はれる。藝妓、女義太夫の連中が廂髮で三昧線を握る樣になつたのは、極最近の事實であるがそれすら今は誰もあやしまぬ樣になつてしまつた。此處に到つて時代の力の偉大さを感ぜざるを得なくなる。束髮と廂髮とは明治後半期の產物として一種の型を殘してゐるが、大正期を眺めると更らに亦新たなる時代觀を呼起される。束髮既に過去に葬られ去り廂髮の形式は破壞されつゝあるが爲めに大正初頭を色どる新形式として女優髷の一態が新たなる勢力を扶殖しつゝあるかの樣である。

乍併斯くの如くして新型結髪の流行は果して如何なる効果を現代社會風俗の上に齎らしつゝあるかと想ふとき聊か撫然たらざるを得ないものがある、婦人の生命と迄叫ばれる結髪の新型が社會の上流貴婦人の頭から生れるとは觀られない事である、比較的無鐵砲なる下級社會から産出せられて流行する傾向は德川時代に於ても甚しかつたと教へられるそれもよろしい。事情止むを得ないとして觀た所で束髪―廂髪―女優髷と變遷の經路を辿つて來るとき、曾ては社會の各級に於て夫々の形式を保つて居た頭髪の繩張が明治大正の新時代に於て全く混亂に陷つて居る事については識者の一考を煩はす必要はないだろうか婦人の結髪の形式の如何によつて時代德道の價値をさへ評價し得らるゝとさへいはれる婦人の結髪が現代に於て混沌たるは決して好現象とは思はれない。社會風俗改善に努力せられる上流の婦人達が婦人の生命たる結髪に於て却つて下流婦人の指導を受けつゝある如きは矛盾も甚しいではないか、各自が自己の外裝に凝りて各自の結髪に苦心せらるゝの餘閑を利してしかく重要なる社會的意義を有する結髪に對して明確なる新形式の樹立に深重なる考慮を拂はれて然るべきではあるまいか、明治大正時代を色どる結髪が舊來形式を破壞してゆくのは、一面に於て平等を得んとする社會的運動であるがため必ずしも退歩を意味しない、だが破壞に終つてしまふやうな事は結局何等の意味を齎らさない破壞は建設の始めであるがためには同時に新時代の格式を樹立するべく覺醒しつゝある婦人界の堅實なる努力を希望せざるを得ない。（茅海生記）

# □頭髪といふものは

帝劇女優　森　律子　談

私は職業柄、樣々な髪形（かみかたち）に結ふことがございますし、髪にも趣味を持つて居ます。實際、頭髪といふものは、顔の輪廓を飾るものでありまして、丁度西洋畫ならば額緣、日本畫ならば掛物の表裝に相當して居まして、これの如何によつて、中の畫に相當する顔が引立つたり、引つ立たなかつたりするものであります。それ故昔から髪については男女共に趣向を凝らして來たのであります。殊に婦人は、容貌（きりやう）を生命として居るのですから、その容色を飾る大切な條件と

して、餘程髪には注意を拂つて居ます。そのため、髪は長く伸ばしまして、それを種々の美くしい恰好に結ひ上げ、更に高貴な金屬や寶石や布帛(きれ)やで美くしく飾り立てるのであります。

左ういふ次第ですから、婦人の頭髪の結ひ振りとは、餘程密接な關係がありまして、そこには色々な研究すべきこともございます。例へばその婦人の体格とか顔や姿の特徴とかに依て髪の形もそれに最も適せる工合に結はなくてはなりません。平つたい、額の稍々出氣味(でぎみ)の方であると、束髪が似合ふとか、大きい面長の額であると、文金高島田などの派手な髪が似合ふとか或は色の淺黒いきりつとした女には銀杏返しがよいとかいふ風に皆それ〳〵適不適があるのです。髪のことについて、私が舞臺の上で經驗をした所と、多くの婦人方に接して感じたことゝで、髪の結ひ振りの上手下手や、髪の毛のその物の美くしさよりも、その人柄に似合つた結ひ方をするといふのが最も大切であるといふことをつく〳〵思つて居るのであります。

所が世間には、これをよく知らないで、娘頃には島田がよいからと言つて、小顔の丸ぽちやに大きい島田を載つけたり、大きい幅廣の顔に銀杏返しを結つたりして居る方を見ることがよくあります。それを見る度に私は本當に吹き出したくなるのです。何も一流行の髪結ひさんに結つて貰ふには及びませんから、自分の姿や顔と最もうつりよい髪位は心得てゐらつしやりたいものです。

近頃は一般に日本髪が流行します樣で、一頃の如く矢鱈に束髪づくめでもない樣ですが、實際優しい內氣な日本の御婦人には、日本髪は一番適當して居ますでせう。丸髷は如何にもおとなしくて、上品な奥樣風に見えますし、娘さんの高島田も、實にあのために顔が一段と引き立つて見えるのであります。又つぶし島田とか、銀杏返しとかになると、それこそ日本婦人の外に見ることの出來得ない小意氣な、ぴりつとした風情に富んだものであります。併し束髪だからとて全く排斥したものではありません。油も

ろくにつけないで後れ毛をかさ〳〵とさせた、大きい廂の中から餡粉をはみ出したやうなのは如何にも野暮つ臭くて問題になりませんが、人格のある御婦人で、淡白とお化粧をなすつて、ふつくらときれいな毛筋を見せてお結ひになつた束髪などは、決して日本髪の美くしさに劣るものではありません。殊にあんなに髪を色々と細工をなして、曲めたりなどなさるので、素直に美しくまゐりますので、それこそ西洋畵の額縁の様に見ゑます。一般に手際よく結つた束髪は顔を美しく見せるものです。けれども、あまりにきれい過ぎて、廂がびつたりと張りつけたやうになつて居たり、小じんまりと整ひ過ぎて居たりしますと、却つて不自然に見ゑるものです。何れにしても束髪は階級的の差別のない、平民的な髪形ですから美人向きと申してもよろしいでせう。

しかし小作りの人や、私共のやうに跳つかへりには、矢張り銀杏返しなどが似合ふやうですそれから又洗ひ髪といふものも、案外顔を美くしく見せるものでして、人に依ると洗ひ髪の際は違つたやうに容貌が上る場合もございます。洗ひ髪の何とかさんなど、ふさ〳〵とした長い髪を後ろに捌いて、それで美しさを保つて居た人もあるやうです。昔の御殿女中などの髪もなか〳〵美しいものです。額の上でふはつと膨らして、それから長なす髪をだらりと下げたところ極めて上品であります。髪の本當の美しさはあゝいふ風にして、自然の儘に垂らした所にあるかも知れませんが、當今の様に忙がしい世の中では、そんな風に髪を垂らしても置けませんし、手入れも出來ませんから、あれ程長く美くしくもなりますまい。尚ほ同じ様に髪を下げるのでしても、小學校や女學校の生徒などのやうにお下げにするのはどんなのでせう。あれは大して美しいとも思はれませんし、髪のためにもよろしくありません。幼少の頃は止むを得ないとしましても、相當な年頃になつたらば、矢張り取り上げて結はなくてはいけますまい。

それから、私共の心掛けて居ます、髪の手入

法や衛生法でございますが、職業柄で髪は一日に幾度となくいぢくるのですけれども、それが爲めに髪を惡くするといふやうなことは決してありません。梳けば梳く程髪は美しくなるものと昔から申しますが、實際さうかも知れません。しかし成る可く油を切らさないやうに、それも髪に澤山つけるよりも、頭の皮膚へ擦り込むやうにして塗つた方がよろしいのです。これが毛髪の爲めの營養分になると見ねます。女の子には三才以後毎日三粒宛の胡麻を食べさせると髪がよくなるとも申しますが、それは胡麻の油が髪に效能のあるところから言ふのでせう。けれども髪にしろ容貌にしろ、本當によくなるには身躰の健全と、精神の快活との二つにあると思ひます。身躰の調子が狂つて、營養が不良であつたりなどしますと、きつと髪の光澤をなくしたり、赤毛が多くなつたり、或は拔け毛、切れ毛が出來たりするものです、それから又ヒステリーなどで、くよ〳〵と物思ひに沈んだ場合などにも、髪がぐつと惡くなります。姙婦や産婦の髪のよくないのでも、それを知れるではありませんか。

## □時代風俗と美人連

閨秀畫家　石川丹麗　談

私は多く時代風俗の美人婦女圖を描きますが併し頭談に特に注意を拂つて描くといふことは致しません。それよりは、人間描寫に一番大切なものは眼であると思ひますから、何よりも眼の表情とか、思想の深さとかいふ樣なことを表はすのに最も力を用ひます。そしてそれも單に表面的に美しい眼といふのではなく、もつと内面的な心の美しさが浸み出た眼の美を描かうと思ふのであります。つまり、髪といふ樣な、言はゞ極めて外面的な條件よりも、もつと私に取

つて苦心を要する、重大なものがありますので髪は從つて第二義的のものになつて了ひます。

勿論、髪その物に特に興味を以つて、それだけを研究しますれば、そこに又一種の味があつて、藝術的に表現する上に於ても種々の感興が湧くに違ひありません。それ故昔から特に髪の美といふものを描いた人もないではありませんが浮世繪にしろ、その他美人畫にしろ髪が主になつたかと思はれる描寫もないではありません。現代でも鏑木清方さんの一派ではなか〳〵髪について細微な研究をして居られるやうです。あの鬢のあたりの綾になつた描き方など、實に精微を極めたうまいものであります。殊に伊東深水さんあたりの、小説挿畫をお描きになる方は現代風の髪形にも相當注意を拂つて研究もされ興味も可なり持つて居られるやうですが、私にはそこまでまゐりません。松岡映丘さんも、有職風の女の鬢にはなか〳〵凝られるといふことを聞きましたが、道理で「宝君」でも「道代寺」でも、その他女の髪は皆すつきりとした、實に手際のよいものであります。何でも一々モデルにあんな髪をさせて、それを寫生したのを土臺にして更に工夫を凝らされるといふことです。

私には髪が、それ程に人間描寫の上に藝術的に大切なものとは思ひません。尤も、水の垂れるやうにきれいにお取り上げになつて居る御婦人の髪を見ますと、女ながら惚れ惚れする場合もないではありません。髪だけが立派な藝術品になつてゐるので、その婦人の趣味性も想像されて、つく〳〵ゆかしく感じまして、全くあんな髪を描いて見たいと思ふことがちよい〳〵あります。若い處女で美しい高島田を結つて居られますのなどは、髪その物が女王のやうに見える場合さへもあります。さうなると髪も確に一種の藝術であります。けれども、繪を離れて、自分が實際にそんな髪のために浮身を窶す氣になれるかと申すと、どうもさうはまゐりませんやはり髪の趣味に没頭するにはそれだけの時間の餘裕がなくてはなりませんから、私共のやうに家庭の世話もやかねばならぬ上に、繪畫とい

ふ一つの大仕事を控へて居る身では、私自身を藝術的に取扱ふやうな餘裕などは少しもないのであります。それ故、矢張り、人樣が凝りに凝らして、殆ど一生涯の事業として自分の髪に心を費される、その結果に出來上つた立派な藝術品として、眺めて讃美の聲を放つて居る次第であります。實際に、髪に趣味を持つて居られる婦人方の、苦心慘憺と言ひましたら、我々が詰らない繪を一二枚描く以上であります。さうして出來上つた髪の結びぶりですもの、立派な創造です、尊い藝術品です、決して道樂などゝ貶すべきものではないと思ひます。

私の聞いた所では、横山大觀先生の奥さんはなか〳〵髪に苦心致されますさうで、何れも下谷一番の結ひ手とか言ふ髪結さんに結つてお貰ひになりますのに、その人は非常に忙しいので朝の八時頃でなくては來て呉れないさうで、毎朝早く横山先生のお宅に上つて結ふのださうですが、結ひ賃は一回一圓五十錢だと聞きましたそれで髪は束髪ださうです。奥さんは束髪が大へんお好きなので、外の形には決してお結ひにならないさうです。束髪一回一圓五十錢とは實に私共から見ると驚く外はありません。しかしそれだけ御熱心なお心には感心の外ありません森鷗外先生の奥さんも、餘程お髪に凝られます方で、三日に一度宛、これも一圓五十錢とか二圓とかでお上げになるさうです。私共は實に、さういふ餘裕のある生活が羨ましいと思ひます藝妓衆などになりますと、その苦心は又一段で、髪が殆ど生命でありますから、朝から晩まで髪のこと計り氣にして居るのです。ところが一流の髪結さんとなると皆忙しいのですから、朝の六時に行つて待つて居て、やつと正午過ぎ少し寢坊でもして行きますれば、晩の御座敷に間に合ひかねることもよくあるさうです。何しろ髪を上げなくてはお客樣の前に出られない商賣ですから、御尤もです。

私は先年或る繪を描く必要上、當時新橋の一流の賣れつ妓であつた「おあいさん」に頼んで、或る有名な髪結さんへ連れて行つて貰つて、お

髪上げの實況を見たことがございます。見ますと、私共が結ふ場合と全く結ひ方が違つて居まして、下手の者が三人か居まして、解いて髪毛を梳く人は、さつさとその事ばかりをして居ますと、今度はその次の手間が受取つて、その髪を油で揉んで、美しく捌くことばかりをして居ます。それからその次には、その髪を綾に弛めてふうわりとした、よい恰好に押らすのであります。それから始めてお師匠さん——本當の結ふ人の手に渡りますと、それは手際よく、ちよいちよいと曲藝のやうにしてお結ひ上げになるのですが、如何に髪の毛の少い人でも、それをうまく取つてふさ〳〵と膨らませられますと、どんなに澤山の地髪があるかと思はれるばかりに美しく水々しく結へるのであります。實にその技術には驚きました。少しも入れ毛などはしないで、雲の鬢といふ言葉通りに出來上るのですから、感心せずには居られませんでした。所が、凝る人になると、こんなに苦心をして結つて貰つた髪を、自宅へ歸つて更に自分で鏡臺に向つて一時間も二時間もかゝつて、その型をすつかり直して自分好みの型にしないと氣がすまないのださうです、本當に自分の創作にしようと思へば、そこまで行かないと嘘でせうが、とても我々には出來ないことです。兎に角斯ういふ次第、殆ど一日髪のことばかりで暮して居られる方が隨分あるやうです。さう思ふと、美しい髪の方をうつかり見過すのは勿体ない次第であります。

私自身はそんな次第から、何時も束髪で通して居ます。お友達などが『あなたは江戸つ兒の癖によくもそれで滿足されますね』とおつしやるけれど、何うせ碌な髪に結ふ餘裕がないやうなら自分で手捏ねにした、無骨なハイカラが却つて氣樂でよいと思つて居ます。勿論髪の本當の美しさは日本髪に限るのです。束髪の結び振りも近頃は發達して來ましたけれど、それでも日本髪の優美なのにはかなひません。

# □江戸時代の髪様

女流研究家　稲葉小千談

江戸時代の女子の髪梳について、頗る簡單にお話致さう。

先づ慶長から天和頃まで約二百年までの髪はまだ極めて質素であつて、上流の婦人は大抵大垂髪にして、鬢髪を深く剪り落し、垂髪を着物の下に着込み、上に髪衣を被つて居た。これは幕府方も京都方も同じであつた。勿論、民間の上流にもそれが行はれたけれども、平民は前髪を眉の上あたりに切つて前の方へ垂れ、鬢や髪は出さないで、僅に髪の先端を襟の後で丸く束ねたに過ぎなかつた。これが所謂玉結である。但し遊女は只髪を結び垂れたゞけで、一般の子女とは大に違つて居た。尚ほ明暦の頃から延寶の頃まで、僅の間に流行した切前髪の風といふのがあつたこれはさつき述べた平民が眉のあたりの前髪を切つて垂らすのであつた。一時は一般に行はれたけれども、程なく廢れて、延寶以後は前髪を一つに集めて、髪にして結ぶ様になつたのである。

尚ほ島田髷は、當時既に若い女の髷様になつて居た。その始めは寛文の頃で、東海道島田驛の遊女が始めてこの髪を結つたので、島田の稱があるといふ。併し一説には寛永の頃島田萬吉といふ女役者が始めてこれを結んだとの話もある。そして勿論、當時の髷様は、現代に見るものとは大に趣を異にして居たのである。銀杏髷の濫觴も可なりに古く、明暦の頃に、島田の前髷を銀杏の葉のやうにしたものが流行して、その始めをなしたのである。又當時は兵庫髷といふものが盛であつた。これは慶長の頃攝津兵庫の遊女の結つたのから名が出たとの説と、兵庫樽（片手樽）に似たから斯くいふとの説と二つあ

るが、兎に角、寛永の頃から遊女などに多い。これも今のそれとは稍形を異にしてゐる。勝山髷も寛永頃から始まつたので、大阪の若女形勝山某がこれを工夫したとのことである。但しこれを明暦年間江戸吉原の名妓勝山が、白元結で片輪の伊達結びにしたのが大に世に行はれたのだといふ。後にそれは髷を短かくし、鬢を横へ張り出して片輪の尻を上げて結つた。そしてこれを丸髷とも稱したのである。

それから以後は、寶暦の頃まで最も流行を見たのは島田髷であつて、種類も頗る多く、大島田小島田、やつし島田、しめつけ島田、投島田、揚島田、御所風、抜島田、腰折島田、切炭島田かしまや島田、さわだ島田、小萬島田等の名があつた。兵庫髷はだん〳〵衰へたけれども、形の違つた立兵庫、結び兵庫、横兵庫、うつを兵庫、伊達兵庫等の種類が行はれるに至つた。その他には勝山髷、丸髷、お初髷等は同じ種類で少し宛様式を異にし、一時的に行はれたものである。尚ほこれ等の外に、各階級の民間に見られた髷様としては、少女には銀杏髷、割唐子、唐人髷　かつ輪など、成年以後の婦人には半すべらかし、夫婦髷、かつくる返し（即ち天神結び）をさ船、とりあげ髷を始め數へ切れない程に多くの種類があつた。それ等の中には今日から考へて形や結び様の解らないものも多いが、研究をすれば大体は想像がつくのである。

それから後になると、一層種々の名稱が現はれて、殊に髷に苦心するやうになり、中撫髷、勝山髷、十八髷など、様々の名稱も出來た。又此の頃から十歳以下の子供に、例のお芥子を立てることを始めた。これは罌子（けし）の實（み）の形の如く頂上の髪を殘して置いて、他は全部剃り落すのであつて、その前額と兩方とに、僅に髪を剃り殘すのを『はんかふ』といひ、今も關西地方では見るところである。これは明和安永以前には見ないのである。

それから文金高島田といふものは、島田髷中最も上品なものであるが、これは八代將軍吉宗公の時に始めて大奥に行はれたのである。最初

は室町髷と文金若衆髷とを折衷して若い腰元に結ばせたところ、形が好くて品が高く、優美に見ねたので、年若い女中達が爭つてこれを結ぶことゝなつた。そしてその頃の結び様は、大名に依つて少し宛違ひがあり、同じ城中でも本丸と西丸とでは結風に違ひがあつたので、髪形によつて何處の女中といふことが解つた位である尤も、大奥の女中には、その外に最も高貴の婦人の結ぶ大すべらかし、又はお下げ髪とかその他の上中蔕の結つた長下げとかがあつた。三家三卿、其他御簾中、諸藩の姫君などが公式の場合には必ずお長にされたものである。

文政天保以後となると、江戸と京阪とで餘程髷様が違つて來た。江戸は幕府に御殿風、旗本八萬騎の御屋敷風、町で家藝者風、俳優風と様々に別れたが、概して清楚なるを上乘とした如くである。そして俗に言ふ澁いもの、流行を見たが、それに反して京阪は商家の富豪と公卿衆の舊風とに依り風を異にし身分の上下などが髪の上に嚴格に分れて居た。併し一般には濃艶を競ふの傾向があつて、種々な形式と巧妙な結ひ振りとで、眩ゆきまでに意匠を盡したのである中にも藝者島田の如きは大阪のみにあつた髷様で、當時は藝者間にのみ行はれたが、明治以後は全く廢れて了つた。彼の伊勢音頭の油屋お紺の髷などがそれである。これは形は大体島田に似て居るけれど、普通笄を十二本指すのである

それから明治、大正時代、今日までの髷様であるが、明治二十年以前萬事質素主義であつたから、髪も少女は結髷か銀杏返し等のものなく稀には文金島田も結つたが、掛け切れば用ひなかつた。妻女は全く藏前(お初)丸髷などを選び凡て小さく結つて、今よりもずつと醜くかつたが何時の間にか髪の形が大きくなり、『髷の根が上にも米の價が下り、髷の根が下ると米の價が上る』といふ俚諺が出來た。尤も大阪では、種々な濃厚な様式も行はれ、文金高島田が商家の間にも行はれるのを見た。つひには絹その他の高價なる掛け物も用ひるに至つたのである。

最後に束髪のことをお話して置かなくてはな

らぬ。これは明治十七八年の頃、日本婦人の洋裝と共に、上流社會に盛に行はれたのが始まりで、最初は洋裝の時に己これを結んだが、明治二十年四月、島田三郎、渡邊鼎、濱田昇、石川映作等の諸氏が相談して、婦人束髪會なるものを起した。それからして當時有力な婦人の力によつて、日本婦人の髪樣改良が唱導され、新に數種の髪樣を發表して、先づ女學生その他の若い婦人からそれを結ぶことを勸めた。明治二十年頃の束髪は、髪を結び髪を三つ組にして丸く束ね、留針で止めた上に絹絲製の荒い網をかけて、その髪を保護したのである。しかしこれは西洋の勞働者の結ひ方だといふので、行はれなくなつて、遂に今日見る樣に、マーガレット、エス卷、イギリス卷、花月卷、二百三高地、元祿卷、揚卷、夜會結び、ハイカラ卷、女優卷、千代結びなどが出來た。尙ほ束髪の前髪は明治三十六年頃下田歌子女史から行はれ廂髪はその頃川上貞奴によつて行はれたのである。

## ◆四十八樣の色品◆

一切の草木花葉、其一本一本に隨ひ、四十八樣の色品分つことなり。又白躑躅の花に紅粉をさしおけば、翌年必ず其色を交へ咲くとかや。又實植ゑの柚の木、年久しく實らざる時、其枝々に柚の實をさしおけば、翌年より必ず實るといへり。都の八重櫻は芳し吉野の一重櫻は、貴くして芳し

（それ〳〵草）



# 東大寺建築史（七）

會員　須藤眞金

## 艸創篇

### 六、國分寺消長記

東大寺の艸創はその源を國分寺建立に發してゐる。國分寺の起りは聖武天皇の御不豫に基いた樣に傳はつてゐる。久米博士御發願の前後に聖武天皇の御不豫の事は歷史に殘つてゐないが天平十一年二月に皇后が御不豫になられて天下に大赦を行つた事があるから國分寺排布の初まりは光明皇后の不豫が原因だらうと說いてゐる即ちその翌十二年六月に御發願の大詔は天下に發布されたのである。

併し乍ら文明の促進機關である大寺院を國毎に建てゝ、新らしい大陸の文明を日本國中に遍く普及せしめ樣と云ふ計畫はすつと古くから爲政者の間に熟してゐたのである。「龜神五年の十二月に金光明經六十四帙六百四十卷を諸國に頒つて國家平安の爲めに其れを轉讀させたと云ふ事實も國分寺建立の前提であつたのだ。

天平九年三月に至つては其れをもつと徹底的に强要する必要を痛感されて、國毎に釋迦佛像一軀、挾侍菩薩二軀を造り、また大盤若經一部を寫す樣に命じ給ふた。それから十二年六月には更に法華經十部の淨書と七重塔の建立とを諸國に命じ給ふた。茲に國分寺の名が初めて生じたのである。

新らしい施設には常に一部の反對が伴ふ物で

ある。お目出度い事でも不吉な事でも、兎に角天下に變つた事のあつた時に新施設を行ふのはその反對を胡麻化して了ふ要訣である。皇后の御不豫を養汁に使ふ事を忘れなかつた國分寺計畫者はその翌月筑紫に兵亂の起つた機會を利用する事も怠らなかつた。大將軍東人等を征途に就かすや朝廷では早速四畿七道の諸國に命じて征戰の聖祐と百姓の安堵の祈願の爲めに國別に高七尺の觀世音菩薩一軀と觀世音經十卷とを備へさせた。

十三年の正月に故太政大臣藤原朝臣家から食封五千戸を返上した時、二千戸は慣例に從つてその遺族に返賜されたが、殘りの三千戸は新例を開いて諸國の國分寺に施入して丈六佛像を造る料に充てさせたのだ。

今迄は只國分寺を建てると云ふ主旨の透徹に全てが盡されてゐた。兎に角國分寺を建てなければならなかつたのだ。それが建つか建たないかゞ疑問であつたのだ。所がいよ〳〵建ち相な形勢になつて來ると今度は其れを出來る丈け立派にし度いと云ふ慾望が頭を持ち上げて來るのは當然の成り行きである。同じ年の三月にはその方の詔勅が出た。それは（去歲普く天下をして釋迦牟尼佛の尊像高さ一丈六尺のもの各一軀を造り並に大盤若經各一部を寫さしめしに、今春より風雨順序に五穀豐穰し、靈貺答ふが如し）と先つ効能の見本を例示し、それから（若有二國王一講宣讀誦、恭敬供養、流二通此經一王者、我等四王常來擁護、一切災障皆使二消珍一）と御經の文句を引用して、その後で（宜しく天下諸國をして各敬て七重塔一區を造り、並に金光明最勝王經、妙法蓮華經、各十部を寫さしめ、朕又別に金字金光明一最勝王經を寫して每塔に各一部を置しめ、冀くば聖法の盛んなる天地と與に永く流れ、擁護の恩は幽明に被りて恒に滿んことを）と命令と恩惠と功德とを並べ立てた上に尙諸願條例を附錄に添へて制度を規定した。

造塔の寺は兼て國華として必ず好處を擇み、實に長久なるべし、國司等各宜しく務めて嚴飾に存じ、兼て潔淸を盡せ。と云ふ冒頭の辭は吾等建築家の會心の大文字であつた。實に建築は

國の華、國分寺はその代表華に仕上げ様とされた次第であつた。その施設の條例は左の諸願から成つてゐた。

一、毎國の僧寺尼寺は各水田十町を施すべし

一、毎國に造る僧寺には必ず廿僧あらしめ、其寺名を金光明四天王護國之寺となす、尼寺十尼其寺名を法華滅罪之寺となす、其僧尼は毎月八日必ず最勝王經を轉讀し月半に至る毎に戒羯磨を誦すべし。

一、諸國に上件の寺を置ものは毎月六齋日に公私漁獵殺生するを得ず。

一、願くは天神地祇共に相和　し　恒に福慶を將て永く國家を護らん。

一、願くは開闢已降先帝の尊靈長く珠林に幸し同く寶刹に遊ばん。

一、願くは太上天皇、太夫人、藤原氏及び皇后藤原氏皇太子已下の親王及び正二位橘宿禰諸兄等、同じく此に資つて彼岸に向はん。

一、願くは藤原氏先後の太政大臣及び皇后の先妣從一位橘大夫人の靈識恒に先帝に奉じて淨土陪從し長く後代を顧みて常に聖朝を衛り、乃至古より己來今日に至るまで、身は大臣となりて忠を竭し國に奉らん者なれば、及び見在の子孫俱に此福に因て各前範を繼ぎ、堅く君臣の禮を守り長く父祖の名を繼ぎ、群生に廣浴く、庶品に通該し、同じく憂惱を解いて共に塵籠を出ん。

一、願くは惡君邪臣もし此願を犯し破るゝものは、其人子孫に及ぶまで必ず災禍に遇て世々長く佛法無き處に生れん。

處が恁うした物々しい諸願條例も徒らに國史を虛飾した丈けの事でその實績は一向に上らなかつた。當時の中央政府の命令は國司たちに餘り確實に遵奉されなかつた。翌年七月には四畿七道の諸國へ國分寺造營の資として國別に正稅四萬束を割讓されたがそれでも國司等の裡には費用を胡麻化して、ほんの申譯のものを建てたり、また全然勅を奉じない者さへあつた。

それで天平十九年十一月には石川年足、阿陪小島、布勢宅主等に仰せて道を分つて諸國に遣して國分寺の狀態を巡檢させ、粗雜の物には修繕を加へ、未營の國には三年を限つて塔、金堂僧房を造らせ、また一般に施入の水田を僧寺に九十町、尼寺に四十町を增加したのであつた。

總國分寺の東大寺が建立されたが、それでも國分寺に建ち揃はなかつた。その裡に天平勝寶八年五月、聖武天皇は崩御になつた。それでまた使を七道に遣して國分寺造營を催促し、來年の一週忌迄には必ず丈六佛像を造り佛殿を營み塔を作り畢つて忌日に會せよと命された。それと同時に、佛法は慈を先とすれば此に因て百姓を苦しむなからしむ、と云ふ注意が附け加へられた處を見ても國司等の橫暴の態が想見されるのである。國司等は中央政府の令を奉ぜず、寺領を掠め、催促に會へばそれを口實に百姓を苦しめて然かも申譯ばかりの假建築を營んでゐた物と見へる。漸くにして立ち揃つた國分寺は決して初めの詔勅の樣な國華とすべき建築ではなかつた事は明かである。それは建ち揃つてから二十年經たない裡に、即ち天平神護二年十八日に下された官符の裡に次の樣な文句がある。

一、國分寺ハ先ニ造營畢、塔金堂等或已朽損、將レ致二傾落一、如レ是類ハ宜以二造寺一新稻一、且加レ修二理之一。

二十年經つか經たない裡に塔や金堂が腐朽して崩壞し相だと云ふ事で如何に普請が粗雜であつたかゞ分る。翌九月には『神異を假りて人の耳目を驚かすべからず』と勅されてゐる。國司は巡察の役人か行くと故意に國分寺を燒失させて胡麻化す手段を執りだしたのであつた。

國分寺造營はそんな譯で事失敗に歸したが、總國分寺の東大寺丈けは大なる成功を收めて獨り榮へたのであつた。

即ち日本の國全体に文明の波を漲らせ樣との聖武天皇の御思召は徹底されなかつたが奈良の都ばかりはその思惠を獨占したのであつた。



# 京都古建築觀（七）

特別賛助員　伊藤清造

## 九、東福寺

**概說**——山城國伏見街道第一橋の南に在る。惠日山と號して禪宗臨濟派の寺院であつて、京都五山の第四位である。

嘉禎二年に相國九條道家が初めて斯の寺を造り、其後に仁治二年宋から皈朝した辨圓（後花園帝から聖一國師の諡を賜る）に與へて開基とした。時は寛元々年で、彼れが皈朝してから三年目であつて、西紀千二百四十三年即ち我後嵯峨天皇の時である。

寺域は約六萬坪であつて、大なる伽藍を有して居つたので、洪基は東大寺に亞ぎ、成業は興福寺に取るとて、東福寺と稱したと傳へられてゐる。境内は幽靜で、古松老杉翁鬱としてゐる殊に溪流に架せられた通天橋は普門國師が初めて作つたと傳へられ、紅葉の名勝として坊間にも有名であるが、古今文人墨客の跡を絶たない山陽は七絶に其美を賞し

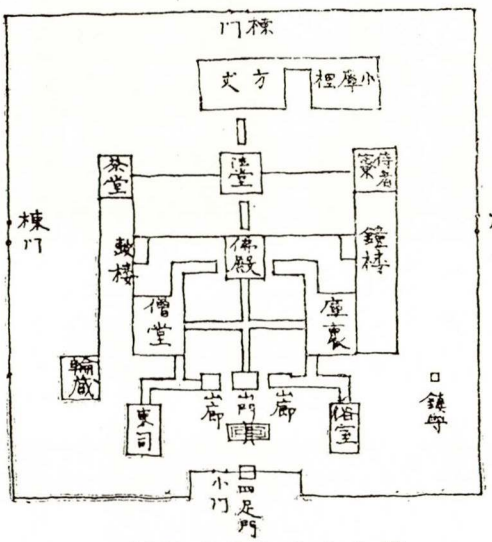
橋底停車酒半釀　仰看霜樹亂紛々
豪來卻上玉龍背　踏過一溪紅錦雲

本居大平は徽韻三十一字を連ねて

尋ねきて秋の錦をけふぞみる
柳櫻の春はしらと詠じてゐる。

**建築**——

六拾餘州を統一して鎌倉に府を闢いた頼朝の時代から宋との交通が開けて、我邦の僧侶が宋へ留學することが盛となり、彼等は、新に禪宗を傳へ、是と同時に、寺院の建立が殷と成つて宋の建築を輸入した、次に唐樣と稱せられてゐる處のものは是である。從來用ひられて來た隋唐式手法の同化された所謂和樣とは非常に異つたものであつた。而して、其寺院の配置も、所



禪宗七堂伽藍配置圖

謂百濟樣堂伽藍の制よりは複雜と成り、禪家の悉堂伽藍は別箇な配置圖を採つたのであつた。蓋し、七堂とは、數の七を表識したものではなく、其實は悉堂で、凡ての塔堂を悉く備へてゐる處から、生じた名稱であつた。

禪宗の七堂伽藍は、極めて嚴格な Sguwetri, co. の配置であつて、四足門を入ると紅蓮白蓮の咲いた池があり、山門、佛殿、法堂と一直線にあつて、其他の附屬建築は、斯の左右に凡て均齊的に配せられてゐる。禪刹に在る東司は便所であつて、實は素と禪家で便所の事を東方に在るものを東司、西方に在るものを西淨、南方のものを登司、北方のものを雪隱と謂ふてゐたのであつて、今日では、其北方のものゝ稱の雪隱のみが俗語となつて遺つてゐる。東司は「とうず」と讀ませてゐる、要するに、凡て便所をと指したものである。

今、東福寺の伽藍配置を覽るに、近年の火災に因つて、殆むど、其主もなる堂宇を烏有に皈したが、尙其昔を偲ぶことが出來得る。四足の

表門は地勢上少し西に偏つてゐるが、此處を入ると、池があり、山門には左右に山廊があり、尚、西方に東司、東方に浴室がある。佛殿は燒失して終つたが、猶ほ伽藍石を存じてゐる。其他の堂宇も、火災後全く其位置を亂してゐるが猶ほ方丈庫裡は佛殿の在つた跡の北方に出來てゐる。



勾欄附屬模樣三種

（東福寺三門樓上須彌壇附屬勾欄）

## 三　門

是は、寛元元年の伽藍建立當時の儘と稱されてゐるが、勿論、現今、建築史上足利期のものと信ぜられてゐる。而して、是は、明治三十年に特建の指定を受けてゐる。

土間三戸の所謂三門の形式を備へてゐるのである。

樓上內部は、全部極彩色の模樣を以て裝飾されてある。而して、須彌壇上には、羅漢を安置してゐる。

組物は、全部唐樣であるが、天竺樣の手法が多く應用されてゐるが、棰は、普通の三門に在る樣に扇棰木を用ひないで、下層と上層共に配付け棰を用ひ、樓上の楣間には『妙雲閣』と記した扁額を揚げてゐる。內部の彩色は凡て明の眞寫であるといふが、知恩院や南禪寺の三門の夫れに比して、遙に整然としてゐる。須彌壇勾欄の繪樣は、足利時代のものとして相應しく、それと肯定することが出來得る。正面よりは側面より眺めたときが、より以上美しく安定の快感を與へることが大である。外部の樓上の勾欄は禪宗特有の逆蓮頭の勾欄である。

樓上內部から青葉に萠ゆる外界を眺めたとき堂々たる悉堂伽藍の完備した在りし昔を懷ひ遣

られ、漫ろ轉變の浮世を感せざるを得ない。暗い内部の蔭から晴やかな外の青葉を眺め入るとき、實に超脫した禪の妙機に接するの思ひがする。靜な冷妙な樓上の空氣は足利當世の空氣と相通ずるものがある。智恩院や南禪寺の三門に於いて到底感ずることの出來得ない靜寂と冷酷は斯の三門に於てよく味ふことが出來得る。

**東　司**

明治三十五年に特別保護建造物として指定されてゐる七間四面切妻本瓦葺の長方形の平面の建物である。

組物は唐樣出三斗で、柱も唐樣で、綜礎盤を備へてゐる切妻の曲線は立派ではないまでも、落ち着いた感じを與へてゐるし、妻飾も簡單で氣持よく出來てゐる。

斯の建築の年代に關しては嘉禎二年といはれ又足利期のものといはれてゐる。嘉禎二年といへば西紀千二百三十六年であつて、東福寺創立年代の寛元々年に先つこと七年である。

一体鎌倉末期と足利初期と其間に藝術史上ど



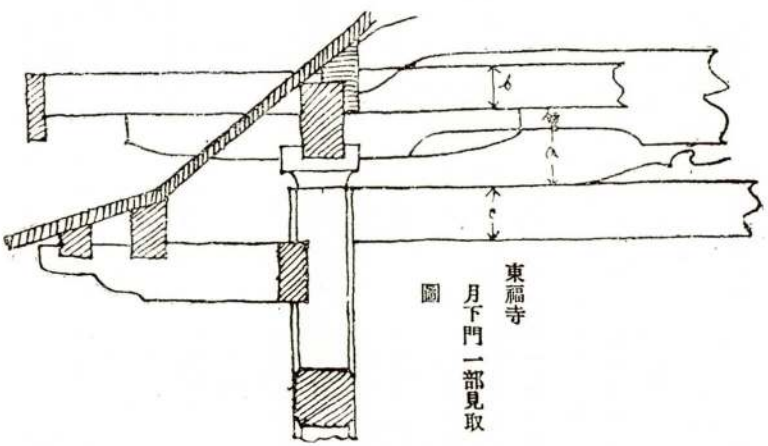

れ丈の變遷があるであらう。時代の分割は、歷史研究の必然の要求から、隨意作られたものであつて、この間に事實の推移の上に判然たる區劃のないことは最も明白な事である。鎌倉期が武術的の氣分に滿ちてゐたから、其當時のものは凡て武斷的なものであるとし、足利は茶の湯や能狂言が流行したから、こういふ趣味が凡てに滿ちてゐた如く解釋して、百般の年代考定を斷行しようとするのは、吾人は喜田博士の警句を無視して其覆轍をゆくものである。彼の、從來天平期の優作として認められた唐招提寺の佛像が鎌倉期の作であることを發見したり、藤原期の作と信ぜられた平等院鳳凰堂の壁畫が武田

先生に依りて鎌倉期の作であることを發見せられた事實や、近くは、法隆寺金堂内部の壁畫の一部が鎌倉期の改作である事實を、近時漸く客觀的に証明されつゝある等の事例を思ふた時に吾人は、尚開拓すべき我藝術史の前途を懐ふて碎心克勵の意を強ふせざるを得ないのである。

今、東福寺東司の建築を以て鎌倉の末葉とするも、將た足利の初世とするも、吾人が建築せんとする藝術史には何等の交渉を有するものでもない。吾人は、適宜に措置するを以て最も妥當と信ずる者の一人である。吾人は此の東司を觀て感ずる處は、一箇暗々たる險惡の氣が深く潜むでゐるが如き感のみである。

## 月下門

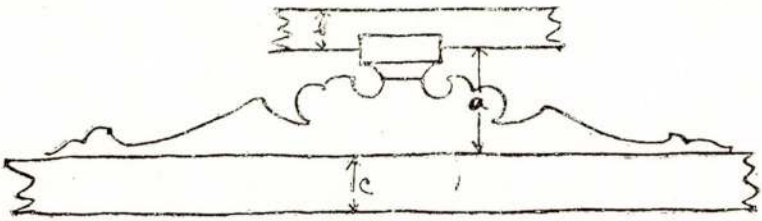
文永年間に大内裏の月華門を下賜されて移建したものであつて、切妻丹塗り冠木式の四脚門である。明治三十五年には特建に編入されてゐる。當初は、扇に唐戸を用ひて居つたのであらうが、今は其跡のみを遺してゐる。極めて簡單な構造であつて、瀟洒輕快な感を與へてゐる。



東福寺
月下門一部見取
圖

正面の板墓股がよく左右の舟肘木と調和して美しく、特に有名なものである。

彼の寶塔寺總門のような整然たる感じがない丈けに面白味もあるが、寂し味も亦特に深い暗流か



東福寺月下門正面板蟇股

ら暗流を通じてみたような神秘な嶮惡が漲つてゐて、よく鎌倉時代の京畿の人心を反映せしめてゐる。

東福寺には、尙此の外に、重層切妻の禪堂貞和二年（西紀千三百四十六年）再建といふもの及び單層切妻の浴室（足利）とがあり。前者は明治三十一年に、後者は明治四十年就も特別保護建造物に指定されてゐる。

## 十　萬壽寺

### 概說

東福寺の西北に在る禪宗臨濟派の寺院であつて京都五山の第五位である初めは京都市內の樋口に在つたのを、天正年間に今の位置に移して三聖寺と合したのである。松籟颯々として響く處、野犬吼々として走る處、恰も、荒涼たる廢寺を偲ばしめて感更に深い。

### 建築

愛染堂と鐘樓とが或は鎌倉期と謂はれ、或は足利期と謂はれ、人に依つて種々に見られてゐる。黑田文學士の『美術史講和』は、二者共に鎌倉期としてゐるし、『京都府誌』には共に足利期としてゐる。稿本『日本美術畧史』には、愛染堂を足利期とし、鐘樓の事は何等誌してゐない。併し、鐘樓と愛染堂とが、尠くとも同じ時代乃至は同じ手法でないことは直ちに看取することが出來得る。殊に、其木割に於て著しく異つてゐる。吾人は、武田先生の說に依つて、愛染堂を鎌倉、鐘樓を足利期のものと信じてゐる者の一人である。

### 愛染堂

明治三十一年に特建になつてゐる八角堂で、唐樣と和樣とを混用した例として有名である。

柱は、八角柱で縦があり、唐戸は唐様の桟唐戸である。紅物は、和様の肘木を使つてゐるけれども、全体は唐様の詰組となつてゐる。頭貫の鼻には唐様の繰形がある。二手先詰組で、疎垂木の軒を支へてゐるが、垂は反轉がなくして直線的なものである。

屋蓋は八注で桟瓦葺、頂上には、露盤の上に覆鉢を載せて寶珠を戴いてゐる。内部は、唐様の鏡天井の下に唐桟の須彌壇を設け、愛染明王を安置してゐる。側柱には、多少の轉びが附いてゐる。他は屋蓋が直線的で急勾配であるが爲に非常に重苦い感じを與へてゐる。

木割は適當であるが、全体のKrokertionは極めて拙いものである。位置が既に窮窟な上に、形全体も美いものではないから一層の見榮がせず例へば、離れ島に移された佐介貞俊が薄幸の運命を慽むであるようである。

## 鐘樓

明治三十五年に特別保護建造物になつてゐる入屋桟瓦葺で、全体は丹色に塗られてゐるが、荒廃した建築物である。是も、愛染堂と同じく唐様と和様とが混用されてゐる。

高欄は、和様の刎勾欄である。肘木、垂木等も和様の手法に據つてゐるが、尾垂木には唐様の鳥舌があり、其鼻は著しく内側に向つて切つてある。又、臺輪、頭貫、隅木等の鼻には唐様の繰形がある。軒は二軒であつて輕く突出し、入屋の形もよく出來てゐる、木割は貧弱であるが、全体としては格好が良く安定に見ゆる。併し、木割の繊小であることは一層 Muiserable solitaryな情緒を唆つてゐる。

綠葉美しく崩上つて紅白の花が咲き亂れてゐる古松と老杉とは青々として森を成してゐる。長閑な長閑な春の景色は次第次第に暮れてゆこうとしてゐる。あの寂々靜に立つた鐘樓に落暉斜に榮へたとき、吾人は感傷的な情緒を強く強く唆られて、邊りの景色は涙を誘ふまでに哀なものに見へて、足利時代の下に苦むだ人心の眞諦に直接に觸るゝような何物かを感得したのである。秋の月夜は奈何に物哀れにも亦美いであらう。



# ■臺灣營林局事業に就いて（二）

會員　谷　民　藏

## 林木の分布

本島内に於て林相を支配する特殊林木に付其の分布の概況を述べんとす

### 濶葉樹類

「イヌビワ」類　「イヌビワ」類は本島最下部の森林中に於て最も主要なる樹種にして本島熱帶林の代表林木と云ふべし「ガジュマル」「アコウ」は就中顯著なるものなり此の二種は共に全島に産し平地又山脚底所の森林中に混生す「ガジュマル」は海岸又は平地の風當り強き箇所に生せるものは其の氣根鬚狀をなして下垂し恰かも繩の縒れたる狀を呈せるも谿谷又森林中に生せる物は氣根地に達し柱狀をなして奇觀を呈し茲に熱帶趣味を發揮せるもの全島を通じて隨所に見ることを得べし北部ありても宜蘭廳大湖桶山附近に於て此の景觀を呈せるものあり「アコー」は多くは他の喬木に著生して盛に氣根を下垂し其の樹立するものは樹冠横張して獨特の樹形をなす此の他「イヌビワ」類に屬するもの大小の林木頗る多く山脚及平地叢林の主要林木をなし多くは革質滑澤の深綠葉を有し本島熱帶林の面影を支配す因に此の地帶に於ては人工林として想思樹林の著しく多きを見る。

樟　樟は本島内に於ては平地より海拔四千五百尺の高地に到る迄存在すれども元來山脚の底所に最も多かりし樹種たるや明かなり然れども現今にありては底所に少くして却て千尺又は二千尺以上の高地に多き感あるは是れ全く底所にあ

りしものは往時製腦業其他の拓殖關係の爲めに伐盡せられたる結果に他ならずして彼の東部に於ける平地林及山脚地帶に廣大なる純林を認むるは往時の遺影を今日に止むるものと云ふべく尙ほ西部の山脚地方の開墾地及開墾跡の荒敗林内に多數の根株の散在せるものあるが如きは往時此樹の占領區域たりしことを證するに足る。

楠類（イヌクス）　本島に産する楠類は其種類多く其の分布は平地より海抜六千尺の高きに達し其最下部に生ずるものは「タイワンイヌグス」にして他は多くは千五百尺以上の高地に生ず而して「イヌグス」類は各種共に全島に殆ど等しく分布し地方的分布區域を有するもの尠し。

樫類　樫類の本島に産するもの頗る多く己知のものゝみにても三十數種あり從て其の分布區域も甚だ廣く底地より海抜九千餘尺の高地に到り又或る地方に特産のものもありて極めて複雑なる分布の狀態を示せり。

針葉樹類

松類　本島に産する松類に五種あり其の分布區域を案するに最下部に於て「タイワンアカマツ」は略ぼ三千尺内外の地點を以て終りとし次に「タイワンゴエフ」及「タイワンマツ」は三千尺附近より起りて八千尺に及び「アリサンゴエフ」は六千尺乃至九千尺の間を其鄉土とするものゝ如し其の最上部を占むるのは「タカヲゴエフ」にして七千尺乃至八千尺の邊より之れを生じ一萬尺乃至一萬一千尺の地點に及ぶを見る就中「タイワンアカマツ」は中部以北に産し北部にありては本島人に依りて造林せらるゝものあり中部の蕃界溪岸には大木の群生せるところ尠なからず「タイワンゴエフ」は全島に産する最も普通なる「ゴエフ」松なり「タイワンマツ」及「タカヲゴエフ」は諸高山に生じ「アリサンゴエフ」は最近阿里山に於て發見せられたるものにして分布區域未だ確然たらず

扁柏（ヒノキ）及紅檜（ベニヒ）　扁柏と紅檜とは相接續して生じ下部に生ずる紅檜は常綠濶葉樹と混生し上部に生ずるものは扁柏と混生す紅檜は其の分布の北限たる臺北廳管内合峰山に於ては四千五百尺同挿

天山に於ては五千尺に於て出現し東部にありては花蓮港廳管內人字山及廸佳山に於ては四千五百尺內外のところより生ず然るに中部守城大山巒大山、阿里山等にありては何れも五千五百尺附近より之を生ず南部に於ては南大武山の南面六千尺內外のところに群生せる一團地と其の附近に點生せる小數を見たるも未だ是を以て完全なる分布區域と見ることを得ず扁柏は下部に生せるものは紅檜と混生し上部に於ては偉大なる純林を形成す即ち北部にありては棲蘭山より「ボンボン」山の一帶中部にありては八仙山、守城大山(檜山と稱す)巒大山阿里山の如き東部にありては人字山、木瓜山等に大なる純林を存じ本島森林の寶庫を形くる而して其の上部界は海拔約八千尺「タイワンツガ」の純林を見るに至りて止まるを普通とす。

「タイワンツガ」　最下部に生ぜるものは桃園廳管內李陳山の西面約五千尺內外の地に一群を見又新竹廳管內大窩及臺中廳管內八仙山に於ても略ぼ同標高の地點に生ぜるを見る然れども斯の如きは異數にして新高山巒大山郡大山其他中央山脈の東西兩面共に約八千尺の高さに於て確然純林を形成せるを見る其の狀恰かも本邦信濃飛彈の山岳所謂日本「アルプス」の高山に於ける「コメツガ」と同軌に在るが如し其の上部界は約一萬尺「ニイタカトドマツ」の出現するに及びて衰退し一萬千尺內外に至て其の跡を絕つが如し然るに阿緱廳管內大武山に於ては其の南北兩峰東西兩面共に六千尺より一萬尺の絕頂に至るまで全山此樹の純林を以て掩はる此の現象たる全く中部以北の高山に於て見ることを得ざる異觀なりと云ふ。

「ニイタカトドマツ」　海拔一萬尺以上の高地に生じ諸高山に於て森林の上部界を占有す

「ニイタカタウヒ」　新高登山路八通關の在面其の附近の中央山脈及中部中央山脈の東面一帶即ち馬太鞍溪上流より關門「ロンクブン」山「シンカン」山等海拔七千尺乃至九千尺の間に混生し時として純林を形成せるを見る。

「トガサワラ」　從來新高前山の北面に群生する

ものゝみと知られたる此樹は一昨年討蕃の結果安全地域として抱容せられたる大嶺崁溪上流の一支流たる「タイヤカン」溪流域一帶の海拔三千五百尺以上の箇所に散生或は群生して廣く分布せり尙洪水の際に於ける諸流の流出材より推察するときは此樹の分布は廣く蕃界未踏の地に及べるが如し

「ランダイスギ」　從來巒大山海拔六千尺內外のところに於て數株を見出したるのみなりしが是亦前記「タイヤカン」溪及宜蘭濁水溪流域海拔四千五百尺內外の地に存立せるものあり。

「タイワンスギ」　海拔五千尺乃至七千尺の間に生じ中央山脈の東西兩面を通じて殆ど全島に分布す然れども點々散在するに過ぎず。

## 森林の施業

本島は熱帶以下各帶に亘れる樹種を有するを以て植物の種類豐富にして有用植物の移植にも適し產業上有望の地利を具へたりと雖地形の比較的困難にして暴風の多きを短とせざるを得ず而して淸政府時代に於ては何等林政の見るべきものなく到る處濫伐濫墾に放任したる結果河川の荒廢甚しく海邊には飛砂地を現出し不毛地甚だ多きが故に森林業施の基礎を確立し秩序ある林業の端緖を啓くことは拓殖上の一大急務なりしや論なく既に第二項に於て之を述べたる如く領臺以來總督府漸次林政の步を進め保安林に造林に森林の利用に將た林野及產物の處分に種々施設する所あり此間人民の林業に對する觀念も亦漸く發作興起し來りたりと雖未だ經濟上の關係之を許さゞりしのみならず山地は到る處蕃人の蟠踞跳梁する處にして最近討蕃事業の完成までは未だ之に近接して自由に調查計畫を試むること能はざりし事情あり爲めに未だ廣く國有林を通じて施業の方針を樹立するの運に至らず從て從來の施設する處區々にして必しも一貫せざるの嫌ひあるは本島林業の爲めに深く之を愧づる處なりとす時なる哉多年の懸案たりし討蕃の大業は業に大正三年度を以て其の終りを告げ今や全土を擧げて皇化の普ねからざる隈もなく而して明治四十三年度以來施行し來りたる林野調查

の事業も亦結局五箇年の星霜を閲し大正三年度を以て終りを告げたるを以て官民有の區分茲に完了するに至り更に官有林野の處分に就ても基礎的方針を提供するに至れり蓋し所有區分の査定は自ら森林施業の方針に入るべき基礎觀念にして茲に該島の林業は正に第二期に入れり。

大正五年度よりは特別經營事業として境界標識建設並に國有林施業安編成の豫算立せるを以て順次要急の箇所より之が調査に着手する見込を以て夫々計劃中なり只當局は森林の施業方法に關し今具體的の成案を示すこと能はざるを憾む

（未完）

## ✤梅 二 題✤

讀人しらず

△折りつれば袖こそ匂へ梅の花
ありとやここにうぐひすの鳴く

△梅の花立ちよるばかりありしより
人のとがむる香にぞしみける



# あたら墨繩

## ——建築史ローマンス——

須藤まかね

神代このかた大倭のスカイラインはたゞ、千木と勝男木とで整へられてゐた。その單調なスカイラインは雄畧天皇の十二年冬十月に至つて大陸風の樓閣のoutlineに美しく破られた。泊瀬の邑は新らしい宮殿建築に粲然として嚴飾されたのである。

神代ながらの悠々たる世の中に不意に湧き出た「大陸建築」と云ふ精妙な技術は怎麼なに當時の人心を刺激したであらう。堀立柱、繩結び式の鹿木造りの宮殿に對しても「底磐之根に宮柱太立て、高天原に千木高知り」等と云つて大騒ぎをやつてゐた太古の人達は、新羅の工匠猪名部御囚が丹精を凝して營んだ、鉋の跡の匂ふ様な朝倉宮の樓閣を打ち仰いで、遂に形容の言葉もなく、只もう驚異の眼を睜つたのであつた。雪上人も地下人も此の新らしい建築の姿を賞でて日ごと日ごと築地の外に打ち集つた。御苑の樹々はこれ等の人の爲めに葉を風に吹き拂はせて、裸の梢を透して樓閣の容姿をあからさまに打ち仰がせた。

間もなく春の花が壇に咲き亂れた。錦を織りなす花の蓆を敷いて、莊重なる樓閣は更に隔離たる光彩を放つた。やがて夏が來て青葉若葉がその壯麗を包んで了つた。それでも大倭の人達は樓閣の噂を棄てなかつた。木がくれに白木の宮柱を望んで大陸建築の美しさを讃へたり、木匠たちの技倆を品評したりして長閑な日を暮してゐた。木匠の人氣者は猪名部眞根であつた。

眞根は木を削る時にいつも石の台を用ゐてゐた。それで決して斧の刃を石に打付けて缺く事が無いと云ふのが彼れの自慢であつた。大倭の人達は皆んなそんな事にさへ直ぐ驚歎して了ふ程の單純な頭腦の持主だつたので、眞根の輕業的技術は忽ち天下の人氣を買つて木匠中腕利きの隨一と評判されるに至つた。この眞根の石を台にして木を削ると云ふ噂は宮中にも入つて、舍人や采女の間に喧傳される様になつた。そして遂に天聽に達したのであつた。

造營工事は未だ完成したのでは無かつた。そして猪名部眞根も未だ皇居の裡に働いてゐた。相も變らず石を台にして斧を揮つてる所へ衛士が慌しく臨幸を傳へて來た。木匠達は身裝りを調へるいとまも無く恐懼して取り亂した作事場に帝を迎へ奉

つた。帝は早速眞根にその評判の妙技を御所望になつた。

舎人や雑色たちで其場の用意は立ちどころに整へられて、眞根は手馴れた斧を執つて台の前に立つた。正面玉座の並びにはみやびつくした大宮人が星の如くに居並んでゐる。左手には花と見紛ふ采女の群れ、右手は大伴の威かつき武夫ども、またしも手には木匠たちが片唾を呑んで控へてゐる。眞根は恭しく帝の御座に敬禮してそれから今日を晴れの此場の壯觀を眺め渡した。と、胸は光榮にときめき騒いだ。血潮が腕に高鳴るのであつた。眞根は亢奮した心で斧を執つて振り上げた。そして石の台の上に置かれた檜の材をヂッと凝視めた。腕に斧の重さを計り乍ら瞳に檜の材質を測つてゐる裡に眞根の心は天覽の場所であると云ふ事も忘れて平常の冷靜に返つて行つた。やがて無雜作に打ちおろされた斧の刃先は丸い材木の一つの邊を極めて薄く削ぎ落した。斧は材木を削ぎ分け乍ら台の面まで下りて行つたが間一髪と云ふことで、あたかも上から極めて丈夫な糸で吊してゞもある物の樣にピタリと斧は止まつた。それで材木は鮮やかに削られてゐたのであつた。二回、三回、四回、型にはめた樣に圓材の四邊は正しく削ぎ落された。眞根は今度は腕に一倍力を罩めて發矢とばかりに斧を揮り落した。凄まじい響と諸共、檜の大材は眞中から眞二ッに打ち割られた。互に引張り合つてた手と手とが切り離された樣に、割れた材片は右と左に轉がり落ちた。そして斧の刃は台の面と二寸ばかりで眞根の双の腕に押し支へられてゐた。歓呼喝采が忽ち彼れを包んだ。今迄水を打つた樣に眞根の妙技に感じ入つてゐた周圍の觀衆は此時思はず知らず歓聲を發したのであつた。それは實に皆んなの心から自ずと迸り出た驚歎の唸りであつた。

雑色は直ぐに第二の木材を台の上に運んだ。幾度も幾度も眞根は同じ技を繰り返して一度も過ちが無かつた。大宮人も衛士も木匠も瞥しく眞根の技倆に感じ入つた。皆なが感歎の底に沈めば沈む程大御心はいらだつて來た。心憎い程冷靜な理智的な眞根の妙技は却つて、熱狂詩人にまします雄略天皇の感興を減殺し奉つたのであつた。帝はそこで何とかして眞根の失策を見度い物だと思召された。

眞根の心の裡で、最う御賞めの言葉が出てもよさ相な物だと密かに期待し乍ら、衆人歎嘆の裡で得々として斧を揮つてゐたもと〳〵恁うした演技は二三度繰返せば澤山な物なんだが、その巧妙な技倆に對する帝の好奇心に何時しか驕慢見の鼻を明かす事に依つて購ふ痛快味の慾求に變つてゐたので、恁うやつて何時までも何時までも繰り返させてゐれば屹度其裡に根氣負けがして、斧の刃を石に打ち當てるに違いないと云ふ御信念からその『巧妙にして單純なる』演技は容易に中止のお許しが出なかつた。

眞根は自分の特技がそんな怖ろしい呪の手に弄ばれる事とは露知らず、是は必定叡感淺からぬ次第と已惚れて益々乘氣になつて大車輪で木を打割つてゐた。やがて帝はやつとの事で眞根の妙技をお許しになつた上、近侍に取り次がせて御下問になつた。

『聞きしにまさる鮮やかな技倆である。何時まで眺めてゐても

過ちそうにも見ねぬが、決して刃を石に打ち當てゝ缺く憂ひはないものか』

『御意にござりまする』

眞根は得意の心を恐懼の体で奏答すると帝は重れて念を押された。

『如何なる事があらうとも斧の刃を缺く事はないと云ふか』

『神かけて言葉に詐りは御座りませぬ』

眞根はきつぱりと帝に誓つた。木材の單位應剪強度は材質によつて畧々定まつた物である。斧の刃の當り處の木巾と深さに依つて割口の斷面積は測定されるから、つまり木を削るのに要する力、即ち極剪斷強度は容易に計算が出來る物である。また斧の重量は斧に依つて定まつてゐる、その落下の巨離と手加減で定まつて來る、そこで斧に込める力の呼吸を呑み込みさへすれば斧の働く力と、木の剪斷力とを一致させる事は出來得るのである。それが出來れば斧を木の面に打付けた丈けで、鮮やかにその木を打ち割る事が出來て、決して力が餘つて刃を台に打付ける氣遣もないのである。

眞根は熟練に依つて此理を會得したのであつた。そして一見して割ろうとする木のその箇所の剪斷強度を目測し、それに應ずる斧の初速度を調節する呼吸を呑み込んだのであつた。彼れが帝に固く誓つた言葉には確乎たに信念が籠つて居たのであつた。だが詩人肌の雄畧帝はそれを科學的に見究めようとはされずに感情に依つて破壞しようと遊ばされた。

即ち帝は再び眞根に演技を命じ給ふた。そして一方では取り分け眉目の麗はしい肉付の豊かな采女を擇んで衣を脫がせ、眞根が夢中で木を割つてゐる傍で稗一つで角力を取らしめ給ふたこの帝の常套手段に遇つて眞根は初めて自分が誓言の試練に遇つてゐる事を覺つた。それでその誘惑には眼をそむけて心を引き締め、一心不亂に斧を揮つた。采女たちも上覽の場所迚力を盡していどみ合ひ揉み合つた、秋とは云へども未だ暑い九月の陽にヂリ〳〵とこの奮鬪の庭を照らした。貝殻の裏の様に光澤があつてすべ〳〵した若い采女の皮膚からはとろ〳〵と膏の様な汗が慘じみ流れた。女に得有のすえた匂が重く四邊を立ち罩めた。それは毒々しい匂だが然し男の心を惹き付ける妖冤の氣体である。眞根が齒を咬ひしばり眼を瞑つて我慢をしてもこの挑發的の匂ばかりは用捨もなく鼻を襲ふのであつた。

美しい力士は入り代り立ち代り壯烈に鬪ひ合つた。くろい筋肉の凄まじい活躍に四周の陪觀者は嵐の様に熱狂した。

今しも眞根が息を凝して大上段に斧を振り上げた刹那、地を震はす計りの大喝采が彼れと采女とを圍んで湧き起つた、彼れの視線は思はず知らず角力の方に流れた。不様に投げ倒された若い采女の水々しい太股がはだかつた稗の間からチラと瞳を衝いた。眞根の斧持つ腕に餘分の力が籠つた。彼れは氣合をかけて思ひ切り打ちおろした。

『アッ失策た』と思つた時は最うおそかつた。台からサット火が飛んだ。そして鐵と石とが打ち合ふ痛い様な響が彼れの氣を失はしめた。

帝は早速漫りに誇言した罪を以て眞根を死刑に宣し給ふた。

悄然として大伴の武夫に引き立てられて行く眞根の姿を見送つて木匠どもは何とかして彼れを救ける工風は無い物だらうかと云つて相談し合つた。帝の御心を動かす物はたゞ詩だけであつた。散文では駄目な方だ、理屈は大禁物だと云ふ事は木匠どもゝ辨へてゐた。だが見渡した處木匠の仲間には帝を動し奉る程の歌よみが居そうにも無かつた。

帝はまたしても樓閣に上つて誇りかに四方の景色を眺め渡して詩的空想に耽つて居られた。帝の御心には不圖磯城大縣主がその住宅を宮殿になぞらへて勝男木を上げてゐると云ふ事を聞召されて其れを燒拂ほうとされた事が思ひ出された。帝はもうあんな事に激怒するには及ばないんだと安心された。瑞離の内に擅風造を營む宮殿は過古の夢となつた。廣い築地の花園に構へたこの樓閣に犯す可からざる皇居の尊嚴が今にして備はつた。帝は嬉しげにその新らしい建築を見廻はされた。

そこへ近侍が鬪雞御田の參內を取次いで來た。帝は直ぐに猪名部眞根の命乞ひに來た事を直覺遊ばされて、その事なら謁へないぞと仰せられた。すると近侍は只歌一首を上りたいとの旨を答へ。

『何、御田が歌を上るとな其れでは通せ』と帝はいとも御機嫌麗はしく御田を引見された。

惜らしき猪名部の匠かけし墨繩
しが亡げば誰かかけんよ
あたら墨繩

御田の上つた歌を帝は恐駭し給ふた。あの眞根を殺して了ふと最う墨繩をかける匠は居ないのだと聞いて帝は初めて打ち驚き給ふたのだ。

（さうだ眞根は木匠であつたのだ。曲藝者ではない、それに彼の眞の生命である建築と云ふ大技術を不問に附して、木を削ると云ふ極めて小さな從屬的の技術ばかりで彼れを評價し所罰して、あはやその又と得難き墨繩の技術迄を滅して了ほうとした朕の所業は誠に愚であつた。彼れの命を奪ふのは朕が自らの光榮を蹂躙する樣な物であつた。さうだ眞根を殺す事は出來ない）

帝はかしこくも悟らせ給ふて早速甲斐黑駒に命じて赦免を傳へしめられた。この時眞根が大伴の手に依つて斬罪に處せられるその刻限が迫つてゐたのであつた。それで馬に鞍を置いてゝは迚も間に合ふまいと考へさせられて帝は仰せをかしこんで退出しようとする黑駒に大御歌を授けられた。

ぬばたまの甲斐の黑駒くらきせば
命しなまし甲斐の黑駒

（完）

♠ ♠ ♠



# テームス河（上）

T N 生譯

或信心家の老婦人がこう言ふたのを、聞いた人が澤山あるに違いない。

『倫敦の眞中をあの美しいテームス河が流れてゐるのは、神の恩惠とより考へられません』

此の愛らしい心の內には、若しもテームス河がなかつたとしたら、此の世界一の都もあり得ないと考へて居るのである。

面白い事には、この廣大な倫敦市民の中にも、倫敦を知らない連中がチヨイ〳〵あるには驚かされる。例へは此大河に就いても、大低部分的の智識を持つてゐるか、さもなくば唯漠然と大切な河だ位の理解に過ぎないのがある。斯ういふ連中が、倫敦橋からマルゲートへ行つて見給へ、軒を並べた倉庫や、檣林立の景色に呆然となるに違ひない。其癖ロンドンカウンチーカウンシルの小蒸氣が、滔々たる濁流をヨタ〳〵溯つて居るがさつぱり渉どらんのはよく知つてゐる。エンバクメントを通つて氣の付いてゐるのは、あすこに宿無が寢て居た位のものである。樂しい夏が來ると彼等を美しい上流の景色を探りに出掛けるだろう、ボートか遠足か、其上に贅澤な御辨當を御持參で、御宅へ歸ると、世界中テームス河より美しい河はあるまいと考へて居られる。

乍併、テームス河と倫敦との關係如何、吾々の都市生活の大舞臺にどんな役目をしてゐるか、などといふ問題になつて來ると、さあ解らない。

不思議だといひたくなる。例へば或國の首都を貫いて一つの河が流れてゐるとする。それは市民にとつては往來の樣なものだとしたら大間違である。我々は河の上に澤山の橋を架けてゐる。又河の底にも地下鐵道や地下道を穿つてゐる。河の兩岸には澤山な往還や交通機關を設けてゐる。したが河其者は至つて呑氣に、世の中を馬鹿にした樣に流れてゐる。ウエストミニスター橋の欄干から河の中を見給へ、樺色の帆を張つた傳馬船がうるさい程浮んでゐるのに氣が付くだろう。

此頃の樣な暖い時分には、倫敦の名物は河の上に在るんだといふても解らないが、長くも皇帝陛下は皇后陛下並びに皇族家

同列で、帝室用の御船で御遊舟の御催があつたのである。昔は市長殿の親任式は河で開かれる事になつて居た。それからラムヘスでは以前魚會があつた。

一番最初の倫敦橋は家の橋であつた。いや橋の家といふ方が適當だろう、橋の上に家が建て連ねられてあつた。それは宗教的關係から、橋の持主の兄弟であつた佛蘭西の坊さんで、レ、フレーレ、ポンチフエといふ人が計畫したのを知つて居るものは少なかろう。斯んな譯で建てられたから、外國の商人から取り立てた稅で修繕維持をやつて居た。丁度今から二百年前に出來上つたので、工費は今の金にして見ると超ドレッドノート級の戰艦を造る額に當るので約二百五拾萬磅（ポンド）、もう少し精密にいへば二百五拾五萬六千百七拾磅拾九志（シリング）と拾壹片四分の三（ペンス）といふ事になる。ブラック、フエヤー橋を渡ると半片の通行稅 日曜日には倍額を拂はなければならない事は知つて居ませう。

テームス河は目下倫敦港務部とテームス保安部との二つの管轄下に在る。港務部はテッヂングトンからノア迄約七哩の間の絕對權を持つて居る。從つて川口兩岸數哩の間の船渠（ドック）を取締つて居るが、以前は私設會社の所有であつたので、幼稚で不完全なもので唯他港との商船貿易に從事して居に過ぎない。今に至つて世界最大の港で約三千萬噸の年額に上つて居る。船渠（ドック）は漸次に改良されて來たか港務部で使用する人員は約五萬を算してゐる。

倫敦橋からグレーブセンド迄に二十六哩に亘つて船渠だらけである。船は出るもの入るもの果しがなく世界の端から端迄連絡して居るのだ。從つて殆んど世界各國の旗が翻騰して居るが、やはり英國旗は一番數が多い。其所には鎖のガヤ〳〵鳴る音や、ウインチのゴト〳〵響く響や、荷物のドサ〳〵する雜音や兩岸の住民のガヤ〳〵する亂聲が埠頭に騷がしい。河に臨んで重い影を投げてゐる尨大な倉庫の壁が延長十六哩に連つてゐる。若し諸君が綿密に數へて見たら五百近くもあるだろう。若し吾輩が實見した樣に船から近よつて見たならば、汚い不潔な澤山な汽船や、荷物の堆い山や暗褐色の壁に黑い窓を穿つた倉庫が立連んで居るだろう、それから段々見物するに從つて、其偉大さが奈得出來るだろう。そうしたら此河の商業が如何に大倫敦に關係して居るかが判然として來るに違いない。倫敦港の貿易額は年々約 十一億五千萬磅に上つてゐる。

トリニチー館といふ名は時々聞くことがあるだろうが、何をする處だかあんまり知られて居らぬ、丁度ジエームス一世の御免許によつてケント州のデットフオードストロンドで設立された一つの組合である。其目的とする處は『船に關する智識なく或は英國海峽の地理不案內なる、又は船の操從、水先案內に理解なき不熟練にして不思慮なる者』を取締る爲め、且は彼等を養成して「テームス河に入る外國船或は其他の船舶を完全に指導せしめる爲めに」完全なる水先案內とするにあるので、何となれば斯の如き智識や理解の缺乏せるものの船舶をして大なる苦惱を感ぜしめ又此海峽の衰微の因をなすものにして、彼我商人の損失妨害となり且つ我國の優良にして高級なる船員の恥辱となり又惡評を齎らすのみならず、外國人に我國の交通に不信を

抱かしむる憂あればなり」といふ事になるので嚴重に監督をしてゐるのだ。

トリニチー館は夫故にテームス河を我兒の樣に世話をしてゐる。それは燈船や燈臺や普通の浮標や瓦斯燈浮標等の配置を見ても解る。最も面白いのは、東印度船渠の稍下流にあるトリニチー波止場がある、此所には船舶の安全を計る爲めに河岸埠頭或は海岸に用ふる各種の裝置ある標本の浮標が陳列してある。其處には修繕に從事する燈船があつて瓦斯裝置其他の浮標を用意してゐる。又二つの燈臺があつて、海岸と重要燈の檢査をする處になつてゐる。（未完）

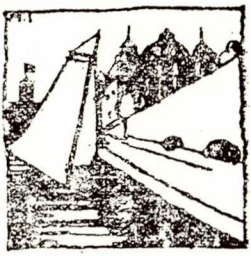
## ◆奥の細道◆

芭蕉

月日は、百代の過客にして、行きかふ事も又旅人也。船の上に生涯を浮べ、馬の口とらへて老をむかふる者は、日々旅にして、旅をすみかとす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊のおもひやまず、海濱にさすらへ、去年の秋江上の破屋に蜘の古巢をはらひて、やゝ年も暮れ、春立てる霞の空に、白川の關こえんと、そゞろ神のものにつきて、心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて、取る物手につかず、股引の破をつゞり、笠の緒付かへて、三里に灸すゆるより、松島の月、先づ心にかゝりて、住る方は人に讓り、杉風が別墅にうつる。

草の戸も住替る代ぞ雛の家

# 時報



內務省は先に都市計畫調査會を設置して都市改造計畫に關し調査しつゝありしが、今回「都市計畫法案」並に「市街地建築物法案」を議會に提出せり。都市計畫法案は都市計畫委員會の設置を規定し重要施設の執行範圍を定め、建築物法案は都市の各地域の建築構造に關し、一般的規定を設けたるものなり、其內容左の如し。

## ◆都市計畫法案

第一條　本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ增進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市ノ區域內ニ於テ又ハ其區域外ニ亘リ執行スヘキモノヲ云フ

第二條　前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ規定ス其市ノ都市計畫區域ハ關係市町村及ヒ都市計畫委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定シ內閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　都市計畫、都市計畫事業及每年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ決議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ內閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　都市計畫委員會ノ組織、權限及ヒ費用

ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニアラザルモノニシテ其出願ニ依リ都市計畫事業一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條　都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ公共團體、行政廳ニアラザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シキ利益ヲ受クル者ヲシテ其受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七條　主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スベキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

第八條　公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルタメ左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市ガ營業稅雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其稅率ヲ定ムベシ

一地　租　割　地租百分ノ十二半以內

二國稅營業稅　國稅營業稅百分ノ十七以內

三營業稅、雜種稅又ハ家屋稅　各府縣稅十分ノ四以內

四其他命令ヲ以テ定ムルモノ

公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第九條　都市計畫區域ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下附スルコトヲ得

第十條　都市計畫區域內ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定變更又ハ廢止ヲナシタルトキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ

爲スベシ

都市計畫區域內ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地區及地域ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十一條　第十六條第一項ノ土地ノ境域內又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ規定スル地區內ニ於ケル建築物土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　都市計畫區域內ニ於ケル土地ニ於テハ其宅地トシテノ利用ヲ增進スル爲都市計畫整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條　都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年內ニ其施行ニ着手スルモノナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ地方ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條　地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十五條　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第十六條　道路、廣場、河川、港灣、公園其他勅令ヲ以テ規定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十七條　土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上若クハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要

アルトキハ建築物其他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條　前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ハ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ就テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト見做ス

第十九條　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ就テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ種類ト見做ス

第二十條　土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審査會ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十一條　第九條ノ規定ニ依リ下附ヲ受ケタル土地第六條第三項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理者ヲ定ム

第二十三條　行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ハ本法若クハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ强制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　本法若クハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並ニ其追徵還附及時效ニ就テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第二十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處

分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並ニ之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受クル市ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト見做ス

第三十條　東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ內閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ規定シタル事業ハ右本法ニ依リ內閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト見做ス

第三十一條　東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若クハ大正七年法律第三十六條又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限リ本法ニ依リ爲シタル處分ト見做ス

第三十二條　東京市區改正條例、土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其効力ヲ有ス

第三十三條　東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十號ニ依リ下附ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其下附ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス
但其市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此限ニアラズ
前項ノ河岸地ヨリ收納スル金額ハ其市ノ都

市計畫事業ノ終ルマテ之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下附ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル塲合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

## 都市計畫法案理由書

都市の秩序ある發展を期する爲其交通、衛生保安、經濟等に關する重要施設の計畫を執行するに適當なる法規を制定するの必要あり是本案を提出する所以なり。

## 市街地建築物法案

第一條　主務大臣ハ本法ヲ適用シ區域内ニ住居地域商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

第二條　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スル者ハ住居地内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條　建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スル者ハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條　工塲倉庫其他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若シクハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域ニアラサレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス主務大臣ノ必要ト認ムル時ハ前項ノ建築物ニシテ著ク衛生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ就テハ工業地域内ニ於テ其建築ニ付特別區地ヲ指定スルコトヲ得

第五條　前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　前四條ノ規定ノ適用ニ就テハ新ニ建築

物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スル時ハ其用途ニ供ズル建築物ヲ建築スルモノト見做ス

第七條　道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ理由アル時ハ行政官廳別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條　建築物ノ敷地ハ建築線ニ接セシムルコトヲ要ス但シ特別ノ理由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル時ハ此限ニアラス

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス但シ建築線ハ道路幅ノ境界線ヨリ後退シテ指定セラレタルモノナル時ハ命令ノ定ムル所ニ據リ建築物ノ前面突出部又ハ基礎道路幅ノ境界線ヲ越ヘサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第十條　行政官廳ハ市街ノ體裁上必要ト認ムル時ハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第十一條　建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル高サ又ハ其敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ建築物ノ構造設備又ハ敷地ニ關シ衛生上又ハ保安上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムル時ハ防火地域ヲ指定シ其地區内ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地域内ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ境界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

第十四條　主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅舘、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置構造設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條　主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ他區內ニ於ケル建築物ノ構造設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條　行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當セシ場合ニ於テ其除却、改築、修正、使用禁止、使用停止其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衛生上有害ト認ムルトキ

三　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

第十八條　本法適用區域ノ設定若クハ變更地域若クハ地區ノ指定若クハ變更其他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物ハ其後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其建築物ニ付前條ニ揭クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキモノ補償金額ニ付不服アルトキハ其金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十九條　建築主建築工事請負人建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若クハ占有者本法若クハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　前條ノ規定ハ前條ニ揭クル者ノ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其法定代理人ニ之ヲ適用ス

但營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此限リニアラス

前條ニ揭クル者ハ其代理人戶主家族同居者

雇人其他ノ從業者其營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルヽコトヲ得ス前條ニ揭クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

第二十一條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服ナル者ハ訴願スルコトヲ得本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十二條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條　本法適用ノ區域ハ勅令ヲ以テ指定スル市區其他ノ市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其定ムル所ニ依リ前項ノ市街地ノ外ニ亘リ本法適用ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條　本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建工事中ノ建築物建築工事ニ着手セサルモ設計アル建築物又ハ建築物ニアラサル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十五條　本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト見做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

## 市街地建築物法案理由書

市街地に於ける建築物に關しては現に府縣令等に依り區々に規定する所あるも是等諸規定は不備不統一にして市街地近時の發展に適應せざるを以て統一せる根本法規を制定するの必要あり、是本案を提出する所以なり。

# □都市計畫法案と陳情書

前項記載の如く内務省に於て評置せられたる都市計畫調査委員會は既に二大法案を作成して法制局に移送し次いで閣議に附せられたる筈なりしも二月中遂に議會に提出せられず或は曰く大藏省に於て反對意見突發せしに非ずやなどの疑問も起りしが兎に此重要法案の調査促進を政府に建白せる我建築界に於ける四團体は協議の上去る二月中陳情書を作成して内閣總理大臣宛提出せり其全文左の如し。

別紙ノ通リ政府當局幷ニ貴族院議長衆議院議長閣下ニ陳情書呈出致置候間貴殿ノ御賛同ニヨリ速ニ都市計畫法幷ニ建築法ノ制定セラレン事ヲ切望致シ候何卒理由書貴覽ノ上御盡力願上候

大正八年二月　日

建築學會會長工學博士　曾禰達藏
日本建築士會會長工學博士　長野宇平治
日本建築協會理事長　片岡安
都市協會幹事　藤原俊雄

陳情書

都市計畫法幷ニ建築法ノ制定ニヨリ我國重要都市ノ改善セラレン事ノ急要ナルヲ認メ下記各會聯合ノ決議ヲ齎シ茲ニ之ヲ陳情ス冀クハ清鑒ヲ垂レラレ御採納アランコトヲ懇願ノ至リニ勝ヘス候

大正八年二月　日

建築學會會長工學博士　曾禰達藏
日本建築士會會長工學博士　長野宇平治
日本建築協會理事長　片岡安
都市協會幹事　藤原俊雄

内閣總理大臣　原敬殿

理由

惟ノニ都市ノ發展ハ近代文明ノ一大特徴ニシテ國力增進ノ重要ナル基礎ナラス、然レドモ其放慢ナル人口集積ノ弊ハ或ハ國民ノ健康ヲ害シ、商工業ノ發展ヲ阻ミ、又各般ノ社會問題ヲ惹起シ、之ヲ自然ニ放置センカ國家進展ノ恐ル可キ障害タルヤ明カナリ。故ニ能ク弊竇ヲ除キ健全ナル發達ヲ遂ゲンカ爲メニ之カ對策ヲ講スルハ經國ノ要務ニシテ、都市利福ノ問題タルニ止マラザルナリ。歐米ノ諸國皆競テ法令ヲ布キ都市計畫ヲ立テ鉅資ヲ惜マズ技能ヲ竭シテ其都市ノ改造ヲ圖ル寔ニ故アルナリ。今ヤ我國亦國家ノ發展ニ連テ都市ノ膨張甚シク其缺陷ヲ曝露スルコト益々大ニシテ其改善ヲ要スルコト彌々急ナリ。然ルニ之カ對策トシテ何等ノ都市計畫ノ確立セラルヽ無ク、又法令ノ據ツテ規準タル無シ。故ニ、都市ノ經營モ據ツテ以テ則ル所ナク、其施設モ近代文明ニ適應スルヲ得ズ。其不完全ナル建築ハ實ニ火災ノ際シテ都市ノ保安ヲ脅シ、一朝有事ノ際ニハ國防ノ一大缺陷タリ、又市民ノ衛生保健ニ不斷ノ危害ヲ加ヘツヽアリ・街

路狹隘泥濘ニシテ交通運輸ノ用ニ堪エズ、交通機関亦不完全ニシテ商工業ノ發展ヲ阻害スルコト多大ナリ。工場ノ濫設ハ一面市民ノ健康ヲ害シ、一面經濟的發展ヲ妨グ。今ヤ社會生活ノ不安ト商工業能率ノ抑損トハ決シテ現狀ニ推移スルヲ許サヾルナリ今ニシテ一定ノ都市計畫ヲ確立シ法令ヲ布イテ其實行ヲ期スル處ナクンバ遂ニ世界ノ大勢ニ背馳シ百年ノ悔ヲ胎スヤ必セリ。政府當局亦茲ニ見ル處アリ茲ニ內務省ニ都市計畫調査會ヲ置カル。是レ寔ニ時運ニ應ズル機宜適切ノ措置ニシテ吾等ノ慶賀措ク能ハザル所ナリ。聞クガ如クンバ都市改善施設ノ骨子タル都市計畫法案并ニ建築法案ハ內務省都市計畫調査會ノ調査ヲ經テ今ヤ內閣諮大臣閣下ノ檢察ヲ受ケツヽアリト。吾人鶴首シテ其成立ノ一日モ速カナラン事ヲ祈ル。今ヤ曠古ノ大戰役ノ後ヲ受ケテ國家將來ノ發展ニ資ス可キ樞要ノ施設多シト雖モ、都市改善ノ如キ蓋シ其最要ノ一タルハ疑ヲ容ルヽノ餘地ナシ。之ニヨリテ社會生活ノ安寧ヲ保障シ公共ノ福利ヲ進增スルヲ得テ國力充實ノ實ヲ擧グ可シ。茲ニ書ヲ呈シテ敢テ明鑑ヲ仰グ、願クハ愚請ヲ容レラレ都市計畫法并ニ建築法ノ速ニ制定セラレ實施ノ運ビニ至ランコトニ、盡瘁アランコトヲ切望ノ到リニ堪エズ。



# 會報



## 會誌

一、本會雜誌は第二輯第一號より『日本建築協會雜誌』と改題し、其第二號は去月下旬刊行し、直ちに各會員各贊助員諸君へ夫々配送したり。

一、本誌は從來『關西建築協會雜誌』と名付けられしため主として關西方面の時事に就きて論議せしものゝ如く解釋せられし向も尠なからざりしも、本誌の眞價は既に各府縣知名有力者並びに各學會、協會、學校及各新聞社等諸方面の識者に認められつゝあるは本會欣の幸とする所なり。

一、本誌購讀者の範圍も既に全國に遍く近時申込者急增し第一輯第六號第二輯第一、二號等は本會保管の部數皆無となれるが爲め新申込者の要求に對して遺憾尠ながらず御了承を請はざるべからず。

一、本誌表紙懸賞應募圖案全部は去る三月一日（土曜日）大阪市中央公會堂二階第四號室に於て展覽し會員及贊助員諸氏の御縱覽を請ひたれども前號發刊期日遲延せしため通告の目的を忘分に達し得ざりしは遺憾なりし。

### 交換雜誌

| | |
|---|---|
| 建築雜誌 | 第三三輯第三八六號（建築學會） |
| 建築世界 | 第十三卷第三號（建築世界社） |
| 住宅 | 第四卷第三號（住宅改良會） |
| 鐵道協會雜誌 | 第二十卷第二號（鐵道協會） |
| 工業之友 | 第百四十二號（工手學校） |
| 內外建築時報 | 第十二卷第三月號（內外土木建築時報社） |
| 工業之大日本 | 第十六卷第三號（工業之大日本社） |
| 電氣學會雜誌 | 第三百六十七號（電氣學會事務所） |
| 鐵と鋼 | 第五年第二號（日本鐵鋼協會） |

### 寄贈雜誌

工業評論　通俗衛生
オートモビル（第七號）木材新聞
早瀨塗料商報　ペイント商報
大工業（第二卷第三號）造船鐵工時報
日本美術協會報告（第四輯）
大橋月報

## 新名譽賛助員

一、第二十回例會の決議により今回左記諸氏を本會名譽賛助員として推選せり

大隈重信　莊田平五郎
德川賴倫　ジョシア、コンダー
北條時敬　山川健次郎
眞野文二　荒木寅三郎
福原鐐太郎　曾彌達藏
辰野金吾　古市公威
岡喜七郎　池田宏
床次竹次郎　中橋德五郎
後藤新平　水野錬太郎
井上友一　田尻稻次郎
有吉忠一　久保田政周
松井茂　佐藤孝三郎
馬淵鋭太郎　安藤鎗介
清野長太郎　鹿嶋房次郎
湯淺豐太郎　關一
直木倫太郎　岩田成實
清水熙　緒方正清
佈崎欽吾　砂川雄峻
武田千代三郎　土居助三郎
伊藤眞雄　片岡直溫
井原百介　今井嘉幸
紫安新九郎　白河二郎
金澤仁作　本山彦一
村山龍平　井上準之助
土方久徵

## 新入會員

一、左の諸氏は第二十一回例會の決議に基き今回會員として入會せられたり。

小松勇藏　中一良
高松吉三郎

一、左記氏は今回理事會の決議により特別賛助員として入會を承諾せり。

廣江文彦

一、左の諸氏は今回理事會の決議により普通賛助員として入會を承諾せり。

片山菊治郎　木村貞吉
加藤一男　森泰治
山崎萬壽夫

## 役員改選

一、左の三氏は本月を以て任期滿了せり

池田實　波江悌夫
瀨戸文吾

一、第二十一回例會に於て理事長改選の結果左の如し。

理事長　片岡安（重任）五十六票
次點　宗兵藏　六票

一、第二十一回例會に於て理事中數改選をなせり其結果左の如し。

新理事　設樂貞雄　當選）四十三票
新理事　舟橋喜一（當選）三十七票
新理事　宗兵藏（當選）三十二票
次點　葛野壯一郎　二十五票
次點　木子七郎　十三票
次點　小林悉　八票

## 第七部委員會

一、第七部委員會に於ては三月上旬小會を開き互選を以て委員長を選出せり。

委員長　瀨戸文吾

一、更らに協議の結果新委員を增加し、之を二組としたり。

甲組　建築材料の產地、生產額及需用供給の關係其他の調査
乙組　建築材料の形狀寸法（主として市場寸法）の調査

一、委員分擔左の如し。

甲組委員

河合幾次　松本禹象

舟橋喜一　田中勤
（以上舊委員）
須川廉太郎　谷民藏
新海正綱　熊澤榮太郎
吉木久吉　岡村德一郎
森正藏
（以上新委員）

乙組委員
石田信夫　設樂貞雄
村井三吾　木子七郎
（以上舊委員）
小林悉　田中綱
田中豊太郎　佐藤彰美
伊藤幸太郎　青田忠時
波江悌夫　池谷仙太郎
小笠原劍
（以上新委員）

## 會合

### 理事會

日時　大正八年三月五日午後六時―九時
會場　大阪倶樂部
出席　片岡　野村　瀨戸　波江
記事
一、新入會希望者三名につき詮衡する處ありたり。
一、本會々計整理に關する件につき協議する處ありたり。
一、本月例會は役員改選をなすべきにつき打合する處ありたり。

### 第廿一回例會

日時　大正八年三月十七日午後六時―九時
會場　中央電氣倶樂部
出席　片岡、瀨戸、池田(實)波江、大林、牛村、内藤(太)南、金子、岡村、八尾、青田、吉田、田中、山脇、平塚、古河、山崎、菱田、松保、阿部、吉木、能村、北海、呼子、谷、中川、瀨戸(強)片山、伊藤、(正)須川、佐藤(彰)阪井、鈴木、原科、境、高橋、小寺、井上(準)川盛、大野、竹平、權藤、井上(眞)藤野、淺井、小林、長田、竹中、吉田、熊澤、村野、松田、舟橋、岡本、浦、山口(博)谷本、安立、池谷、岡部、日田(養)河合、池村、設樂、佐藤(四)小谷(書記)山崎(書記)江村(編補)

## 記事

一、今回は役員改選等の重要事項ありしため會員出席者六拾七名に達し最も熱心なる討議を竭し近來罕に觀るの盛況を呈せり。
一、午後六時半片岡氏座長席に着き開會を宣し波江主記をして會務報告をなさしむ。本月一日大阪市中央公會堂にて開催せし本誌應募圖案展覽の件、新名譽賛助員より回答ありたる快諾の諸狀及第七部委員會等に關して説明する處ありたり。
一、次いで座長は新入會員の詮衡をすべき旨を述べ其方法に就いて諮るや、青田氏動議を提出して紹介者及理事會の調査を尊重して形式上の手續を廢止せん事を希望し、田中(豊太)氏之に賛す波江理事會則に依りて例會の決議を重すの意を述べ、結局投票採決を廢して詮衡するの可否を採決せしも、舟橋氏より異議あり採決方法と詮衡とは別問題なりとし漸く論議起る。
一、斯くて瀨戸理事の注意あり、會則變更となるべき動議を徹回し、方法は投票に代ふるに擧手を以てすることに一決し、主記は各入會希望者の履歴書を

期讀し、各已につき賛否を諮り孰れも大多數を以て入會を承諾することゝなれり。

一、次いて小笠原氏より動議あり詮衡方法の簡便を計るために此際會則を變更し會員詮衡は理事會に一任すべしとの議を述べたれども會則變更に關する手續に一考の餘地あるのみならず出席人員尚全會員の三分の一に足らざるを以て討議する事も得ざりき。

一、波江理事代つて座長となり役員改選に入る、座長は先づ理事長改選を決行する旨を宣し選擧に關する會則を說明し無記名投票なるべきこと及姓名を明記することを注意する所あり、且つ會員の要求に應じて理事者側の希望候補として片岡氏を推し出席者總數六拾四名の投票の結果別項の如く片岡安氏理事長に再選せり。(滿堂拍手)

一、次いて理事改選に移り、座長は現在理事半數(三名)の任期は本月を以て終了し茲に三名の新理事を選出する旨を述べ、無記名連記投票にするを注意し且つ理事會より九名の候補者を推選せしが、投票の結果(此時總數六十七名)設樂眞雄、舟橋喜一、宗兵藏の三氏當選せり。(滿堂拍手)

一、暫時休憩の後午後八時半再開、片岡氏より理事長重任の挨拶あり、更らに座長となり既に去る十五日衆議院を通過せる「都市計畫法案」及「市街地建築法案」の二大法案はやかて貴族院をも通過すべし、此の一大法案に關し昨年一月以來大なる努力を持續せし本會は茲に兩院通過後に於て大祝賀會を開催しては如何と諮り其方法施設等については理事會に一任する事となれり。

一、次いて當日出席せし新任理事設樂、舟橋兩氏は就任の挨拶を述べられ、舊理事池田氏亦一場の挨拶あり、波江氏は進んで編輯補の職に就かん事を希望せられ、瀨戸氏は第七部委員會の性質に關して說明せらるゝ所あり、座長も各部委員會の努力を要求せらる。

一、今や本夕の例會も閉ぢんとするに方り波江主記は本會の將來に關し某神社の護符を得たりと稱し左の占斷句を朗讀す。

本協會の現狀に就いて

家道生荊棘　兒孫防戊威
香前祈福厚　方得免分離

本協會の將來に就いて

漸如濃雲散　看々月再明
逢春華菜秀　雨過竹重青

一、時に九時座長則ち本夕の空前なる盛會と會員諸氏の熱心なる討議を祝し一場の挨拶あり拍手の裡に閉會す。

## ◆編輯だより◆

▲本誌が率先提唱しました都市問題は、愈二大法案として衆議院本會議に附せられ、原案通り通過しましたし、やがて貴族院をも無事通過する事でせうが、都市問題の前途は尚遠遠でありまして此重大事業の完成する迄は、飽くまで努力を持續しなければならぬ事であり、本誌は進んで爲すべき任務を敢行する積りであります。

▲法學士伊藤眞雄氏の『英國に於ける都市計畫法』の續稿は都合上次號に掲載する事となりました。讀者の御了承を乞はねばなりません。

▲神戸高等商業學校教授阪西由藏氏の『都市の住宅問題』は神戸市都市研究會第一回講演會當日の講演筆記でありますが、全教授の御許容と御校閲を得るの便宜がなかつたことを時記して置きます。

▲工學博士大井清一氏の『都市の水道に就いて』は幸に全博士の御校閲を得ましたのは寔に好都合でありました。尚工學博士直木倫太郎氏の『都市計畫に就いて』の講演筆記は都合上次號に掲載する事といたしました。

▲本號附錄『哈爾賓市内建築規則摘譯』は會員小野木孝治氏より特に寄贈せられたものでありまして、同氏の御厚意を深く感謝いたします。

▲本誌ノ一切は毎月五日を致して居ります、進んで御寄稿なさる諸君は御申越次第原稿用紙を發送致しますから。奮つて御投稿を歡迎致します。

▲本誌購讀御希望の諸君は本會事務所宛御申越相成る樣願ひます。又購讀料金御發送の節は振替口座大阪三九九七五番宛に願ひます。

## 役員及職員

理事長　片岡安
理事　池田寛治（主計）
　　野村一郎（編輯）
　　瀬戸文吾（編輯）
　　日高胖（編輯）
　　波江悌夫（主記）
　　松本萬象
編輯補　伊藤正文
　　佐藤四郎
　　本田登
書記　江村郊
　　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

| | | | |
|---|---|---|---|
| 會員 | 一七八 | 會員（地方） | 三六 |
| 名譽賛助員 | 六六 | 終身賛助員 | 三六 |
| 特別賛助員 | 六 | 普通賛助員 | 二二七 |

## 本誌及廣告料定價表

| 本誌 | 冊數 | 定價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|
| | 一冊 | 金參拾錢 | 貳錢 |
| | 十二冊 | 參圓六拾錢 | 貳拾四錢 |

（每月壹回　廿五日發行）

| 廣告料 | 種別 | 金額 |
|---|---|---|
| | 半頁 | 八圓 |
| | 一頁 | 拾五圓 |
| | 特別頁 | 貳拾圓 |
| | 裏表紙表 | 貳拾五圓 |


大正八年三月二十日印刷
大正八年三月廿五日發行

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人
兼印刷人　伊藤幸太郎

印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

發行所　日本建築協會
大阪市東區今橋一丁目十一番地
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

# 哈爾賓市內建築規則摘譯

義務規則第十九號（一九一五、三一八）



# 哈爾賓市內建築規則摘譯

## 義務規則第十九號（一九一五、三一八）

**第一條** 新ニ各種ノ建築ヲ行ハントスルモノハ市會ノ建築許可ヲ受ケザルベカラズ

**第二條** 建築ハ建築工事ニ十分經驗アリ學識アル技術家ノ監督ノ下ニ行ハルベキモノトス

**第三條** 許可願ニ添付スベキ書類

一、ヲツトマン紙ニ畫ケル詳細設計圖ノ寫（繰引布ニ畫キタルモノ）一通ヲ添附

二、監督技師ノ請書

**第四條** 圖面ハ左ノ如ク畫クベシ

一、ゼネラル、プラン地區、道路同家屋街幅地區面積等ヲ付スコト

二、各部ノ詳細圖、煖房、煙筒、鐵梁（壁ノ部分ニ於ケル兩端ヲ示セバ足ル）柄ヲ示スコト

三、斷面圖、表階段、裏階段、人道構內ノ高低

平面、斷面圖共、建築物全体及各部ノ大サ壁ノ厚サ各室ノ面積、構內人道ノ高低ハ數字ニテ示スコト

四、繪具色別左ノ如シ

（イ）現在家屋ハ平面詳細斷面圖共石（煉瓦ヲ含ム）ノ部分ハ濃洋紅、木ノ部分ハ黑焦光

（ロ）設計家屋ニ在リテハ石ノ部分ハ濃鉛册木ノ部分ハ藤黃

（ハ）取除クベキ家屋ハ輕ク墨ニテ破フベシ

（ニ）切石積並磨石積ハ「ネイトラリチーン」「ベトン」赤色班点ヲ有スル「ネイトラリチーン」鐵鑄鐵ノ部分ハ（桁、庇、「バルコン」等）之ヲ畫キ輕ク紺青ニテ破フコト

煖房ハ一部ハ紺青、一部ハ洋紅

煙筒ハ半分對角ニ濃墨

通風ノ道ハ半分對角ニ綠色、（藤色＋紺青）土工、堀取ノ部分ハ淡墨、土盛ノ部分ハ藤黃

**第五條** 側面圖、斷面圖、半面圖ハ縮尺ノ百分ノ一「ゼネラルプラン」ハ五百分ノ一詳細圖ヲ市會ニ於テ必要トスル場合ニハ二十分ノ一

右何レモ單位尺ハ「サーセン」（我七尺四分八毛）分トス

**第六條** 設計圖ニハ地區所在地、所有主、

街路名、地區番號、隣接地區ノ番號ヲ示スベシ

圖面ニハ調製者、家主之ニ署名シ長サ十三「デューム」(一「デューム」ハ我曲尺八分三厘六毛)幅八「デューム」ニ折疊ムベシ

**第七條** 圖面寫ハ市會ニ保存、原本ヲ家主ニ交付ス

**第八條** 石造建築物許可証有効期限五箇年　木造仝上　三箇年

**第九條** 工事開始時日ニ關シテハ豫メ市會ニ届出ザルベカラズ届書ニハ許可書ノ番號監督技師ノ記入ヲ要ス

届出ニ接シタルトキハ市會ハ表札並ニ檢査帳ヲ發給ス

**第十條** 表札ハ建築工事場ニ掲ゲ許可書檢査帳ハ之ヲ工事場ニ備ヘ置クベシ

**第十一條** 工事場ノ街路ニ面シタル部分ハ一体ニ「アルゲン」四分ノ三(一「アルゲン」ハ我二尺三寸四分六厘)以上ノ塀ヲ施スベシ

足場材料置場トシテ市會ノ許可ヲ得ル道幷ニ車道幅五分ノ一以内ヲ使用スルコトヲ得

右ノ場所ニハ一「サーゼン」以上ノ塀ヲ施シ且通行用トシテ車道ノ表面ヨリ高キコト

○、一○「サーゼン」幅ニ「アルゲン」四分ノ一ノ板道ヲ設ケザルベカラズ

**第十二條** 勞働者用便所ヲ設クベシ

**第十三條** 人道ニアル電柱、樹木、水道栓ハ之ヲ保存スベシ

**第十四條** 基礎工事着手ノ時日工事終了ハ之ヲ市會ニ豫報ス可シ

**第十五條** 各地區ハ二百平方「サーゼン」以下ヲ別ッコトヲ得ズ

**第十六條** 仝一地區内ニアル二軒以上ノ家庭ハ街路ヲ通ズルタメ相互間ニ左記道路ヲ設ケザルベカラズ

一、道路ノ上部全然開放セシトキハ幅六「アルゲン」以上

二、通路上部側部不燃燒ニシテ厳ハレアル場合ハ幅四「アルゲン」二分ノ一以上

右通路ニハ石ヲ敷カザルベカラズ

**第十七條** 普通ノ庭以外ニ特ニ建物内部ノ住居ニ用ヒザル場所即チ階段室、廊下、便所、物置、納屋、其他ヘ光線ヲ取ル爲メ明取ヲ中庭ニ設クルコトヲ得

但シ右中庭ハ最少ノモノニシテ如何ナル形式ニヨリ設計セラルヽ共其坪數ハ一邊ニ於テ一「サーゼン」ノ正方形ヲ畫キ得ベキモノタルヲ要ス

明取ヲ中庭ヨリ他ノ庭ヘハ中庭掃除用戸締付通路ヲ布敷スルコトヲ要ス

之等通路ハ階段室ヲ通過シ取付クルコトヲ得

屋根ナキ中庭ヘハ一般庭内ノ雨水落ヘ通ズル水樋ヲ設ケ而シテ屋根付中庭ニハ通風用裝置ヲ施スコトヲ要ス

明取リ中庭ヘ汚水又ハ汚物用穴及塵芥函ヲ設クルコトヲ得ズ

宅地ノ左方及後部境界線ニアル明取リ用中庭ハ低キ不燃性ノ障壁(防火壁)ニテ隣接地區ト建物ノ全高サヲ區隔スルコトヲ要ス

**第十八條** 境界線ニ面シ其上ニ立ツベキ壁ハ防火壁ナルヲ要ス

**第十九條** 同一地區内ニアル建物相互ノ間隔ハ二「サーゼン」以上ナルベシ

**第二十條** 煉瓦造家屋ニハ長サ又ハ幅十二「サーゼン」毎ニ防火壁ヲ設ケザルベ

カラズ

**第二十一條**　街路ニ面シタル煉瓦家屋ノ高サハ人道ノ表面ヨリ屋根ノ下端迄ヲ測リ街路ノ幅員以上アルコトヲ得ズ

**第二十二條**　新市街ニアリテハ不燃燒質ノ壁并ニ屋根ヲ有スル家屋ニ限リ之ヲ建築スルコトヲ得

**第二十三條**　煉瓦造ハ木造ト連絡セシムベカラズ

**第二十四條**　煉瓦造家屋ニ煖房設備アルモノハ外壁ノ深サ一「サーゼン」以上タルベク内部ノ壁ハ深サ〇、六六「サーセン」以上トス

**第二十五條**　煉瓦造ニアリテハ階段ノ周圍壁及階段ニ到ル道路ハ周圍ハ不燃質材ヲ以テセザルベカラズ

外壁ノ厚サハ〇、三〇「サーゼン」以上タルベク階段周圍ノ壁ハ第一階ニテハ〇、二四「サーセン」以上第二階ニテハ〇、一八「サーセン」アルヲ要ス

**第二十六條**　防火壁ハ屋根ノ上〇、二五「サーゼン」ヲ超ユルモノトス

**第二十七條**　工事用中勞働者用「バラック」ヲ設クルコトヲ得

但シ其旨市會ニ通知スベシ

**第二十八條**　煉瓦造家屋ノ壁ニ木又ハ其他ノ燃燒材ニテ穴ヲ造ルコトヲ得ズ

**第二十九條**　住居用室内部ノ高サハ四「アルゼン」以上ナカルベカラズ室ハ乾燥シ光線アリ通風ノ設備ナカラシメザルベカラズ

一、濕氣ヲ防グタメ凡テ煉瓦壁ヲ通シ最下床ニ防水層ヲ施スベシ

二、外壁ノ外塗ハ壁積終了後翌年ノ建築時期前ニハ之ヲ行フコトヲ許サズ

三、内塗ハ屋根ヲ造リタル後六週間ヲ經過スレバ之ヲ行フコトヲ得外戸ハ必ズ二重ナルベシ

四、居室ノ温度ハ列氏十四度以上ヲ保チ得ル樣ニセザルベカラズ

五、居室ニ光線ヲ與フルタメ窓ノ面積ト床ノ面積トハ一對八以上ナルヲ要ス

六、天窓ハ室内花園、廊下ノ上ニ限リ之ヲ許ス

**第三十條**　屋根裏ノ構造

一、屋根裏ヲ以テ本規則規定ノ家屋ノ高サヲ增スコトヲ得ズ

二、屋根ノ勾配ハ四十五度以上タルベシ

三、屋根ニ到ル階段ハ不燃質材ナルヲ要ス其周圍亦然リ

四、屋根裏ノ最高部ノ高サハ三「アルゼン」半以上ナルヲ要ス

**第三十一條**　石造建物ニ中二階腰折屋根（マンサードルーフ）ヲ建造スルニハ次ノ條項ニ遵據スルコトヲ要ス

一、中二階ハ本規則ニテ規定セラレアル建物ノ高サノ範圍ヨリ大ナルコトヲ得ズ

二、軒蛇腹上腰屋根ハ四十五度以上ノ傾斜ヲ附スルコトヲ要ス

三、中二階ニ至ル階段ハ階段室ヲ有セル不燃性物タルコトヲ要ス

四、建物ノ横側及縱側ノ石造障壁ハ中二階ヲ經テ天井ニ通ズルコトヲ要ス

五、中二階ニ取付ケアル凡テノ内部ノ隔板隔壁及天井ハ漆喰塗トス

六、中二階ノ高サハ腰屋根ノ上部ニ於テ三「アルゼン」半以上タルベシ

**第三十二條**　地下室

一、天井ハ人道ノ表面ヨリ高キコト一「アルヂン」十二「ウエルショーク」以上ナルベシ構内ニテハ構内ノ表面ヨリ起算ス

二、高サ三「アルヂン」半以上

**第三十三條**　床壁ハ人道又ハ構内地面ノ表面以上〇、一〇「サーゼン」ノ所迄防水ノ設備ヲナスベシ

**第三十四條**　金屬製「ベチカ」ハ建物ノ木造部ヨリ十八「ウエルショーク」ヲ二「ウエルショーク」ハ一寸四分六厘餘以上隔ラシムルコトヲ要ス

木造間仕切ノ附近ニ煉瓦製「ベチカ」ヲ取付クル場合ハ「ベチカ」ノ上部外面ヨリ木造部ニ至ル間仕切ハ六「ウエルショーク」以上タルベシ

「ベチカ」ノ上部面ハ天井或ハ梁ノ上部ヨリ八「ウエルショーク」以上ヲ離サシムベシ

間仕切ノ間ヘ裝置セラレアル「ベチカ」ハ木造間仕切及其他ノ木造部分ヲ六「ウエルショーク」以上ノ煉瓦層ニテ隔絶セシムベシ

**第三十五條**　各焚火口ノ前面木造床板ハ十二「ウエルショーク」以上ノ平方形金屬製板ヲ以テ覆フベシ

住宅内ノ「ベチカ」ヲ石炭ニテ焚ク場合ハ「ロストル」及鑄物製二重取付裝置アルモノニ限ル

焚火後烟道閉鎖裝置具則チ爐蓋或ハ斷板ハ石炭ニアル採煖式「ベチカ」ニ取付クルコトヲ得ズ又煉瓦ニテ代用セル「ロストル」（鑄物製「ロストル」ニアラザルモノ）モ亦之ガ使用ヲ許サズ

備考

特種ノ樣式及組立ノ煖房具ニ必要ナル防火方法ハ市役所ニ於テ現場ノ狀況ニ應ジ其都度之ヲ定ム

**第三十六條**　烟道

「ベチカ」其他煖房裝置具ノ烟道ハ煉瓦粘土、鑄鐵及鐵製トスルコトヲ得

**第三十七條**　烟筒壁ノ最モ薄キ部分ニテモ三「ベルショーク」即チ煉瓦ノ半枚以上ナルヲ要ス

**第三十八條**　煉瓦造烟筒ハ四「ウエルショーク」四角以上ナルベシ

**第三十九條**　煙筒ノ上端ハ屋根ノ端ヲ超ユルコト四「ウエルショーク」以上ナルベシ凡テ煙筒ハ木ノ部分ト接近セシムベカラズ

**第四十條**　煙筒ニハ掃除口ヲ施スベシ

**第四十一條**　煙筒ト木材ノ部分トノ接觸スル場所ニハ兩者間ノ距離ヲ九「ウエルショーク」乃至十二「ウエルショーク」トシ其接觸ヲ防グ方法ヲ講ズベシ

**第四十二條**　鐵板製煙道ハ屋根上ニ於ケル煉瓦製煙筒ヲ延長スル爲、或ハ又一階内ニ限リ烟道ト採暖器トノ接合スル爲之ヲ許可ス但シ後者ノ場合烟道ガ煉瓦又ハ不燃燒質ノ間仕切ヲ貫通スル場合ニ限リ且烟道ノ一角毎ニ堅ク閉鎖セル蓋付掃除用ノ小孔ヲ設クベシ之等烟道ハ木材ガ漆喰塗ニアラザルトキハ木造部ヨリ十六「ウエルショーク」以上ノ距離ヲ保タシムルコトヲ要ス

木造間仕切ヲ通ジテ烟道ヲ取付ケル場合ハ其都度詳細ナル設計圖ヲ提出シテ許可ヲ受クベシ

**第四十三條**　粘土或ハ鑄鐵製烟管ヨリナル烟道ハ煉瓦積下敷付又ハ下敷無シト雖モ建設スルコトヲ得

但シ後者ノ場合ハ木造部及其他ノ建築

物ヨリノ距離ニ關シテハ煉瓦造烟道ニ關スル規定ニ後者ノ場合ハ鐵板製烟道ニ關スル規則ニ據ルベキモノトス

**第四十四條** 總テ階段ハ不燃燒材ヲ用イテ造ルベシ

煉瓦造二階以下ノ建物ニシテ且階段ヨリ終端迄ノ距離六「サーゼン」以下ナルトキハ階段一箇ナルコトヲ得

敷箇ノ階段ヲ要スル場合ニハ各箇ノ距離十二「サーゼン」ヲ超ユルコトヲ得ズ

**第四十五條** 煉瓦造家屋ニアリテハ裏階段ハ必ズ屋根裏ニ通ゼシメザルベカラズ且階段ノ周壁ハ屋裏ニ達セシムルコトヽシ其上端ハ不燃燒材ニテ之ヲ蔽フコトヽスベシ

防火壁ヲ以テ區分セラレタル屋根裏ノ一劃毎ニ一階段以上ヲ設クベシ

**第四十六條** 木造二階建或ハ中二階付平家建家屋ニ於テハ二階段以上タルベシ而シテ 階段ハ二階或ハ中二階ニ通ジ他ノ一階段ハ屋根裏ニ通ゼシムルモノトス

階段室ノ内壁ハ毛壇ヲ張リ漆喰塗トシ階段裏ハ板張トシ更ニ毛壇ヲ張リ漆喰塗リトスベシ階段室ハ丸太木ヲ用フベシ

備考

一住宅向丸太木造二階建家屋ニ於テハ一階段ノミ取付クルコトヲ得

**第四十七條** 二階建木造家屋ニ於テハ一箇ノ木造階段ヲ取付クル代リニ本規定第四十四條ニ準據シ石造段室ヲ有スル一箇ノ不燃燒性階段ヲ設定スルコトヲ得

**第四十八條** 階段ノ各段ノ高サハ四「ウエルシヨーク」ヲ超ユベカラズ又廣サハ六「ウエルシヨーク」以上ナルヲ要ス

**第四十九條** 階段ノ爲設ケル廣場ハ其幅階段ノ幅ヨリ大ナルヲ要ス

**第五十條** 階段ニ達スル通路幷ニ數家族用廊下ハ幅二「アルヂン」以上ナルヲ要ス

**第五十一條** 煉瓦造ニアリテハ「バルコン」不燃燒材ニテ造ルベシ「バルコン」ニ「アルヂン」以上突出スベカラズ

**第五十二條** 支關、庇ノ下部ニハ高サ四「アルヂン」以上ノ通行ヲ妨ゲザルコトヽスベシ二「アルヂン」以上外部ニ突出スル庇ハ金屬材ニテ支ヘザルベカラズ但シ右支ヘハ人道上ニ設クルコトヲ許サズ

**第五十三條** 居住用ニアラザル地下室ノ光線取リハ人道ノ表面ニ造ルコトヲ許スベシ而シテ右ハ必ラズ鐵網又ハ厚キ玻璃ニテ蔽フベク八「ウエルシヨーク」ニ限リ地域外ニ出スコトヲ得

**第五十四條** 側壁ニ附スベキ裝飾ハ地區境界外ニ出ツコトハ「ウエルシヨーク」ヲ超ユルコトヲ得ズ之等突出シタル裝飾ノ全幅員街路ニ面シタル建物ノ長サ三分ノ一以下タルベシ

**第五十五條** 屋根ハ不燃燒質材ナルヲ要ス

屋根ニハ屋根裏各部分ヨリ各出口一箇以上ヲ設ケザルベカラズ

**第五十六條** 雨滴レノ隣地ニ落ツルヲ許サズ人道ニ面シタル部分ハ雨滴ニテ通行人ヲ煩ハサヾルコトヽスベシ

以上

# 廣告目次


ハ、原安商會　二八
ニ、日本石綿盤株式會社　二七
日本コルク株式會社　二〇
ヘ、米國貿易會社　一四
ト、東松工作所　二二
オ、大阪窯業株式會社　二六
大阪煖房商會　(前)一
大阪鐵筋混凝土工務所　三一
大野式特許品營業所　一五
カ、河津商店裝飾部　三二
ヨ、横河橋梁製作所　一九
タ、高田商會　一七
田村商會建築材料部　三三
ナ、土木建築内外材料合資會社　二三
ム、村井工業所　三四
ウ、宇野澤組スティンド硝子製作所　二一
ノ、野澤幸三郎　(前)二
マ、松尾和助商店　三一
ケ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　一〇
コ、コルク工業合資會社　一八
エ、榮進社　三〇
淺野スレート株式會社　二四
淺海商店　一六
キ、北木島石材株式會社大阪出張所　二一
メ、明正社　二九
ミ、みよし組大阪支店　裏表紙裏
ミツワ電氣株式會社　(前)二
モ、木材商案内　九
セ、石材商案内　九
ス、須賀商會　二五
巢鴨製作所　裏表紙表